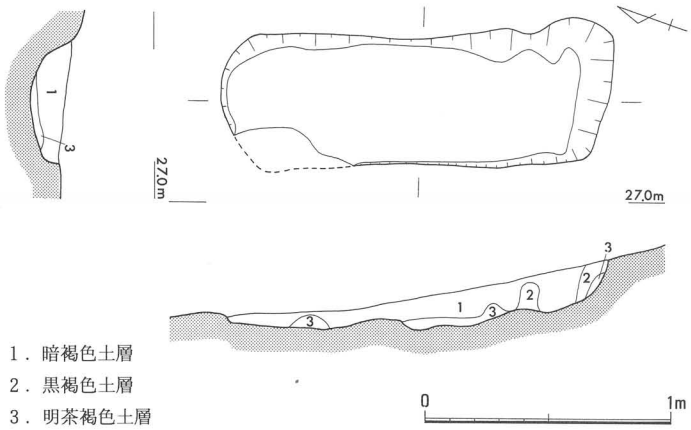
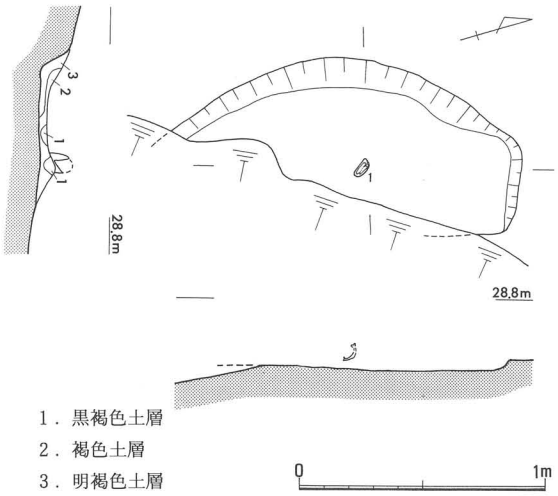
珠状つまみがつく坏蓋で，内面に非常に短いかえりを有している。約2/3が現存する。３は頂部の尖った宝珠状つまみを有する坏蓋の破片である。４は高台付坏で，体部口縁を欠いている。底部は平底ではなく，体部から底部にかけての断面は大きく弓なりになるのが特徴で，高台は低く肥厚したものである。

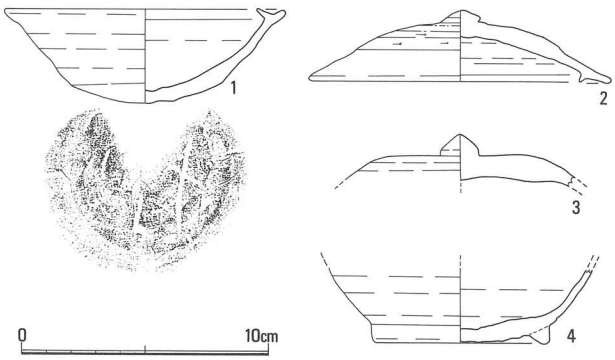


第33図　１区ＳＫ０２実測図（１：30）



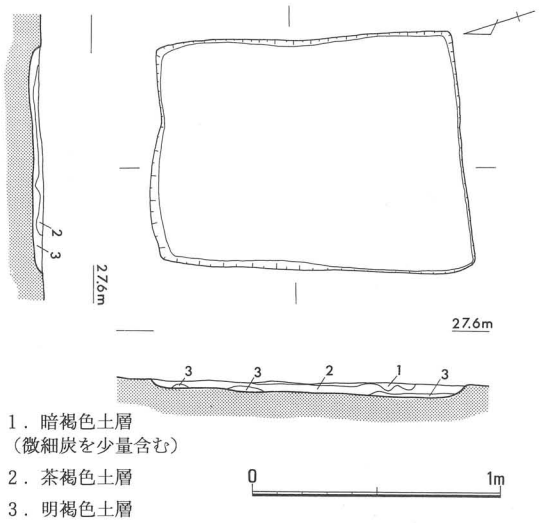
第34図　１区ＳＫ０３実測図（１：30）

ＳＫ０４（第36図，図版25）　調査区の北東側，ＳＫ０３に近い緩斜面で検出した，長辺1.2m，短辺0.9mを測る方形の土坑である。長辺を軸とすると，北々東の向きにある。遺構検出面からの深さは最大で５㎝と極めて浅い。底面は平坦である。出土遺物はみられなかった。他の土坑群とは平面プランが異なり，性格は不明である。

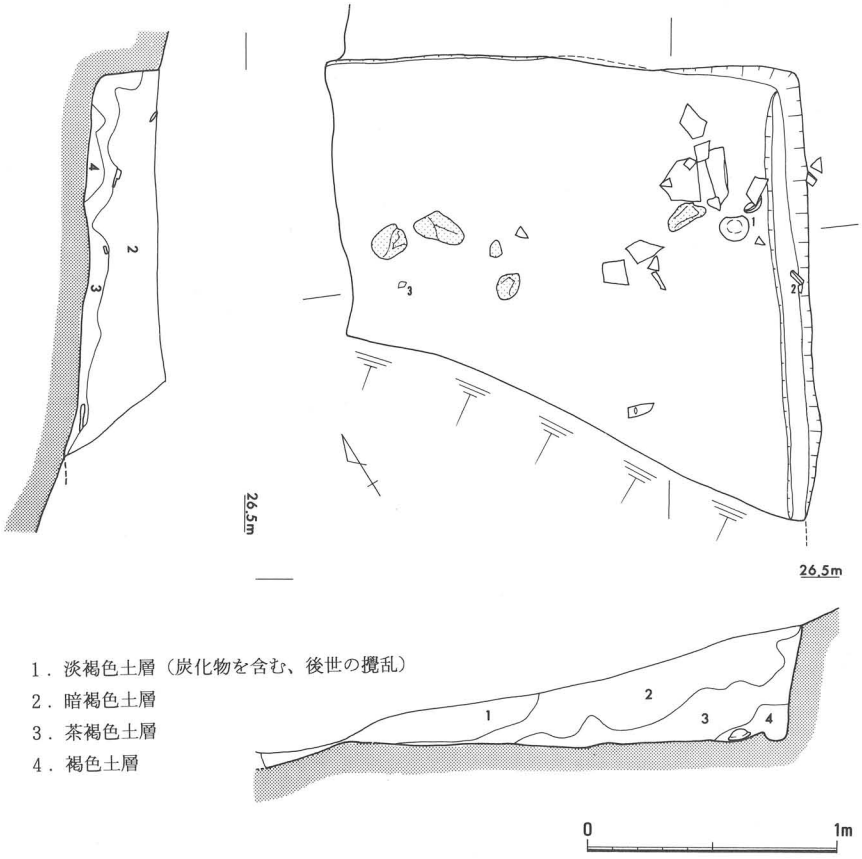


第35図　１区ＳＫ０３及び周辺出土遺物実測図（１：３）

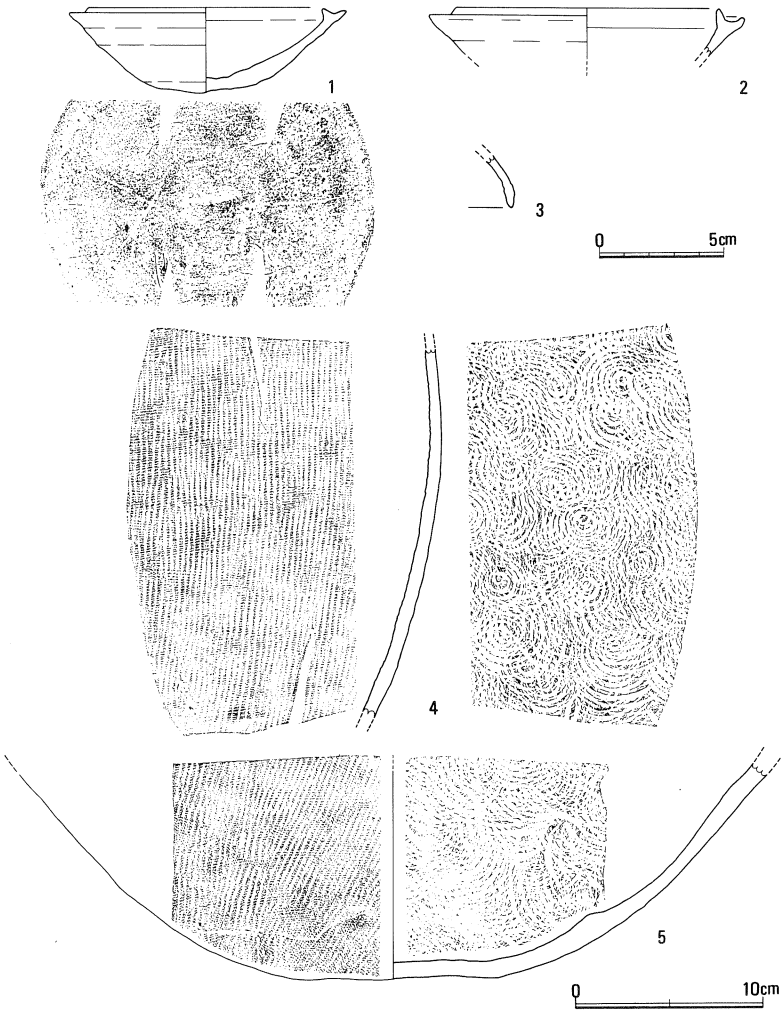
ＳＫ０５（第37図，図版26）　採土工事後のカット面に遺構断面が認められたので，期間中に併せて調査した土坑である。当初設定した調査区の外であったが，他の土坑との関連性がみとめられ，位置的にも近かったので，１区の遺構として扱った。遺構はほぼ直角に隣り合う２辺が残っていることから，方形状を呈する土坑とみられる。南東側の１辺は長さ1.8mまで残存し，壁面は直立気味に立ち上がる。深さは検出面から床面まで45cmであるが，この壁面には幅10cm，深さ４cmの溝が伴う。この南東辺を土坑の基軸とすると，北東から南西方向に向く。北東側の１辺は長さ1.8mで，壁面はほぼ直立する。底面は平坦で，ピットなどは認められなかった。出土遺物には，須恵器坏と甕片があり，うち１点（１）が東側コーナーよりの底面直上で外面を上にした状態で検出された以



第36図　１区ＳＫ０４実測図（１：30）



第37図　１区ＳＫ０５実測図（１：30）



第38図　１区ＳＸ０５出土遺物実測図（１～３は１：３，４～５は１：４）

外は，覆土中（２層・３層）から出土した。

同出土遺物（第38図，図版29）　１は立ち上がりが非常に短く内傾する坏身のほぼ完形品で，底部外面には直線５本で構成された，左右非対称のヘラ記号が認められる。外面全体に自然釉がかかる。２は同じく立ち上がりが低く内傾する坏身の小片である。３は坏蓋の小片とみられ，口縁は単調に終わる。４・５は甕の破片で同一固体のものと思われる。約1/3程度が残存し，４が胴部，５が底部である。

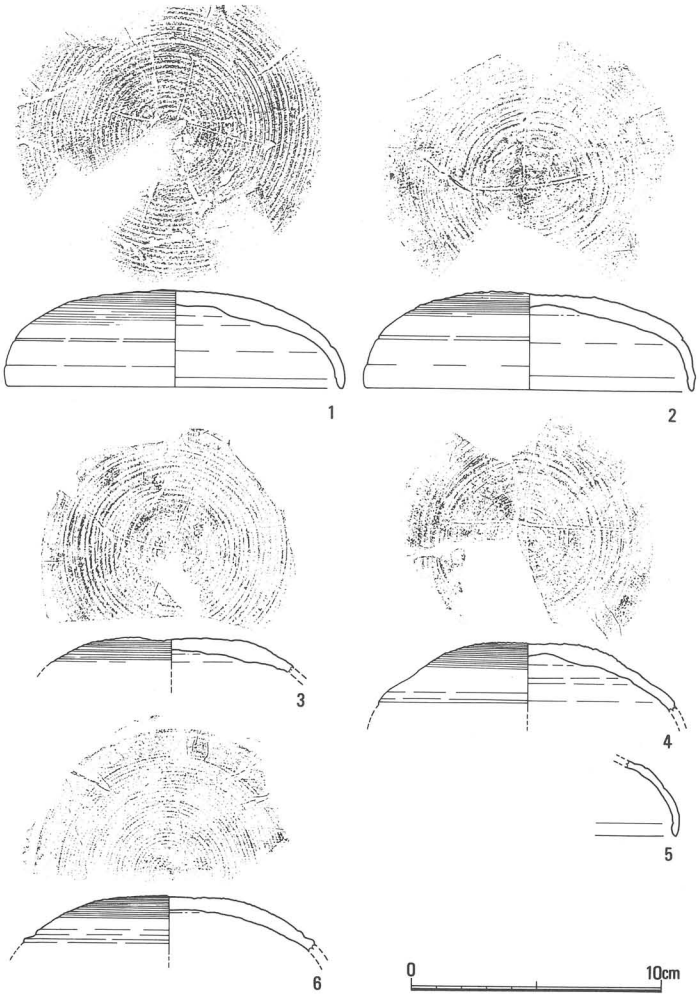
３．１区出土のその他の遺物

１区からは遺構に伴わないが，多くの遺物が出土した。遺物には須恵器・土師器・石器・鉄刀片・陶磁器がある。このうち大半は須恵器であり，ほとんど破片で検出した。出土地点はほぼ全域にわたるが，特に多かったのはＳＸ０１の周辺である。これらのなかには本来この古墳の副葬品であったものが含まれるものと思われる。

須恵器坏・高坏類（第39～43図，図版30～36）　須恵器には器種として有蓋高坏が少なくないようである。しかし，いわゆる蓋坏と有蓋高坏の蓋とを明確に区分することが困難であるため，ここでは便宜上坏・高坏を一括して記述することにした。なお，これらのうちで形態・胎土・焼成・色調な

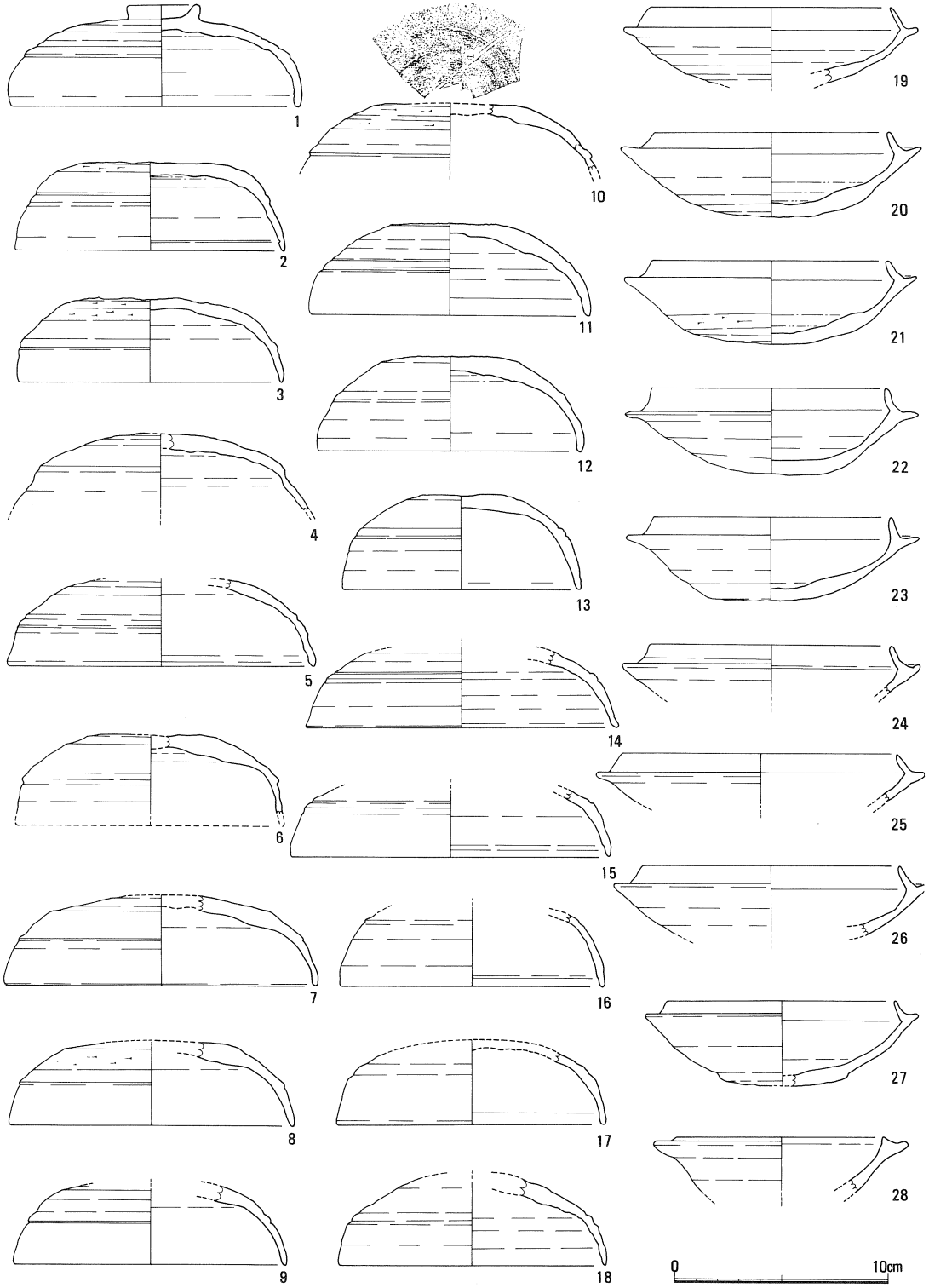
どから高坏としてセット・接合関係の可能性があるものを挙げると，第40図の１＋第42図の６，第40図の11＋第42図の10，第39図の１～５＋第42図の７～９＋第43図の14・15，第42図の12＋第43図の９，第42図の５＋第43図の８などが考えられる。

第39図は，坏蓋のなかでも天井部外面にカキ目ないしはカキ目状痕が施されているものを取り上げた。いずれも有蓋高坏の坏部蓋と考えられる。このうち１～５はおおむね天井部と口縁部とが１条の浅い沈線によって区分されるタイプのもので，口縁端部内面にも細くて浅い線が施されている。天井部外面には板状工具によるとみられるカキ目状の回転ナデが意識的に施され，しかも共通してそのほぼ中央に「×」状のヘラ記号を伴っている。６は天井部約半分ほどの破片であるが，１～４とは少し様相を異にし，天井部外面に丁寧にカキ目が施される。しかし，ヘラ記号は認められない。天井部と口縁部との境には上下に浅い沈線が引かれ，にぶい稜をなしている。



第39図　１区その他の出土遺物実測図（１）（１：３）

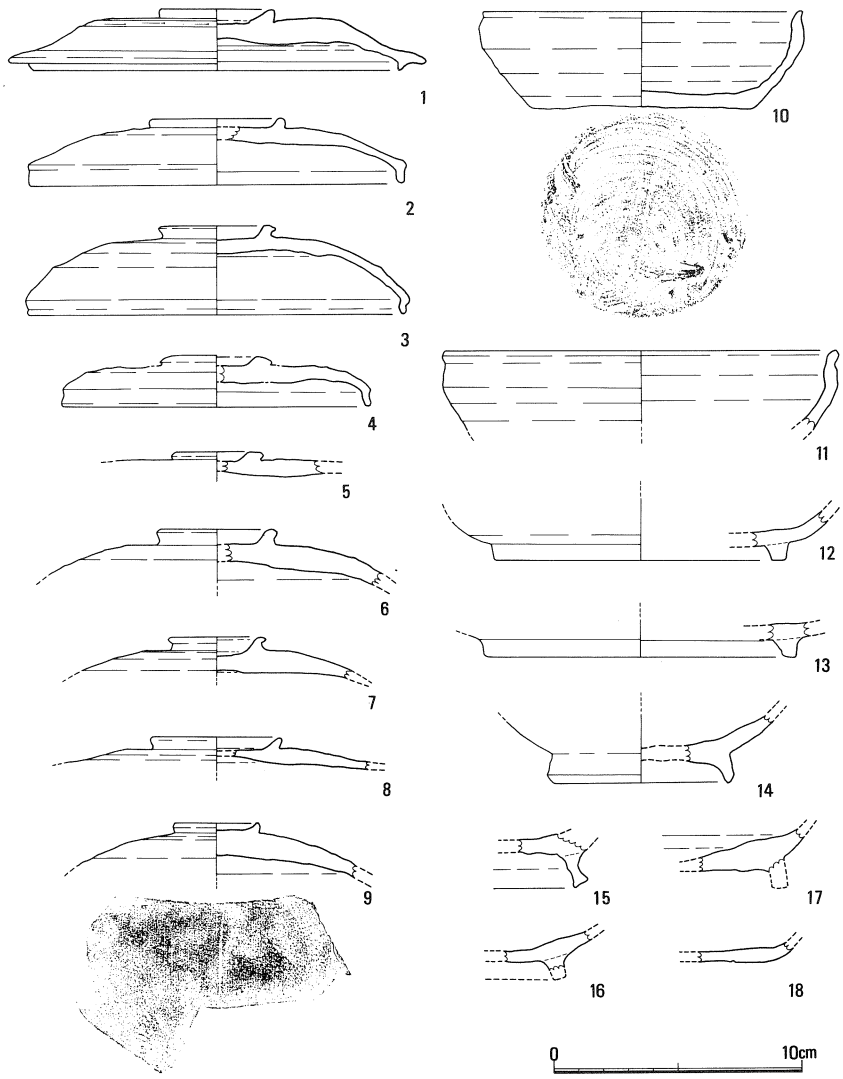
第40図は，坏蓋で口縁部内面に返りの付かない段階のもの（１～18）と，坏身で受部に立ち上がりのつくもの（19～28）を取り上げた。１は頂部に輪状つまみを有するもので，有蓋高坏の蓋とみられる。天井部と口縁部との間に丸味のある稜がつき，口縁端部の内面にはかすかな段が認められる。坏蓋２～18は総じて天井部と口縁部とを分ける稜が曖昧になる傾向のものが多く，口縁端部内面には段を付けないか，あってもかすかな段または沈線でもってアクセントをつける程度である。調整の点でも天井部の回転ヘラケズリがなくなる傾向にあるものが多い。10の天井部外面にはヘラ記号が認められる。坏身19～26は総じて受部の立ち上がりが低く内傾するもので，外面の回転ヘラケズリもさほど多くない。27は立ち上がりがさらに短くなり，底部には回転ヘラケズリが認められ



第40図　１区その他の出土遺物実測図（２）（１：３）

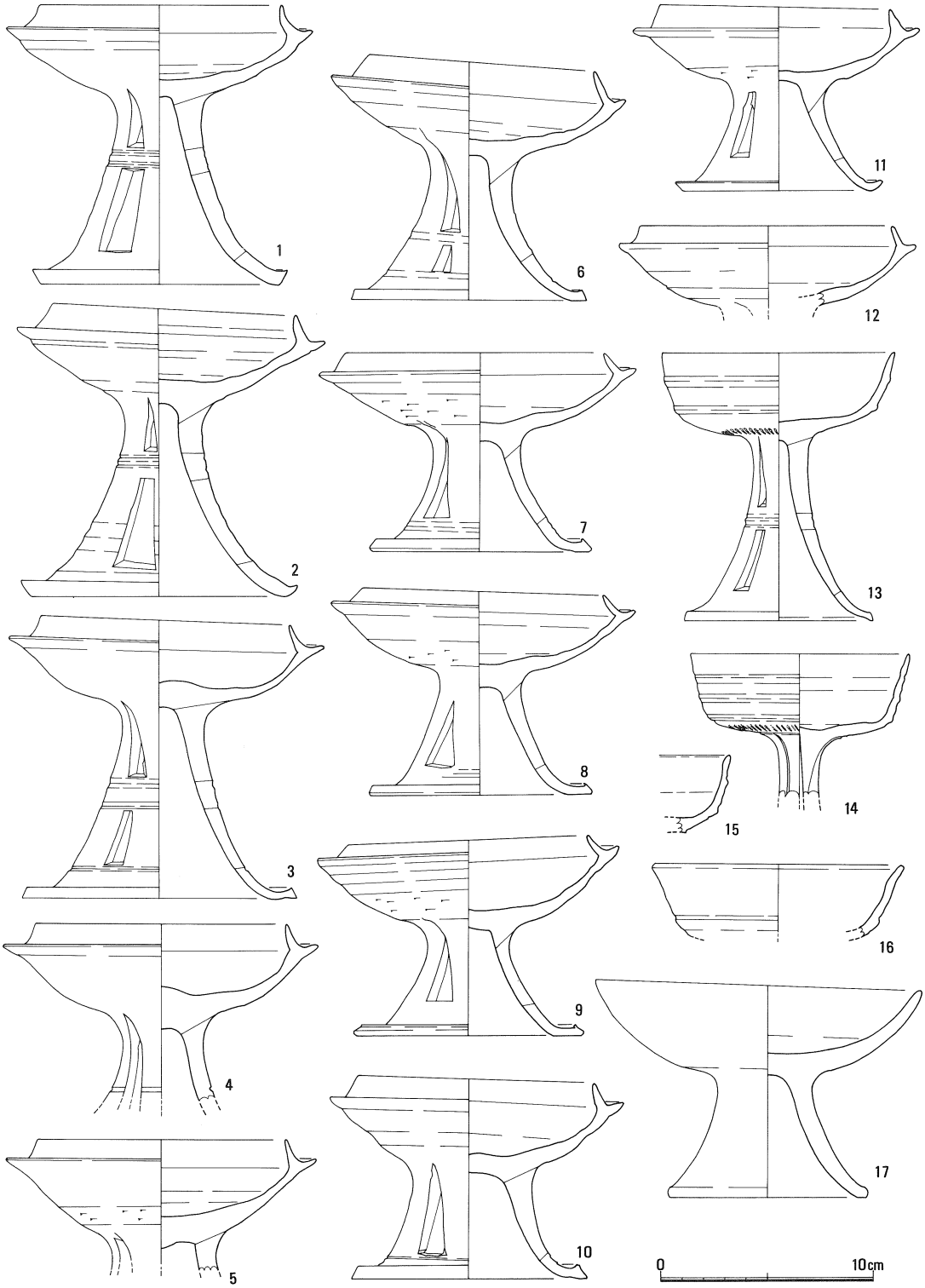
ない。28は立ち上がりが極端に短く，あるいは蓋の可能性もある。

第41図は，坏蓋の頂部に輪状つまみを有するもの（1～9）と，坏で糸きり底または高台付のもの（10～18）を取り上げた。輪状つまみのつく坏蓋のうち，ほぼ全形の分かるものには，1のように内面に返りが付くものと，2～4のように端部を折り返しただけのものとの2種類がある。9の内面にはヘラ記号が認められる。坏10は口唇部を外反させる特徴があり，底部には回転糸きり痕をのこす。底部片には12～17のように高台の付くものと，18のように付かないものがある。18は糸きり痕が認められる。17はあるいは壺の底部かもしれない。

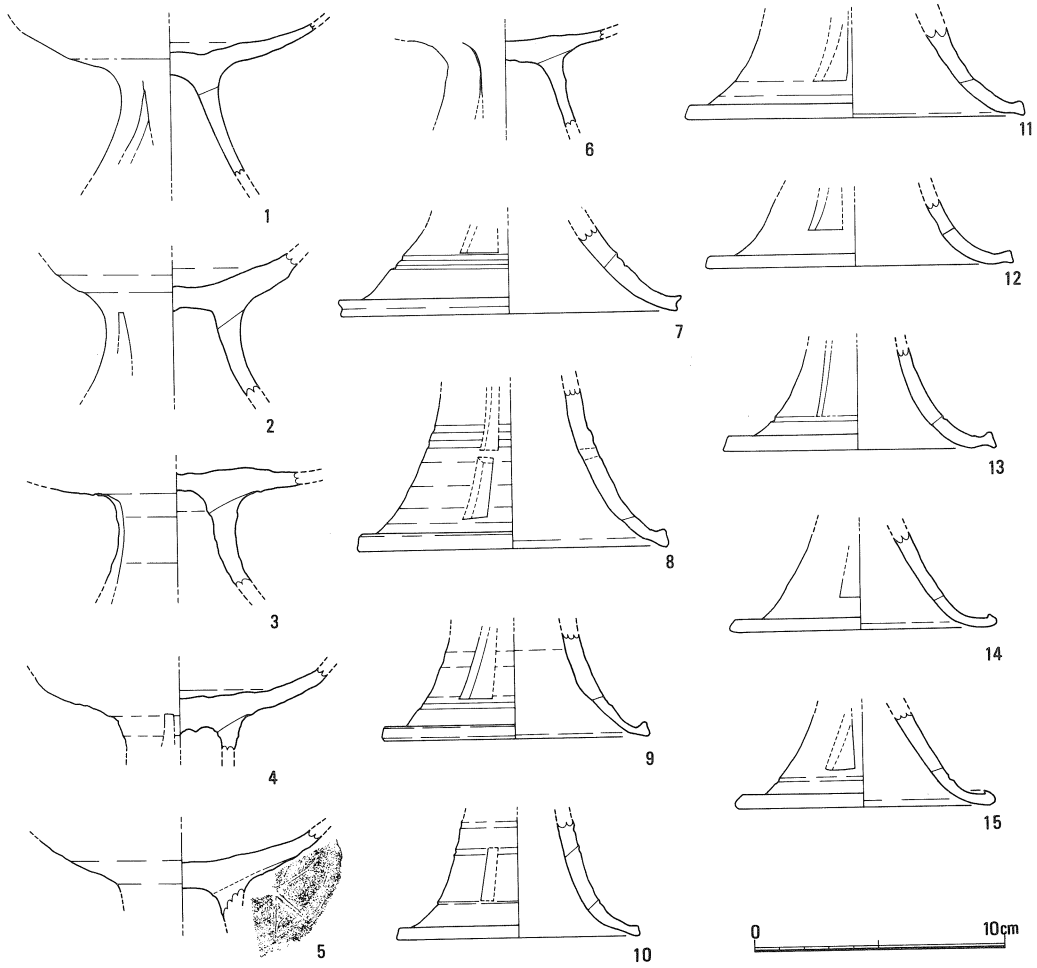


第41図　1区その他の出土遺物実測図（3）（1：3）

第42図は，高坏のほぼ全形が知られるものを中心に取り上げた。有蓋のもの(1～12）と，無蓋のもの（13～17）とがあり，有蓋のものにはさらに脚部がやや長めのもの（1～4）と，短めのもの（6～11）がある。前者は3方向の2段透かしを入れ，その間に2条の浅い沈線を巡らしている。後者は3方向の1段透かしを入れるが，これには1条または2条の浅い沈線を伴うものとそうでないものとがある。16は基本的に3方向の1段透かしのものであるが，1方向に限って2段の透かしを



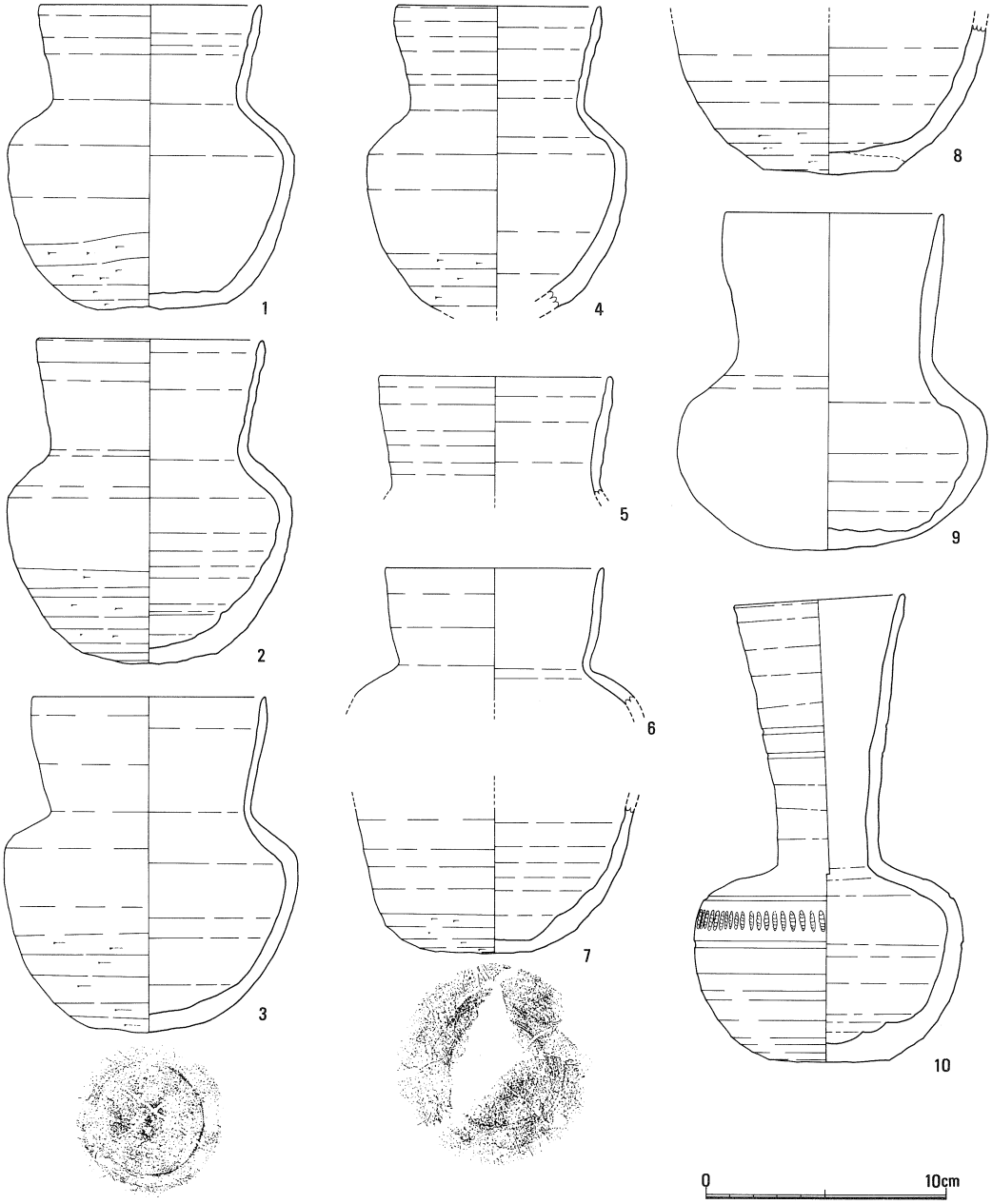
第42図　１区その他の出土遺物実測図（４）（１：３）



第43図　1区その他の出土遺物実測図（5）（1：3）

施している。坏部の受部は，全体的に立ち上がりが内傾するものの，その度合いが強いもの（1・2など）と弱いもの（7・8など）が認められる。脚端部は，平坦面を比較的単純に外傾させたもの（1・2）や，内傾させたもの（3・6～10）があり，後者はさらに上縁の稜線をはっきりさせたもの（7～9）と，内面側にアクセントをつけたもの（3・10）など，さまざまである。無蓋のものでは，13～15は坏の体部外面に低い突帯を巡らすとともに，底部外面には櫛状工具による連続刺突文を施している。13は脚が長く3方向2段透かしを有するものである。16は坏の体部と底部がアクセントによって分かれているが，17はその界線が全くなくなり，脚部も単純に終わっている。

第43図は，高坏の接合部分から脚部が残存するものを取り上げた。1～6は，2方向透かしの3以外はいずれも3方向の透かしを有している。5の外面にはヘラによる刻みが透かしの切り込みとは別に認められる。7～15も3方向の透かしを有するものと考えられるが，これには浅い沈線が伴うもの（7～10・13・15）とそうでないもの（11・12・13）がある。脚端部も，第42図で触れたと

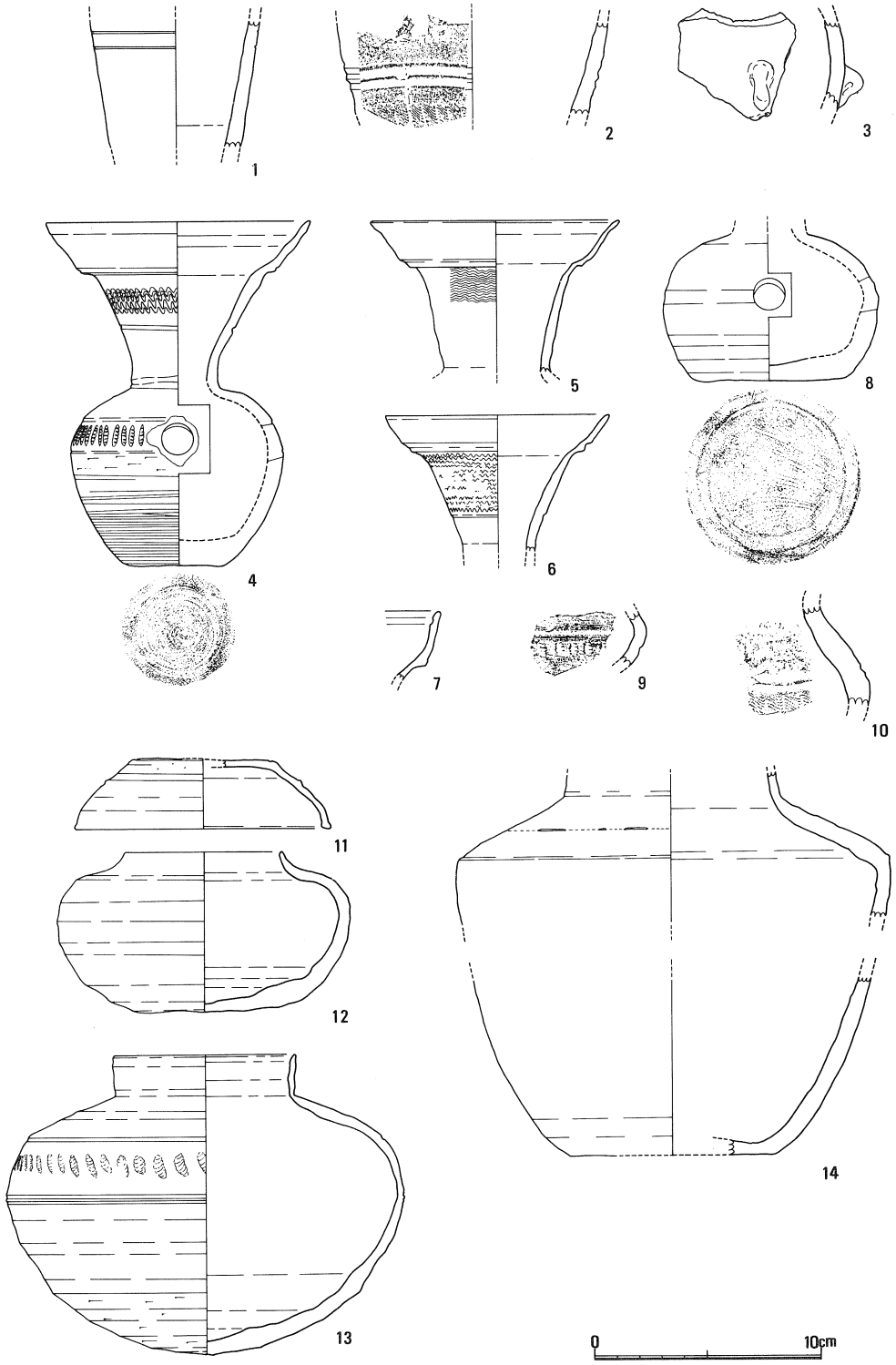


第44図　1区その他の出土遺物実測図（6）（1：3）

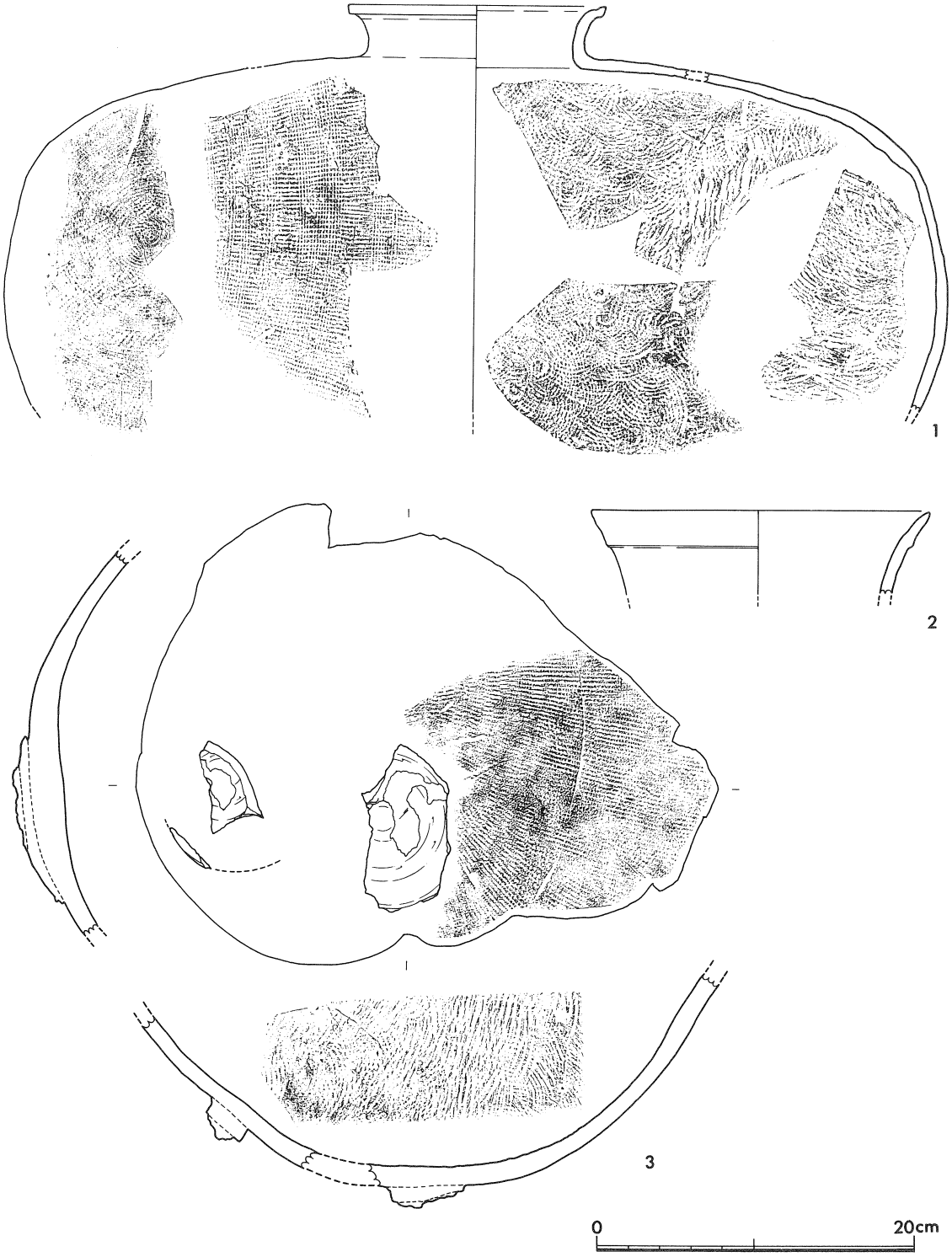
同じように，いくつかのパターンが認められる。

須恵器壺・甕・瓶類（第44～47図，図版37～39，ただし9は土師質。）

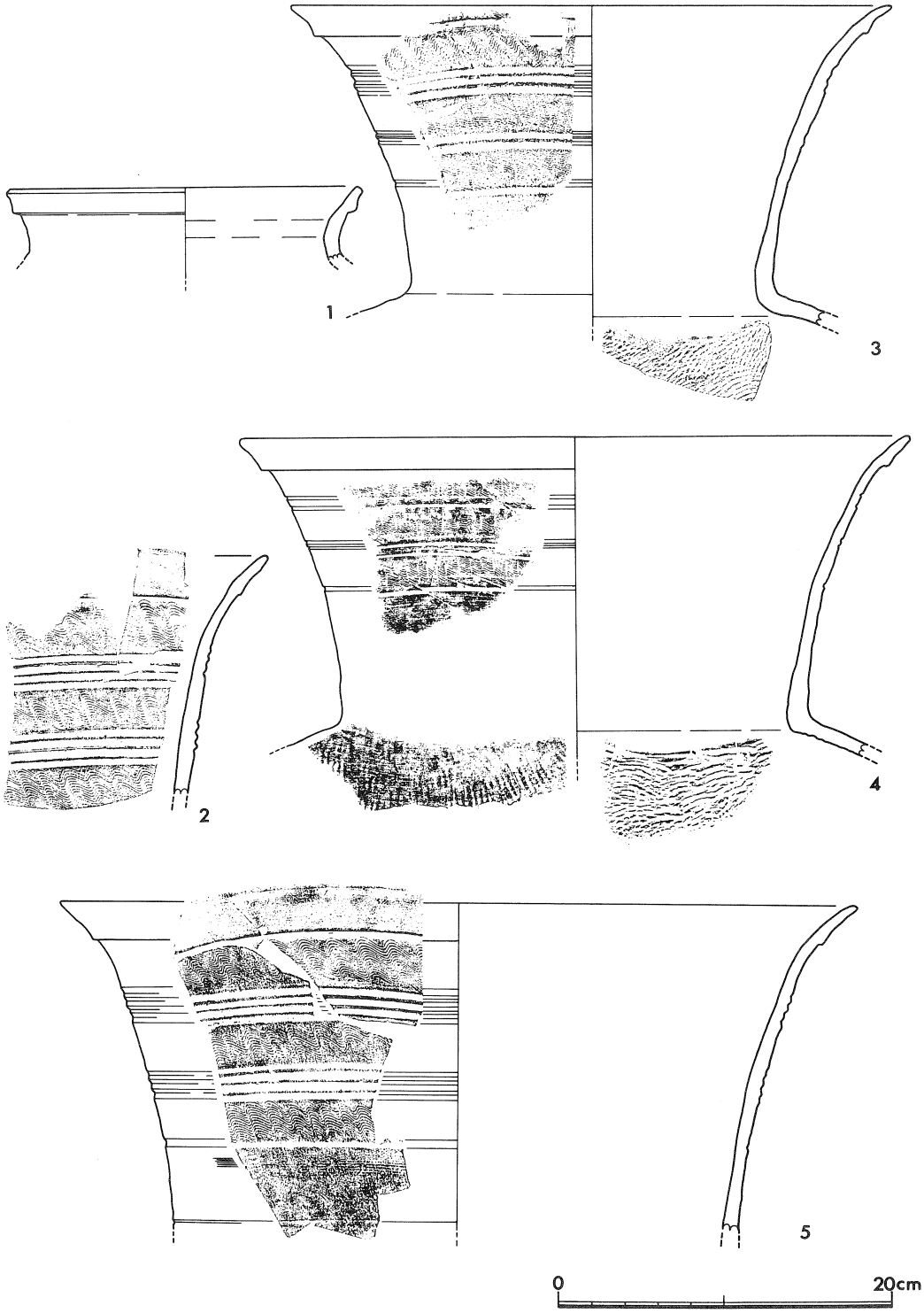
第44図は，直口壺および長頸壺に類するものを集めたものである。1～6は直口壺とわかるもので，3の底部外面には「×」状のヘラ記号が認められる。7・8は胴部下方の破片のため，直口壺か長頸壺かのどちらかを特定することはできない。7の底部外面には「×」状のヘラ記号が認めら



第45図　１区その他の出土遺物実測図（７）（１：３）



第46図　1区その他の出土遺物実測図（8）（1：4）

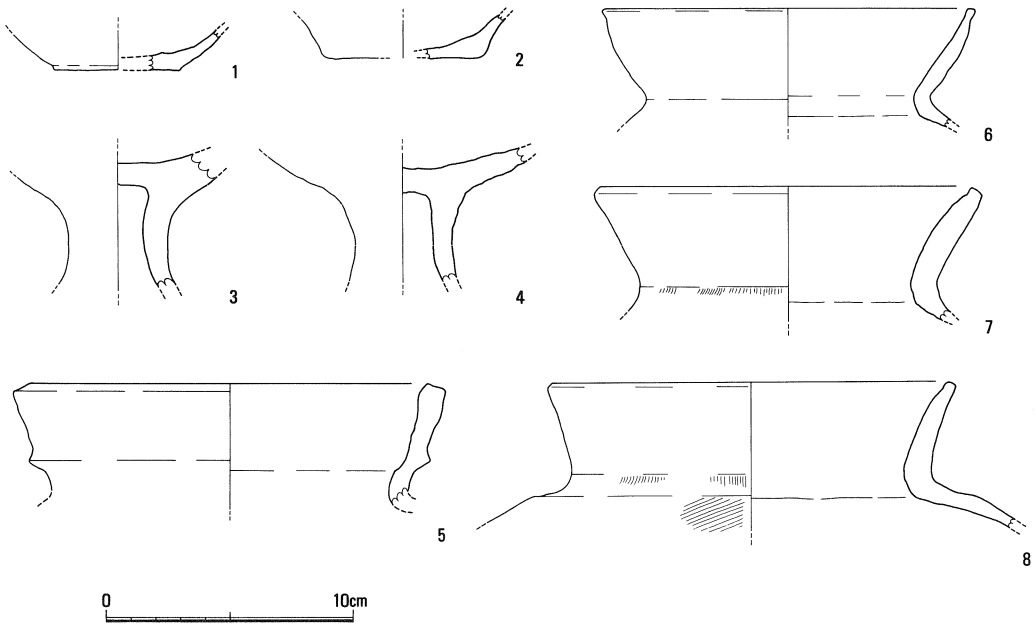


第47図　１区その他の出土遺物実測図（９）（１：４）

れる。９は土師質の壺で，口縁部の一部を欠損する。形態的には直口壺といえようが，須恵器１～６にくらべ，口縁部が長めで胴部もやや偏平である。10は長頸壺で，頸部中央および胴部上方に２条ずつの沈線が入り，胴部のものにはその間を櫛状工具による連続刺突文がめぐる。

第45図はその他の壺・瓶類を取り上げた。１は長頸壺の頸部の破片と考えられ，外面上方に細いがはっきりとした２条の沈線がめぐる。２は壺または瓶の頸部と考えられ，２条の沈線とこれより少し距離を置いて振幅の小さい波状文が施されている。３は体部外面に孔のない耳が貼り付けてある。瓶の類であろう。４～９は甕である。４の胴部下方から底部にかけてはカキ目が認められる。７は口唇部内面に沈線が認められる。８の底部には静止糸切り痕が認められる。10は壺の肩部の破片ではなかろうか。

11～14は有蓋壺類と考えられる。蓋11は天井部に平坦面をもち，口縁部はハの字状にひろがり，口唇部にはわずかな平坦面を作る。短頸壺12は胴部の張りが偏平で，頸部もかなり低く内傾して終わる。11と12はセット関係にあったものとみられる。短頸壺13は胴部の張りが大きく重心が上位にあり，丸底に仕上げられる。頸部は直立して終わる。有蓋壺14は頸部から肩部にかけてと胴部下方から底部にかけての破片である。頸部はわずかに内傾しながら立ち上がり，先端部を欠くが，これ以上さほど高くはならないものと考えられる。肩部と胴部との境界ははっきりしており，くの字に折れ曲がる。肩部の中程ぐらいの位置に，蓋を置いて重ね焼きした時に生じたとみられる色斑が認

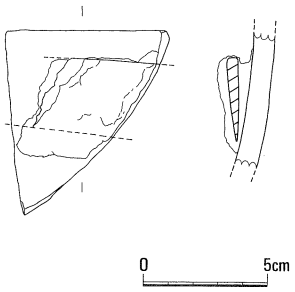


第48図　１区その他の出土遺物実測図（10）（１：３）

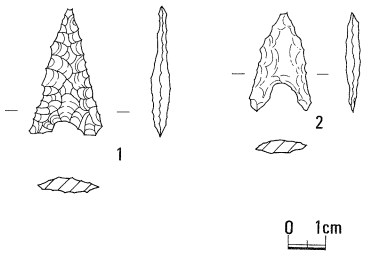
められる。これから推定される蓋の口径は14,5cmほどである。胴部は比較的直線的なラインで，平底の底部にいたる。底径9,1cm，全高16,5cm以上ではなかったかと推定される。

第46図は１が横瓶，２が壺口縁部，３が同底部である。２と３とは同一個体と考えられるが，３の外面には焼き台とみられる坏蓋の破片が付着している。坏蓋は天井部と口縁部との境がわずかな突帯で表現されており，天井部外面には回転ヘラケズリが施されている。また，同時に窯壁も付着しているが，これにはスサ状のものが認められる。

第47図は１が壺の口縁部であり，２～５は甕の口頸部から肩の一部にかけての破片である。甕の頸部外面には１条から４条までの沈線と，櫛状工具による波状文が交互に施されている。



第49図　１区その他の出土遺物
実測図（11）（１：３）



第50図　１区その他の出土遺物
実測図（12）（１：２）

土師器類（第48図，図版40）

土師器には坏（１・２），高坏（３・４），壺・甕類（５～８）がある。いずれも器表面の風化がすすみ，調整の不明なものが多い。１の底部外面には糸切り痕が認められる。５は複合口縁で，６～８は単純口縁のものである。６はやや薄手でわずかに丸味をもち，口唇部をわずかに摘まみ出しておわる。７・８はやや厚手で，外傾しながら端部を方形におさめる。

その他の遺物（第49・50図，図版40）

第49図は，須恵器甕片に付着した鉄刀片である。鉄刀は残存長4.0cm，刀幅3.5cm，棟幅0.4cmを測る。第50図は石鏃２点で，１は黒曜石製，２は安山岩製とみられる。その他，図示していないが，石器として碧玉・玉髄・黒曜石の剝片が出土している（図版40下段）。付近で玉作や石器の製作を行っていた可能性がある。（鳥谷）

三田谷Ⅱ遺跡1区出土遺物観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図24-1	27	ＳＸ－０１ 玄室床面	坏身 （須恵器）	口径（ 9.4） 器高（ 4.5）	底部外面：回転ヘラケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	全体の約⅓残存
図24-2	27	ＳＸ－０１ 羨道部床面	丸玉 （碧玉製）	径(1.3)	片面穿孔，歪みあり			濃緑色	
図26-1	27	ＳＸ－０２	坏身 （須恵器）	口径11.2 器高2.8	底部外面：ヘラ切りの後ナデ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	淡青灰色	
図26-2	27	ＳＸ－０２	坏身 （須恵器）	口径10.5 器高3.5	底部外面：ヘラ切りの後ナデ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
図26-3	27	ＳＸ－０２	刀子	現存長10.6 刃長6.8 刃幅0.9					
図28-1	27	ＳＸ－０３	坏蓋 （須恵器）	口径11.2 器高3.1	天井部外面：ヘラケズリ，ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡黄色 内面：青灰色	内面に竹管文アリ
図28-2	27	ＳＸ－０３	坏身 （須恵器）	口径9.8 器高2.3	底部外面：ヘラ切り，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
図30-1	27	ＳＸ－０４	高台付坏 （須恵器）	口縁径13.2 高台径5.7 器高4.7	底部外面：ナデまわし，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：青灰色 内面：淡灰色	外面に自然釉がかかる
図30-2	27	ＳＸ－０４	高台付坏 （須恵器）	口縁径13.4 高台径7.7 器高4.8	底部外面：ナデまわし，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	全体の約⅓欠損
図32-1	28	ＳＸ－０１	坏蓋 （須恵器）	口縁径10.6 器高2.4	天井部外面：ケズリ，回転ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
図32-2	28	ＳＸ－０１	坏身 （須恵器）	口径10.5	内外面：回転ヨコナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	口縁部のみ⅓欠損
図32-3	28	ＳＸ－０１	坏身 （須恵器）	口径10.2 器高3.4	底部外面：ヘラ切りの後ナデ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
図32-4	28	ＳＸ－０１	坏身 （須恵器）	口径(5.7)	内外面：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	淡茶灰色	全体の約⅓残存
図32-5	28	ＳＸ－０１	長頸壺 （須恵器）	胴部最大径15.3 底径5.0	胴部，底部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄青灰色	頸部欠損，肩部⅓欠損
図35-1	28	ＳＸ－０３	坏身 （須恵器）	口径11.5 器高3.8	底部外面：ヘラ切りの後ナデ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	３㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	底部少々欠損
図35-2	28	ＳＸ－０３	坏蓋 （須恵器）	口径12.2 器高2.9	天井部外面：回転ヘラケズリ，ナデ，天井部内面：ナデ,その他:回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	全体の約⅓欠損
図35-3	28	ＳＸ－０３	坏蓋 （須恵器）		天井部外面：回転ヘラケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部欠損
図35-4	28	ＳＸ－０３	高台付坏 （須恵器）	底径7.0	底部外面：ヘラ切り，ナデまわし，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部欠損
図38-1	29	ＳＫ－０５	坏身 （須恵器）	口径11.2 器高3.4	底部外面：ヘラ切り，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	外面に自然釉かかる
図38-2	29	ＳＫ－０５	坏身 （須恵器）	口径(10.5)	内外面：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	口縁部のみ⅓残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種別	法量（cm）	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
図38-3	29	ＳＫ－０５	坏蓋（須恵器）		内外面：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡黒灰色 内面：淡灰色	口縁部小片
図38-4	29	ＳＫ－０５	甕（須恵器）		内外面：タタキ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡黒灰色 内面：淡灰色	胴部の一部分のみ残存
図38-5	29	ＳＫ－０５	甕（須恵器）		内外面：タタキ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：淡黄灰色	底部の一部分のみ残存
図39-1	30	３Ｇ区	坏蓋（須恵器）	口径13.4 器高3.9	天井部外面：カキ目 その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	全体の約½欠損，天井部外面に×印のヘラ記号アリ
図39-2	30	４Ｇ区	坏蓋（須恵器）	口径13.2 器高3.8	天井部外面：カキ目，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	黒灰色	全体の約½欠損，天井部外面に×印のヘラ記号アリ
図39-3	30	４Ｇ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：カキ目，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	天井部のみ残存，天井部外面に×印のヘラ記号
図39-4	30	４Ｇ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：カキ目，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部欠損，天井部外面に×印アリ
図39-5	30	４Ｇ区	坏蓋（須恵器）	口径(6.4)	内外面：回転ナデ	２㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：黒灰色 内面：淡青灰色	口縁部から体部の一部残存
図39-6	30	５Ｆ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：カキ目，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	暗灰色	全体の約½残存
図40-1	31	４Ｇ区	高坏蓋（須恵器）	口径13.4 器高2.4	天井部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5 ㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：黒灰色 内面：黄灰色	全体の約½残存
図40-2	31	４Ｇ区 ４Ｆ区 ３Ｆ区	坏蓋（須恵器）	口径12.5 器高4.1	天井部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	全体の約½残存
図40-3	31	４Ｇ区	坏蓋（須恵器）	口径12.3 器高3.9	天井部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	体部から口縁部にかけてほぼ欠損
図40-4	31	５Ｆ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：黒灰色 内面：淡黄灰色	天井部の一部と口縁部欠損
図40-5	31	４Ｇ区５Ｆ区 ４Ｆ区 ４Ｅ区	坏蓋（須恵器）	口径(14.2)	天井部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：黒灰色 内面：淡黄灰色	天井部欠損
図40-6	31	５Ｆ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：回転ヘラケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡褐灰色 内面：淡黄灰色	口縁端部欠損，全体約⅙残存
図40-7	31	４Ｆ区	坏蓋（須恵器）	口径(14.4)	天井部外面：回転ヘラケズリ，天井部内面：ヨコナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	暗灰褐色	全体の約¼残存
図40-8	31		坏蓋（須恵器）	口径(13.4)	天井部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	全体の約⅓残存
図40-9	31	５Ｇ区	坏蓋（須恵器）	口径(12.7)	天井部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約⅓残存
図40-10	31	第１トレンチ盛土中	坏蓋（須恵器）		天井部外面：回転ヘラケズリ，天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡灰色 内面：淡褐灰色	全体の約⅕残存
図40-11	31		坏蓋（須恵器）	口径(13.1)	天井部外面：回転ヘラケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	淡茶灰色	全体の約½欠損
図40-12	31	４Ｇ区	坏蓋（須恵器）	口径(12.3)	天井部外面：ヘラ切りの後ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	体部から口縁部にかけて⅔欠損

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図40-13	31	4Ｇ区	坏蓋（須恵器）	口径(11.5)	天井部外面：ケズリ？，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	全体の約1/3欠損
図40-14	31	第1トレンチ盛土中	坏蓋（須恵器）	口径(14.5)	内外面：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	暗褐灰色	天井部欠損口縁部約1/3残存
図40-15	31	5Ｆ区	坏蓋（須恵器）	口径(14.7)	内外面：回転ヨコナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：灰褐色 内面：淡灰褐色	口縁部のみ約1/3残存
図40-16	31	5Ｆ区	坏蓋（須恵器）	口径(12.2)	内外面：回転ヨコナデ	1.5㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗青灰色 内面：淡黄灰色	口縁部のみ約1/3残存
図40-17	31	5Ｇ区	坏蓋（須恵器）	口径(12.5)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡灰色 内面：淡灰褐色	全体の約1/5残存
図40-18	31	5Ｆ区	坏蓋（須恵器）	口径(12.4)	天井部外面：ナデけし？天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡灰色	天井部欠損全体の約1/4残存
図40-19	32		坏身（須恵器）	口径(11.2)	底部外面：回転ヘラケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黄灰色	底部ほぼ欠損
図40-20	32		坏身（須恵器）	口径11.0 器高3.9	底部外面：回転ヘラケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部少々欠損
図40-21	32	4・5Ｈ付近	坏蓋（須恵器）	口径11.0 器高3.9	底部外面：回転ヘラケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	底部少々欠損
図40-22	32	4Ｇ区	坏身（須恵器）	口径10.9	底部外面：ヘラ切り，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	茶灰色	口縁部約1/2欠損
図40-23	32		坏身（須恵器）	口径11.1 器高3.9	底部外面：ヘラ切りの後ナデ？，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	底部の一部欠損
図40-24	32	4Ｇ区	坏身（須恵器）	口径(11.3)	内外面：回転ヨコナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	受部のみ約1/3残存
図40-25	32		坏身（須恵器）	口径(13.2)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	受部の一部のみ残存
図40-26	32	5Ｇ区	坏身（須恵器）	口径(12.4)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	受部の一部のみ残存
図40-27	32	5Ｆ区	坏身（須恵器）	口径(10.5)	底部外面：ヘラ切り，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	全体の約1/3残存
図40-28	32	4Ｄ区	坏蓋（須恵器）	口径(9.6)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黄灰色 内面：青灰色	受部の一部のみ残存
図41-1	33	4Ｄ溝中	坏蓋（須恵器）	口径16.7 器高2.5	天井部外面：回転ヘラケズリ，回転ナデ，ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黄青灰色	
図41-2	33	3Ｆ区 2Ｆ区	坏蓋（須恵器）	口径(12.2)	天井部外面：ケズリ？回転ナデ，天井部内面；ナデ，その他：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	天井部の一部少々欠損
図41-3	33	5Ｈ区	坏蓋（須恵器）	口径(15.0)	天井部外面：ケズリ，ナデ，天井部内面：ナデその他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を極少含む	良好	青灰色	全体の約1/5残存
図41-4	33	2Ｆ区	坏蓋（須恵器）	口径(12.4)	天井部外面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	天井部の一部欠損
図41-5	33	3Ｆ区	坏蓋（須恵器）		天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	天井部のみ約1/3残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図41-6	33	2Ｆ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：回転ケズリ，ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	口縁部欠損全体の約⅓残存
図41-7	33	3Ｄ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：ケズリの後ナデ？，ナデ，天井部内面：ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	口縁部欠損
図41-8	33	6Ｇ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：ケズリ，ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	口縁部欠損全体の約¼残存
図41-9	33	6Ｆ区	坏蓋（須恵器）		天井部外面：ケズリ，回転ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黄灰色	口縁部欠損，全体の約½欠損，天井部内面中央にヘラ描記号アリ
図41-10	33		坏身（須恵器）	口径12.8 器高3.8	底部外面：糸切り，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部少々欠損
図41-11	33	5Ｆ区	坏身（須恵器）	口径(15.7)	内外面：回転ナデ	1.5 ㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗青灰色 内面：淡黄灰色	口縁部の約⅛のみ残存
図41-12	33	2Ｄ区	高台付坏（須恵器）	高台径(11.8)	内外面：回転ナデ	0.5 ㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	高台部分の一部のみ残存
図41-13	33	3Ｄ区	高台付坏（須恵器）	高台径(12.5)	外面：ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡灰色	高台部分の一部のみ残存
図41-14	33	6Ｆ区	高台付坏（須恵器）	高台径(7.1)	内外面：回転ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡黄灰色 内面：淡紫灰色	高台部分の一部のみ残存
図41-15	33	4Ｄ区	高台付坏（須恵器）		高台部外面：回転ナデ？その他：ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	高台の一部のみ残存
図41-16	33	3Ｄ区	高台付坏（須恵器）		外面：回転ナデ？ 内面：ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	高台の一部のみ残存
図41-17	33	2Ｄ区	高台付坏（須恵器）		底部外面：ケズリ，回転ナデ，底部内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	底部の一部のみ残存
図41-18	33		坏身（須恵器）		底部外面：ナデ，糸切り？，底部内面：ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	底部の一部のみ残存
図42-1	34	3Ｄ区 4Ｅ区 5Ｆ区	高坏（須恵器）	口径(11.4) 底径(11.3) 器高13.1	坏部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：暗灰色 内面：淡黄灰色	坏部約½，脚部¼欠損三方に２段透しアリ
図42-2	34	5Ｆ区	高坏（須恵器）	口径11.4 底径11.8 器高13.5	坏部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：青灰色 内面：淡黄灰色	全体の約½欠損，三方に２段透しアリ
図42-3	34	4Ｇ区 4Ｆ区	高坏（須恵器）	口径11.9 底径(13.9) 器高13.0	坏部内面：ナデ その他：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を含む	良好	黄青灰色	坏部¼，脚部¾欠損三方に２段透しアリ
図42-4	34	4Ｇ区	高坏（須恵器）	口径11.8	坏部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	坏部約½，脚部大部分欠損，三方に透しアリ
図42-5	34	5Ｆ区	高坏（須恵器）	口径11.6	坏部外面：回転ナデ，ケズリ，坏部内面：ナデ，脚部：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	坏部約½，脚部大部分欠損，三方に透しアリ
図42-6	34	5Ｆ区	高坏（須恵器）	口径10.7 底径11.0 器高9.2	坏部内面：ナデ その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	坏部約¼欠損，三方に２段透しアリ
図42-7	34	4Ｇ区	高坏（須恵器）	口径12.1 底径10.0 器高9.3	坏部外面：ヘラケズリ，回転ナデ，坏部内面：ナデ，回転ナデ，その他：回転ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡青灰色 内面：淡黄灰色	坏部約½欠損，三方に１段透しアリ
図42-8	34	5Ｆ区	高坏（須恵器）	口径9.2 底径10.4 器高9.5	坏部外面：回転ナデ，ヘラケズリ，坏部内面：ナデ，回転ナデ，その他：回転ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	坏部約½，脚部約½欠損，三方に１段透しアリ

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図42-9	35	4Ｇ区 4Ｆ区	高坏 （須恵器）	口径(11.3) 底径(10.8) 器高(9.1)	坏部外面：回転ナデ，ケズリ，坏部内面：回転ナデ，ナデ，その他：回転ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄褐色	坏部約⅓，脚部約¾欠損，三方に１段透しアリ
図42-10	35	5Ｆ区	高坏 （須恵器）	口径(11.3) 底径10.8 器高9.1	坏部外面：回転ナデ，ヘラケズリ，坏部内面：回転ナデ，ナデ，その他：回転ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	全体の約⅓欠損，３方に１段透しアリ
図42-11	35	4Ｇ区	高坏 （須恵器）	口径(10.9) 底径8.9 器高8.6	坏部外面：ケズリ，回転ナデ，坏部内面：ナデ，回転ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	坏部約⅓，脚部約⅓欠損，三方に１段の透しアリ
図42-12	35	4Ｇ区	高坏 （須恵器）	口径11.8	外面：回転ナデ，ケズリ 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：黄灰色 内面：淡灰色	坏部のみ約¼欠損
図42-13	35	5Ｆ区	高坏 （須恵器）	口径(11.0) 底径(8.9) 器高　12.5	坏部内面：回転ナデ，ナデ，その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	紫灰色	坏部大部分，脚部約⅓欠損，三方に２段の透しアリ
図42-14	35	5Ｆ区	高坏 （須恵器）	口径(10.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	1.5㎜以下の砂粒を含む	良好	黒灰色	坏部約⅓，脚部大部分欠損，３方に透アリ，坏底部部に刺突文アリ
図42-15	35	4Ｇ区	高坏 （須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗褐灰色 内面：淡黄灰色	坏部の一部のみ残存
図42-16	35	4Ｆ区	高坏 （須恵器）	口径(11.5)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	坏部の口縁部の約⅓残存
図42-17	35	7Ｅ区	高坏 （須恵器）	口径15.5 底径7.8 器高9.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ，ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	淡灰色	坏部約⅓，脚部約⅓欠損
図43-1	36		高坏 （須恵器）		坏部外面：回転ナデ，ケズリ，坏部内面：回転ナデ，ナデ，その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部，脚部ともほぼ欠損，３方に透しアリ
図43-2	36	3Ｇ区	高坏 （須恵器）		坏部外面：ヘラケズリ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	茶灰色	口縁部，脚部ともほぼ欠損，３方に透しアリ
図43-3	36	4Ｆ区	高坏 （須恵器）		坏部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	淡灰色	口縁部，脚部ともほぼ欠損，２方に透しアリ
図43-4	36	3Ｆ区 4Ｆ区	高坏 （須恵器）		坏部内面：回転ナデ，ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部，脚部ともほぼ欠損，３方に透しアリ
図43-5	36		高坏 （須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡青灰色	口縁部，脚部ともほぼ欠損，坏部外面に×印？アリ
図43-6	36	4Ｆ区	高坏 （須恵器）		坏部内面：ナデ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	口縁部，脚部ともほぼ欠損，３方に透しアリ
図43-7	36	5Ｆ区	高坏 （須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡褐灰色	脚下部のみ約⅓残存
図43-8	36	5Ｆ区	高坏 （須恵器）	底径(12.3)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡灰色 内面：淡黄灰色	脚部のみ約⅓残存，３方に２段透しアリ？
図43-9	36	4Ｇ区 3Ｆ区 4Ｆ区	高坏 （須恵器）	底径(10.5)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗灰色 内面：淡黄灰色	脚部のみ約⅔残存３方に透しアリ
図43-10	36	5Ｇ区	高坏 （須恵器）	底径(9.7)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	灰褐色	脚下部のみ約⅓残存３方に２段透しアリ？
図43-11	36	5Ｆ区	高坏 （須恵器）	底径(13.8)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	脚部のみ約⅓残存
図43-12	36	4Ｆ区	高坏 （須恵器）	底径(12.3)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	脚下部の約¼残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図43-13	36	4Ｆ区	高坏 （須恵器）	底径(10.4)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	脚部のみ約⅓残存
図43-14	36		高坏 （須恵器）	底径(10.6)	内外面：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面　暗灰色	脚部のみ約½残存
図43-15	36	4Ｇ区	高坏 （須恵器）	底径(3.8)	内外面：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗灰色 内面：淡黄灰色	脚部のみほぼ残存
図44-1	37	5Ｇ区	壷 （須恵器）	口径9.3 器高12.7	胴下部，底部外面：ケズリ，その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡黄灰色	口縁部の約½欠損
図44-2	37	5Ｆ区	壷 （須恵器）	口径(4.7) 器高13.5	胴下部，底部外面：ケズリ，その他：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を含む	良好	暗黄灰色	口縁部から頚部にかけて約½欠損
図44-3	37	5Ｇ区	壷 （須恵器）	口径(9.8) 器高13.9	胴下部，底部外面：ヘラケズリ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	口縁部の約⅔，肩部の一部欠損，底部外面に×印アリ
図44-4	37	4Ｇ区 4Ｆ区 5Ｆ区	壷 （須恵器）	口径(8.4)	胴下部外面：ケズリ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黒灰色	口縁部から頚部にかけて約⅔欠損
図44-5	37	4Ｇ区	壷 （須恵器）	口径(9.6)	内外面：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗灰色 内面：淡黄灰色	口縁部の約⅓のみ残存
図44-6	37	5Ｇ区	壷 （須恵器）	口径(9.1)	内外面：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外面：淡青灰色 内面：黄灰色	口縁部から頚部の約¼残存
図44-7	37	4ＨＧ付近	壷 （須恵器）		胴下部，底部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	4㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗青灰色 内面：淡黄灰色	胴部下半のみ残存
図44-8	37	5Ｆ区	壷 （須恵器）		底部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ヨコナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗褐灰色 内面：暗紫灰色	胴部下半の約⅓残存
図44-9	37	5Ｇ区	壷 （土師器）		胴部，底部内面：回転ナデ，その他：調整不明	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰色	口縁部の一部欠損
図44-10	37	3Ｆ区 4Ｆ区	長頚壷 （須恵器）	口径(7.0) 底径(4.9)	頚下部，底部外面：回転ヘラケズリ，頚と肩の接合部：ナデ，その他：回転ナデ	3㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡青灰色 内面：淡黄灰色	頚部外面に先端が五条に分かれた工具による刺突文アリ
図45-1	38	6Ｆ区	長頚壷 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	頚部のみ約½残存
図45-2	38	5Ｆ区	壷 （須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	灰褐色	頚部の一部のみ残存，外面に波状文アリ
図45-3	38	2Ｆ区	提瓶 （須恵器）		内外面：ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：黄灰色 内面：黄褐色	つまみを含む周辺部分の1片
図45-4	38	4・5Ｈ付近	甕 （須恵器）	口径11.5 底径3.8 器高15.0	胴部外面：ケズリ，底部外面：カキ目，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	口縁部の約⅓欠損，頚部外面に波状文，胴部外面に刺突文アリ
図45-5	38	4Ｇ区	甕 （須恵器）	口径(10.8)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰褐色	口縁部のみ約⅓残存，14条の波状文アリ
図45-6	38	4Ｃ区 5Ｆ区	甕 （須恵器）	口径(9.7)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黒灰色	5条の波状文アリ
図45-7	38	5Ｆ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：暗紫灰色 内面：淡黄褐色	口縁部片のみ残存
図45-8	38	古墳周辺，明茶褐色土中	甕 （須恵器）	底径(6.1)	胴下部外面：回転ヘラケズリ，底部外面：糸切り，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	黄灰色	胴部のみ残存
図45-9	38	4Ｅ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：青紫灰色	肩部の一部のみ残存，5条の刺突文アリ
図45-10	38	5Ｄ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	肩部の一部のみ残存，5条の波状文アリ

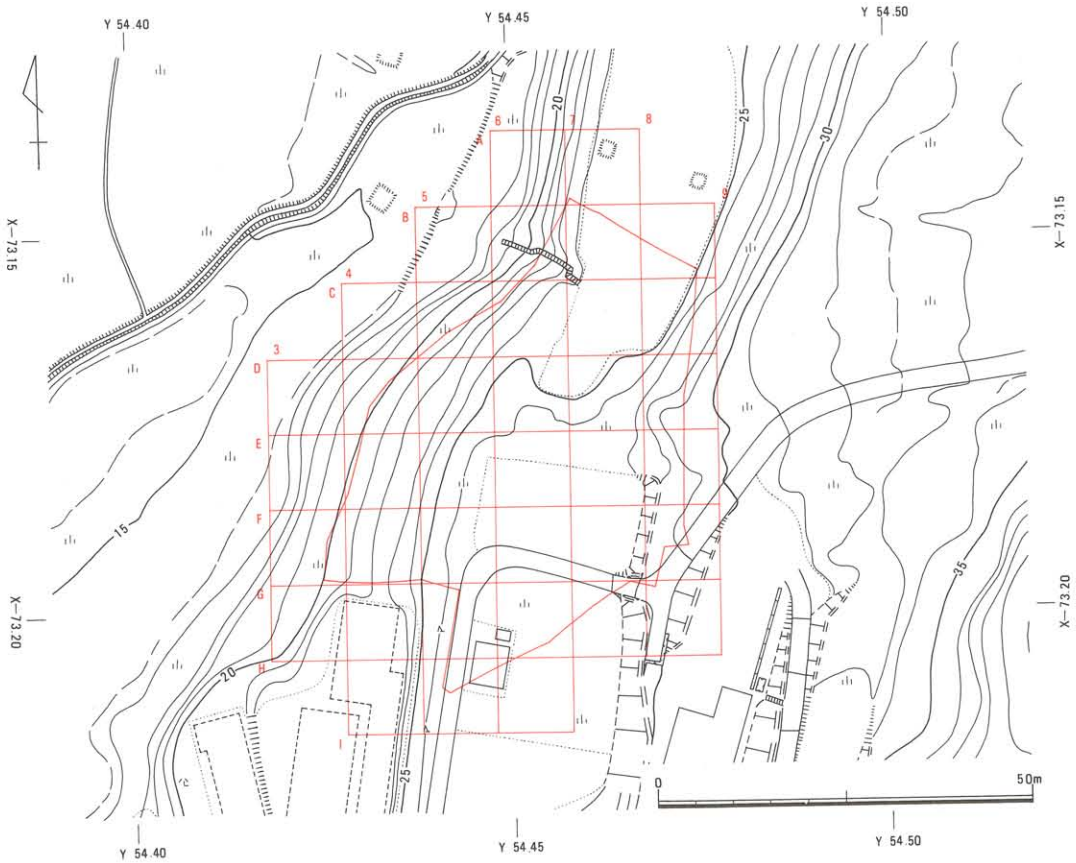
挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図45-11	38	4Ｇ区	壷蓋？ （須恵器）	基部径 11.2	天井部，口縁上部外面：ヘラ切りの後ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	口縁部から底部の一部のみ残存
図45-12	38	4Ｆ区	短頸壷 （須恵器）	口径7.1 器高6.9	底部外面：ヘラ切りの後ナデ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	2㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外面：暗青灰色 内面：淡黄灰色	上半部の約½欠損
図45-13	38	4Ｇ区 4Ｆ区	短頸壷 （須恵器）	口径(8.0) 器高13.1	底部外面：回転ヘラケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	3㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡青灰色 内面：淡黄灰色	全体の約½残存
図45-14	38	6Ｆ区 8Ｆ区	有蓋壷 （須恵器）		胴下部，底部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡青灰色	頸部，胴部の中央部欠損
図46-1	39		提瓶 （須恵器）	口径8.1	内外面：タタキ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	胴部の約½欠損
図46-2	39	5Ｈ区	壷 （須恵器）	口径(21.2)	内外面：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：暗黄灰色	口縁部のみ残存
図46-3	39	6Ｇ区	壷 （須恵器）		内外面：タタキ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：黄灰色	底部のみ残存，中央部外面にカマド片，坏片付着
図47-1	39	第1トレンチ 盛土中	壷 （須恵器）	口径(20.8)	内外面：回転ヨコナデ	2㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡灰色 内面：暗灰色	口縁部のみ約⅙残存
図47-2	39	5Ｇ区 第1トレンチ 盛土中	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黄灰色 内面：黄茶灰色	口縁部の一部のみ残存
図47-3	39	第1トレンチ 2Ｆ区 4Ｆ区	甕 （須恵器）	口径(35.9)	肩部内外面：タタキ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	外面：淡灰色 内面：黄灰色	口縁部から肩部の一部残存，口縁部外面に波状文
図47-4	39		甕 （須恵器）	口径(40.3)	肩部内外面：タタキ その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を含む	良好	淡灰色	口縁部から肩部の一部残存，外面に波状文と沈線アリ
図47-5	39	5Ｆ区 5Ｇ区	甕 （須恵器）	口径(48.0)	口縁下部：カキ目のナデけし，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色	口縁部の一部のみ残存外面に波状文と沈線アリ
図48-1	40	7Ｅ区	坏身 （土師器）	底径(5.0)	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	茶灰色	底部から体部の一部のみ残存
図48-2	40	3Ｄ区	坏身 （土師器）	底径(6.1)	体部外面：ヨコナデ？ その他：調整不明	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	赤茶色	底部から体部の一部のみ残存
図48-3	40	5Ｆ区	高坏 （土師器）		外面：ナデ 内面：ナデ？	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	脚くびれ部分のみ残存
図48-4	40	4Ｇ区	高坏 （土師器）		内外面とも調整不明	1㎜以下の砂粒少々含む	良好	淡黄茶色	脚くびれ部分から坏体部の下半にかけて残存
図48-5	40	4Ｄ区	甕 （土師器）	口径(15.9)	内外面：ヨコナデ	4㎜以下の砂礫を含む	やや不良	淡黄褐色	口縁部のみ約¼残存
図48-6	40	4Ｄ区	壷 （土師器）	口径(14.9)	口縁接合部内面：ケズリ その他：調整不明	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	明黄茶色	口縁部の一部残存
図48-7	40	4Ｄ区	壷 （土師器）	口径(14.8)	口縁接合部外面：ナデ？ 口縁接合部内面：ケズリ その他：ヨコナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄茶色	口縁部の約⅓残存
図48-8	40	4Ｄ区	壷 （土師器）	口径(16.4)	肩部外面：ヨコ方向のハケ目，口縁接合部外面：タテ方向のハケ目，ナデ，肩部，口縁接合部内面：ケズリ，その他：ヨコナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡茶褐色	口縁部，肩部の約⅕残存
図49-1	40	5Ｇ区	鉄刀片	刃幅3.4 峯幅0.4 現存長3.5	銹化進む				須恵器甕片に付着
図50-1	40	3Ｆ区	石鏃	全長　2.5 最大幅1.4					黒曜石製
図50-2	40	4Ｆ区	石鏃	全長　2.1 最大幅1.3					安山岩質

※　法量中の（　）は推定復元値である。　（永井）

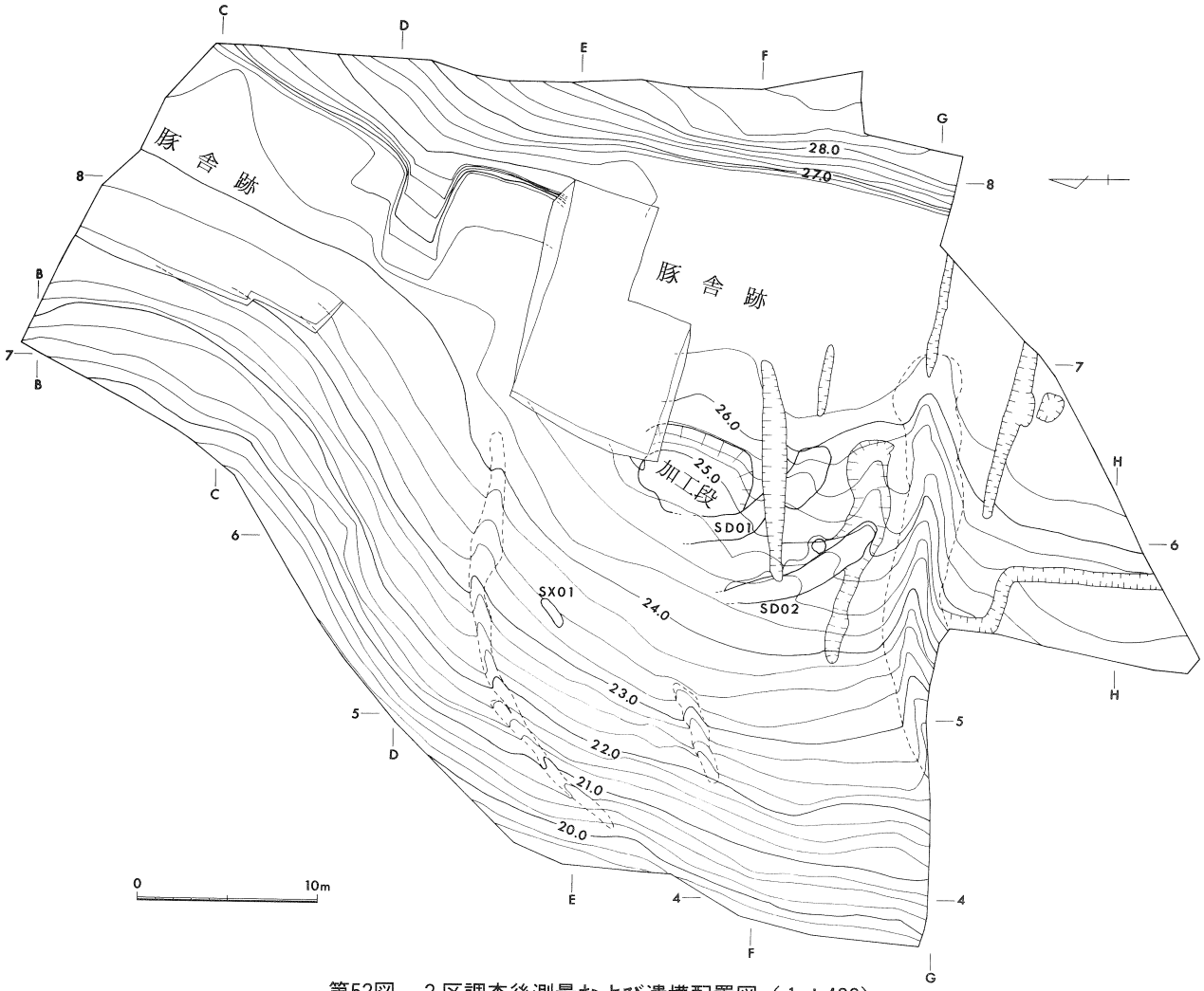
Ⅴ　三田谷Ⅱ遺跡２区の調査

１．調査区の設定と層序

２区は，三田谷を入り口部分から東に150mほど入った地点で，これより東側に位置する１区とは80mほどの距離を置く。所在は出雲市上塩冶町半分903番地１および3105番地である。試掘により溝状の遺構や遺物包含層が認められた約2500㎡を対象に本調査を実施することとなったが，この調査に先立ち，第51図のように現地を10m方眼に区切って小調査区を設定した。軸線は，国土座標のＸ・Ｙ軸に一致させ，南北軸を数字ライン，東西軸をアルファベットラインとした。一区画については南西隅の交点名をもって呼び，遺構に伴わない遺物の取り上げなどはこれによって行った。２区の地形は，標高25m前後の低丘陵の北側斜面に当たるが，事業直前まで豚舎が建つなど，地形の改変が著しいと



第51図　三田谷Ⅱ遺跡２区調査区設定図（１：1000）



第52図　2区調査後測量および遺構配置図（1：400）

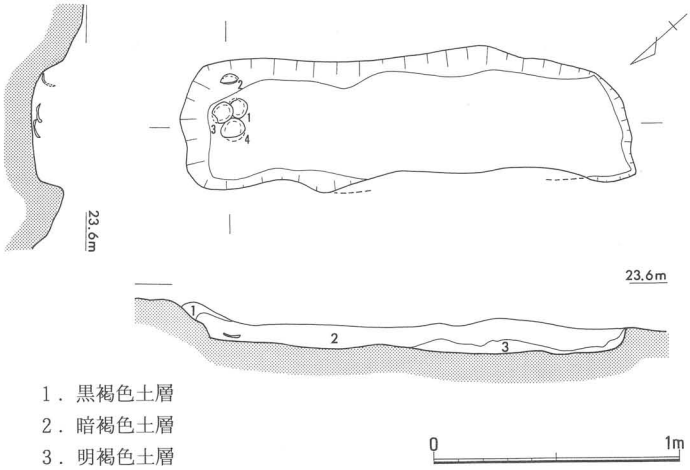
ころであった。この地点の層序については，やや粘性のある赤褐色ないしは明茶褐色の地山のうえに，暗褐色土層，茶褐色土層，暗黒褐色土層などが堆積していた。遺物は暗褐色土層を中心にほとんどすべての堆積層から出土した。また，遺構は地山面において検出した。調査面積は，豚舎の屎尿処理施設跡などに阻まれて最終2300㎡で終えた。

２．２区検出の遺構

２区は，地形の改変が著しいところであったが，土坑墓１（ＳＸ０１），加工段および溝状遺構２（ＳＤ０１・０２）を検出した。また，調査区南端では谷状地形が認められた。

ＳＸ０１（第53図，図版44）

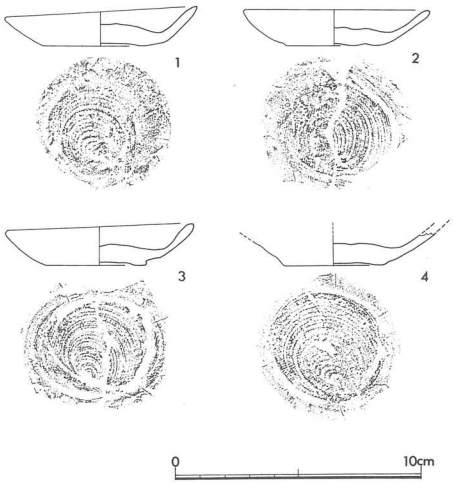
調査区の中央やや西よりの緩斜面で検出した，ほぼ長方形を呈した土坑である。長さ1.8m，幅0.5m，深さは検出面から最大で20cmを測る。底面は平坦で，長軸は北東から南西方向を向いている。北東壁近くで土師器４点がほぼまとまって出土した。うち３点は底面よりわずかに浮いた状態で，内面を上にしたかたちでしかも少し重なり合いながら検出した。残る１点は底面からは少し離れて北東壁に倒れかかるような状態で検出した。規模，形態，出土遺物から，土坑墓と考えられる。



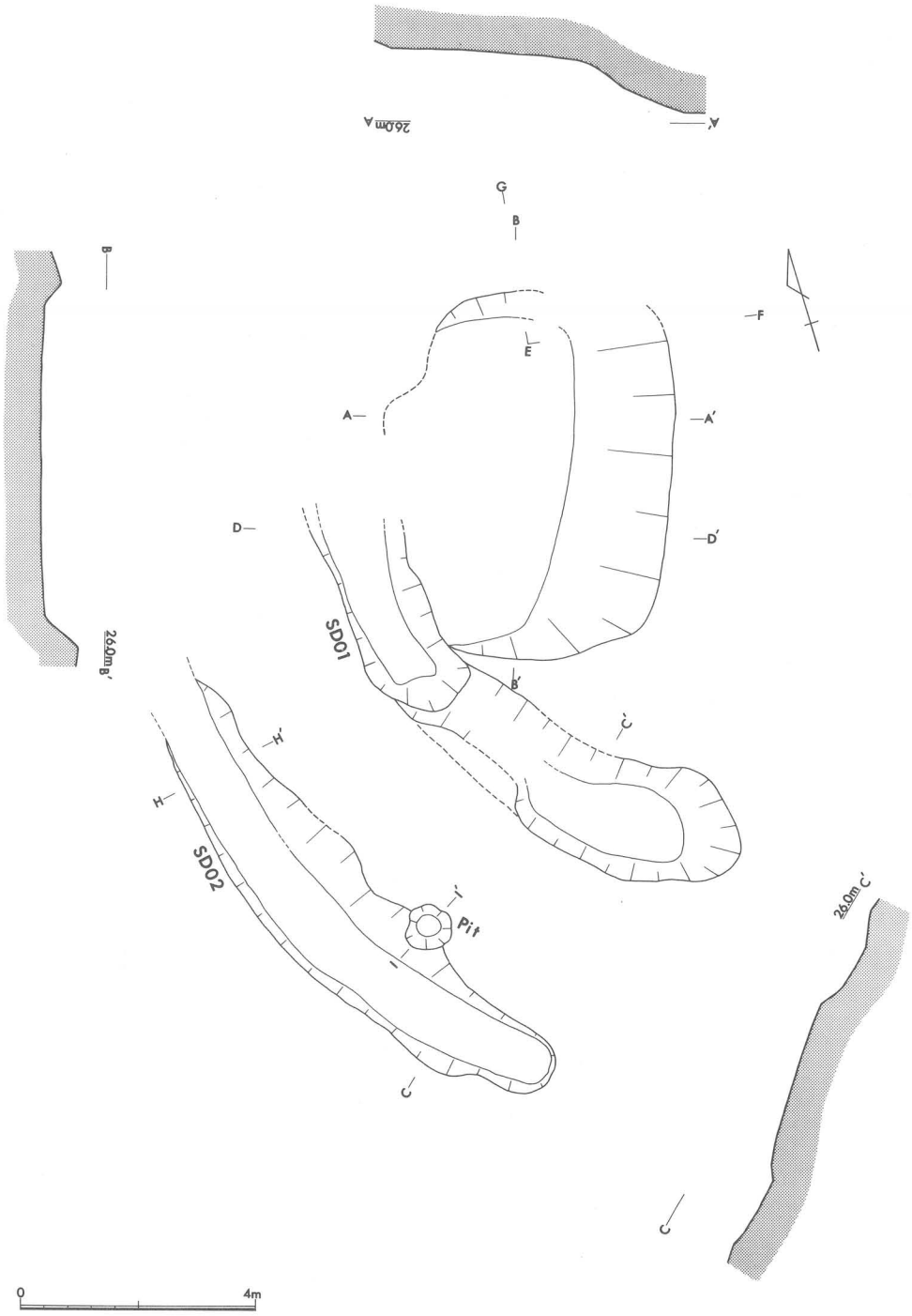
第53図　２区ＳＸ０１実測図（１：30）

同出土遺物（第54図，図版50）

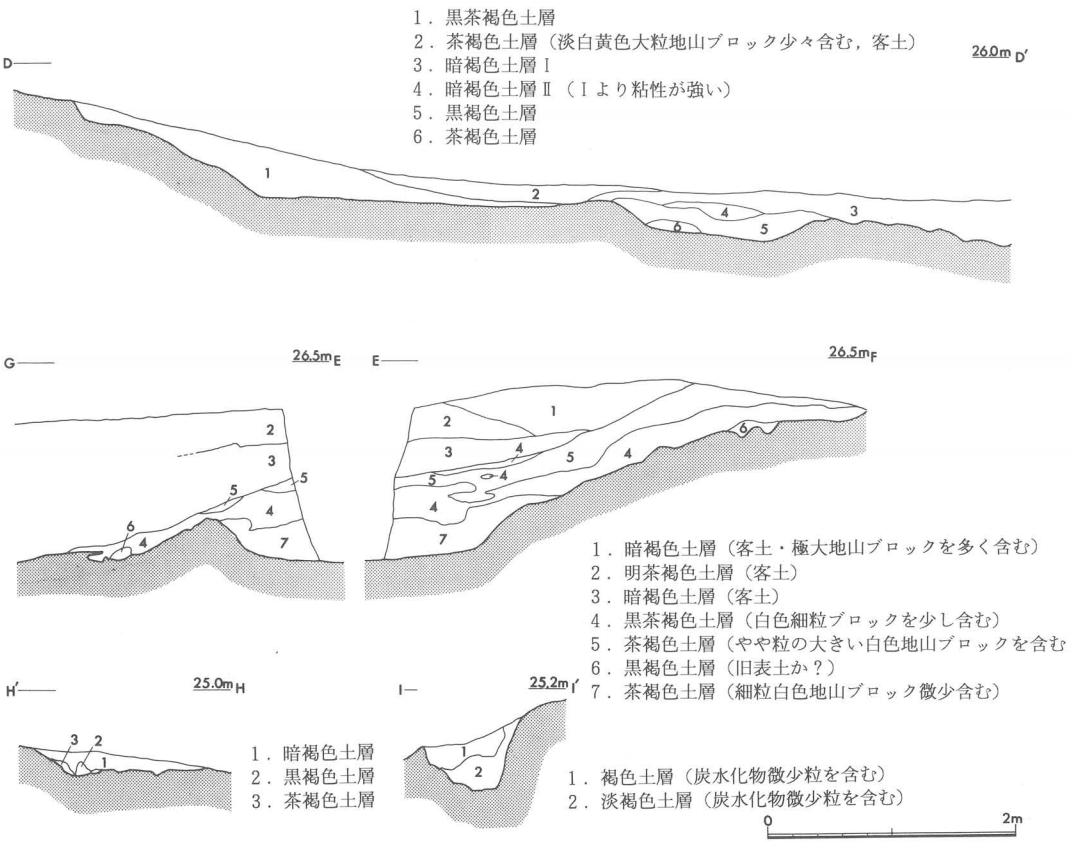
１～４は口径・器高ともほぼ同一の土師器で，底部外面には回転糸切り痕が明瞭に認められる。いずれも体部の立ち上がりは短く逆ハの字状に外傾し，端部は丸く終わる。底部は体部に比べ肉厚で，内面中央がやや盛り上がり凸面状を呈している。また，４点は胎土，焼成，色調も共通している。



第54図　２区ＳＸ０１出土遺物実測図（１：３）



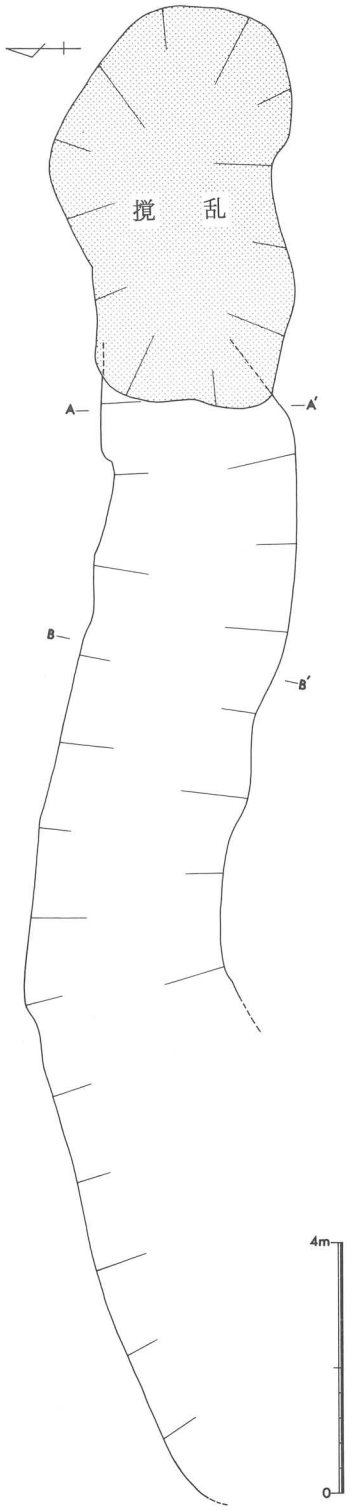
第55図　２区ＳＤ０１・０２及び加工段実測図（１：120）



第56図　２区ＳＤ０１・０２及び加工段土層断面図（１：60）

加工段およびＳＤ０１・０２（第55・56図，図版45～47）

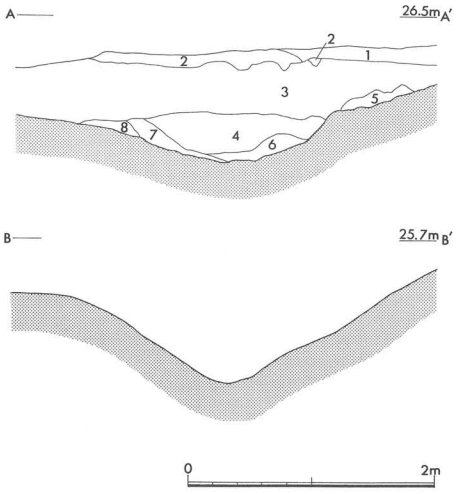
調査区のほぼ中央で検出した遺構である。加工段は，東側から西側に傾斜する斜面をＬ字状にカットしたもので，やや不整形ながら方形状の平坦面が作り出されている。平坦面は南北方向に長く，南北幅5.6m，東西幅2.9mを測る。この平坦面には盛土にも似たかたちで白色の地山ブロックを含む黒茶褐色土層・茶褐色土層が堆積していた。ＳＤ０１は加工段平坦面の南西側から南に向かって検出した浅い溝で，不整形ながら弧状に認められた。南端は丸く終わるが，北側はさらに伸びていたものと推定される。確認した範囲で全長は8.8m，幅は下端で平均して0.9mを測る。深さは南側で標高25.7m，北側で同24.8mを測り，傾斜がついている。ＳＤ０２は同０１から西側に約2.6m離れて検出した浅い溝で，やはり弧状に認められた。全長9.0m，幅は下端で1.0mを測り，北側はさらにのびていたものと思われる。深さは南側で標高25.4m，北側で同24.5mあり，０１と同様に緩やかな傾斜がみられる。なお，このＳＤ０２の南端付近には径120cm，深さ65cmのピットが認められた。これらの遺構の年代・性格については，出土遺物もなかったことから不明といわざるをえない。



第57図　２区谷状地形実測図（１：120）

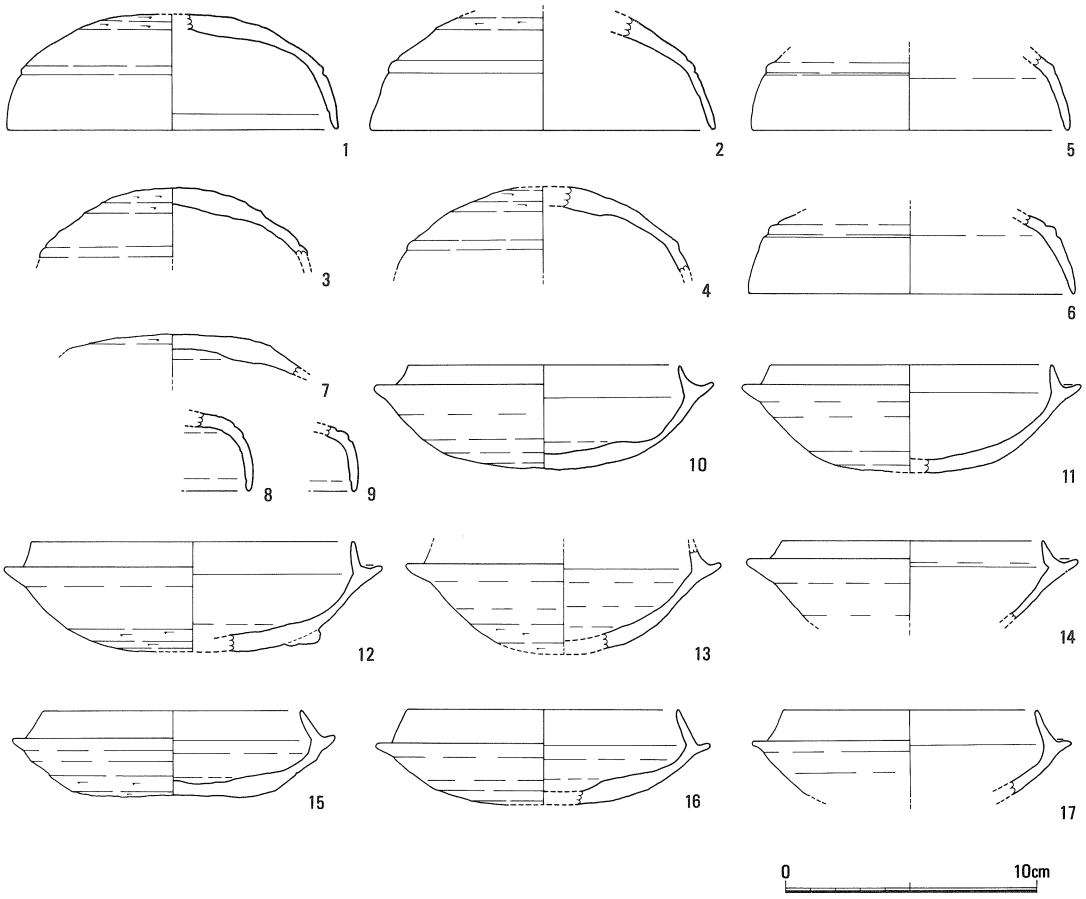
谷状地形（第57・58図，図版48・49）

調査区の南西側で認められた溝で，傾斜面を東側から西側に向かってわずかにＳ字状にカーブしながら下っている。この谷状地形は周囲でみられた他の溝と同様に，一応自然の浸食作用によってできたものと考えられるが，念のためここに記述しておく。規模は，確認した範囲で長さが17ｍ，中央での幅は３ｍあり，東端は後世の攪乱により大きくえぐられていた。また，西側はさらに伸びているものと思われる。出土遺物はいずれも流れ込みのものと考えられるが，少なくとも４層以下の土層には須恵器・土師器以外の遺物は認められなかった。須恵器は甕片が最も多かったが，他に坏・壺類もあり，なかには完形品に近いものも出土している。ちなみに，以下で図示した遺物のうち，第60図の１～３・14・16，第61図の１～４・11・17，第62図の４，第63図の１・５・６，第64図の２・６，第66図の７，第67図の５，第68図の１・２・10・11がこの谷状地形から出土している。



１．褐色土層　　４．暗褐色土層Ⅱ　　７．暗茶褐色土層Ⅰ（粘性あり）
２．褐色砂質土層　　５．暗茶褐色土層　　８．暗茶褐色土層Ⅱ
３．暗褐色土層Ⅰ　　６．暗褐色土層Ⅲ（やや黄味が加わる）

第58図　２区谷状地形土層断面図（１：60）



第59図　２区その他の出土遺物実測図（１）（１：３）

３．２区出土のその他の遺物

２区では，遺構に伴わないものの，多くの遺物が出土した。遺物には須恵器，土師器，陶磁器，耳環，石鏃などがあり，このうち最も出土量の多かったのは須恵器の破片である。出土地点は，調査区のほぼ全域にわたったが，中でも多かったのは加工段およびＳＤ０１・０２の北西側緩斜面と，谷状地形の周辺であった。加工段側では古墳時代後期の須恵器が，また，谷状地形周辺では奈良時代以降の須恵器が多く認められた。

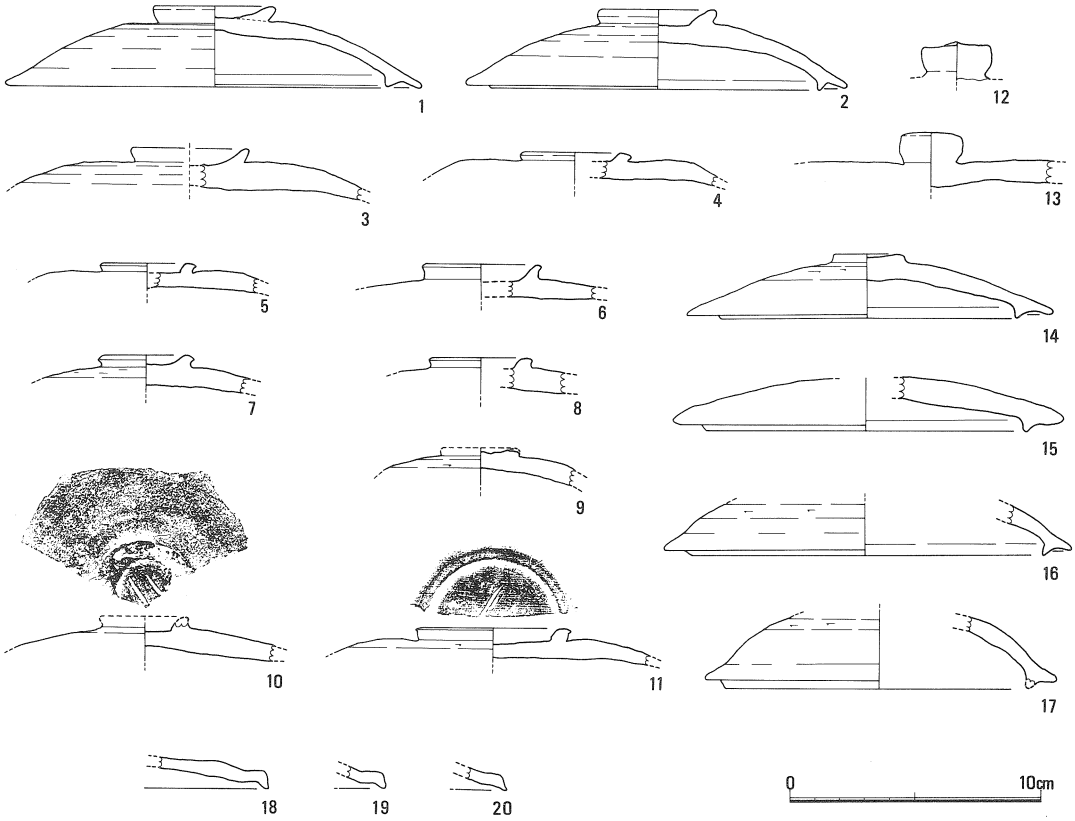
須恵器坏類（第59～61図，図版51～53）

第59図は，蓋坏で身のうちに受け部を伴うものである。蓋１～９は，天井部の高いものとやや偏平なものとがある。また，天井部と口縁部との稜が丸く突帯風に作り出したもの（１～６）と，２条の沈線によって作り出された鈍い段によって区分されたもの（７～９）とがある。このうち１の内面には軽い段が認められる。天井部外面についてはいずれも回転ヘラケズリが施されている。身

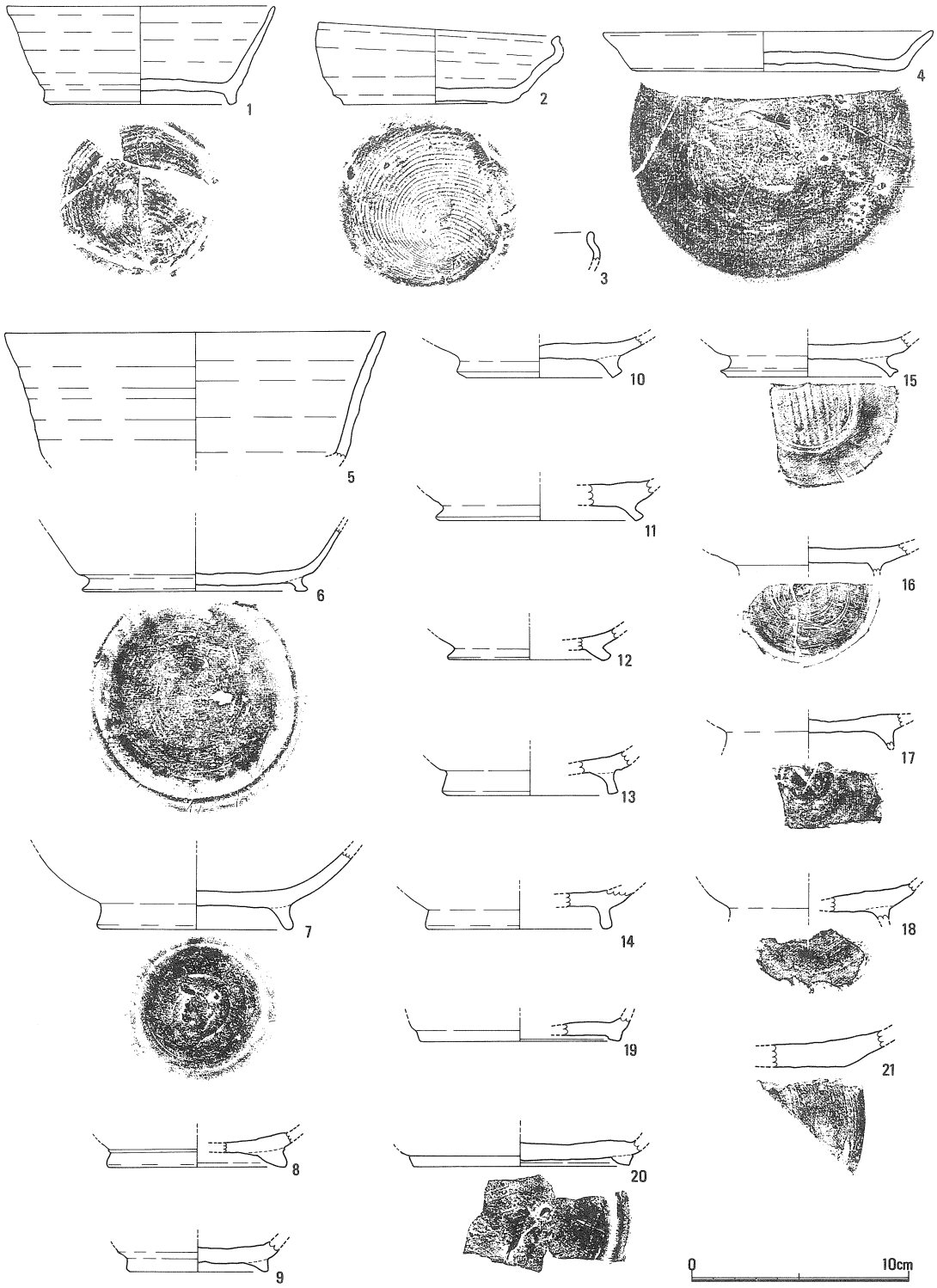
10～17も，蓋と同様に器高の高いものと，偏平なものとがある。受け部の立ち上がりはいずれも内傾するが，前者は比較的その度合いが弱く，後者はそれに比べ強い。

第60図では，坏蓋のうち天井部につまみを有したり（1～14），あるいは1・2も含め口縁内面に返りをもつもの（15～17），ないしは端部をかるく下方に折り曲げたもの（18～20）を取り上げた。つまみには輪状のもの（1～11），ボタン状のもの（12～13），偏平なもの（14）があるが，輪状のものにはさらに端部を単純に丸く収めたもの（1～3など）と，方形にして平坦面をもつもの（4・5など）とがある。また，10・11のようにつまみの中にヘラ記号が認められるものもある。口縁内面に返りをもつものには，つまみが輪状のもの（1・2）と，偏平なもの（14）がある。17には宝殊状のつまみが伴っていた可能性がある。なお，10・13は壺の蓋の可能性も考えられる。

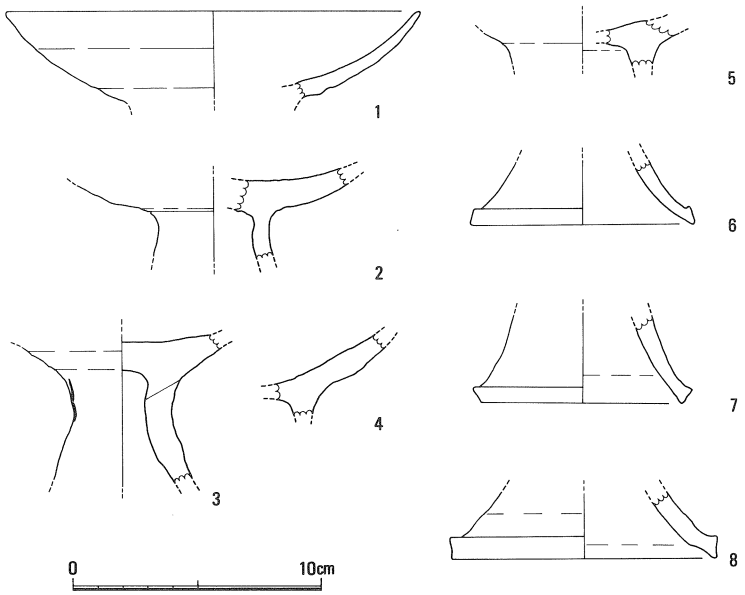
第61図は，坏のうち，高台付きのもの（1，5～20）や，糸切り底で無高台のもの（2・3，21），それに皿状のもの（4）を取り上げた。高台付きのものは，のちにナデを加えたものがあるが，明らかに底部が糸切りのもの（1・15），ヘラ切りのもの（7・19・20），回転ヘラケズリを施したもの（6）がある。高台は，直立気味のもの（1），「ハ」の字に広がるもので丸く終わるもの



第60図　2区その他の出土遺物実測図（2）（1：3）



第61図　２区その他の出土遺物実測図（３）（１：３）



第62図　２区その他の出土遺物実測図（４）（１：３）

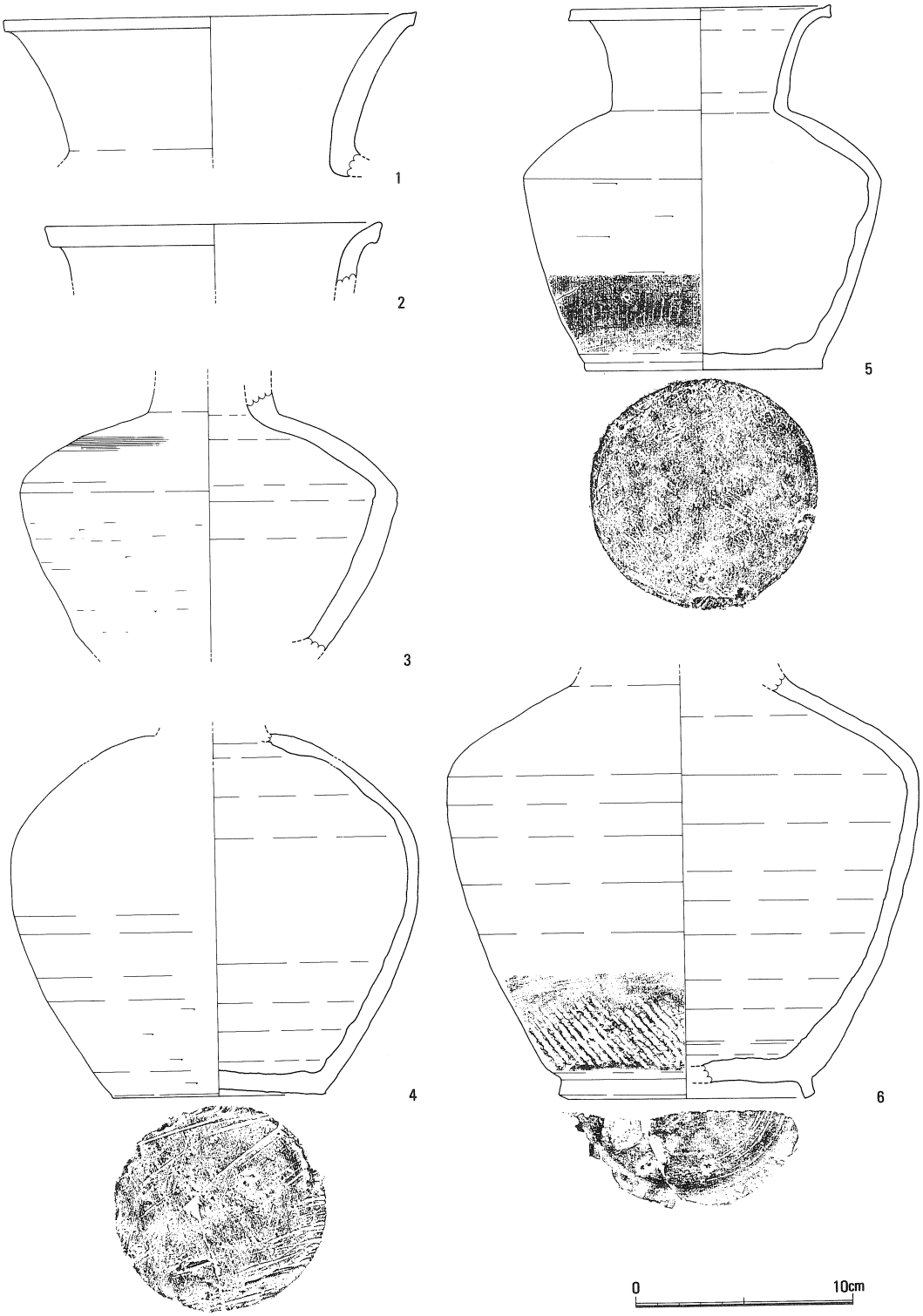
（７～９など）や，方形に終わるもの（10～14），また，ほとんど高さを有しないもの（19・20）など多様である。16～18の底部外面にはヘラ記号状のものが認められる。４は立ち上がりが短く外傾するもので，底部はヘラ切りののち粗くナデて仕上げられている。この内面には火ダスキ風の焼成痕が認められる。

須恵器高坏類（第62図，図版54）

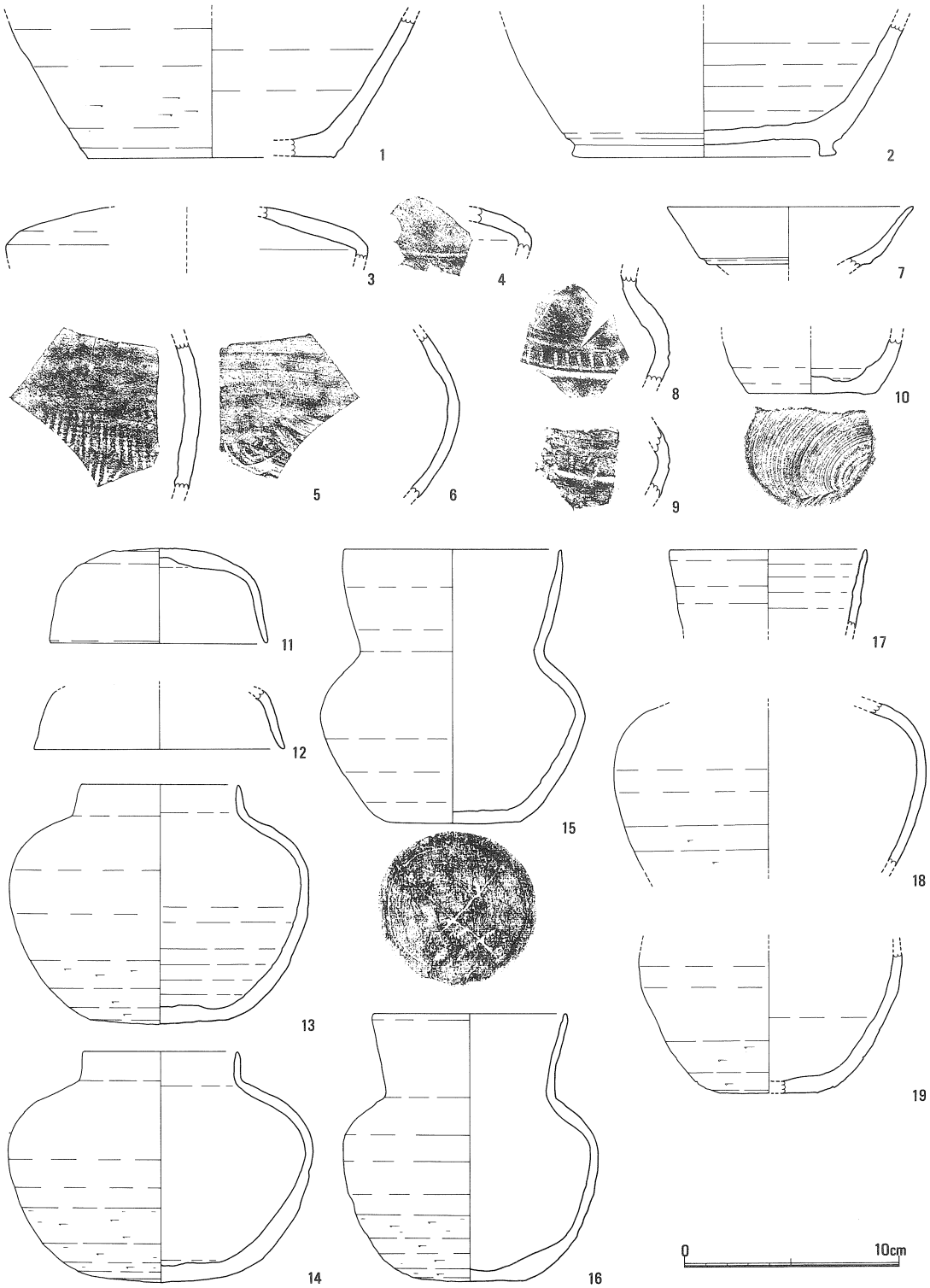
第62図は，高坏類であるが出土量は少ない。１が坏部，２～５が接合部，６～８が脚部と考えられるものである。透かしは２・３に認められる。３の場合，２方向の透かしである。なお，８は壺の口縁の可能性も考えられる。

須恵器壺・甕類（第63～67図，図版54～58）

第63図は，壺類の頸部と，胴部の全容がほぼ分かるものである。１・２は単純口縁で，端部に平坦面を有する。３は長頸壺の胴部かとみられるが，やや上位で肩がつき「く」の字に折れ曲がる。肩のつかない４は，胴部が上方で張り，丸みをもちながら底部に至る。胴部の調整は内面が回転ナデ，外面が丁寧な回転ヘラケズリを施す。底部は明瞭な平底で，回転台から取りはずしたのち（？）粗くナデを施す。５は胴部の上位で明瞭な稜線がつくが，肩部が丸味をもつのに対しそれより以下は直線的である。器高に比べ，胴部の張りが大きくやや偏平な感がある。調整は肩部以上が回転ナデ，それより以下は丁寧に回転ヘラケズリを施すが，胴部下半の一部に平行タタキ目痕のごときかすかな凸凹が認められる。回転ヘラケズリの際に生じた痕跡であろうか。底部については，粗いナデが加わるものの，粘土板から成形したのち，回転台からそのまま取り外したようにも見受けられる。６は肩の稜線が曖昧だがかなり上位で胴部が張るタイプのもので，底部にはわずかに開き気味の高台がつく。調整は胴部はほとんど回転ナデであるが，下端には格子状タタキ目痕を残している。底部はヘラ切りののち，ナデを施している。

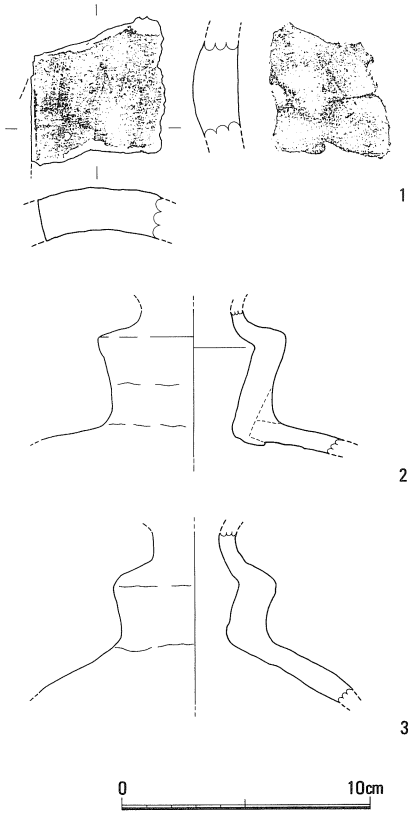


第63図　２区その他の出土遺物実測図（５）（１：３）



第64図　２区その他の出土遺物実測図（６）（１：３）

第64図は，瑳を含む壺類の胴部・底部の破片と，短頸壺，直口壺を取り上げた。胴部下方から底部にかけた破片で，1は平底のもの，2は高台付きのものである。3・4は壺の肩部の破片で，稜は明瞭，肩部は直線的である。他の須恵器類に比べ胎土が精緻である。5・6は胴部の破片で，5は下方に内外面ともタタキ目を残している。6は薄手で，3・4同様精緻な胎土が注目される。7～10は瑳の破片とみられ，7は口縁部，8・9は胴部で沈線と櫛状工具による連続刺突文がみられ，10は胴部下方で底部は糸切り痕を残している。11～14は有蓋短頸壺で，11・12が蓋部，13・14が胴部であり，11と13がセット関係にある可能性がある。15～17は直口壺で，15の底部外面には「×」状のヘラ記号が認められる。18・19は胴部から底部にかけた破片である。

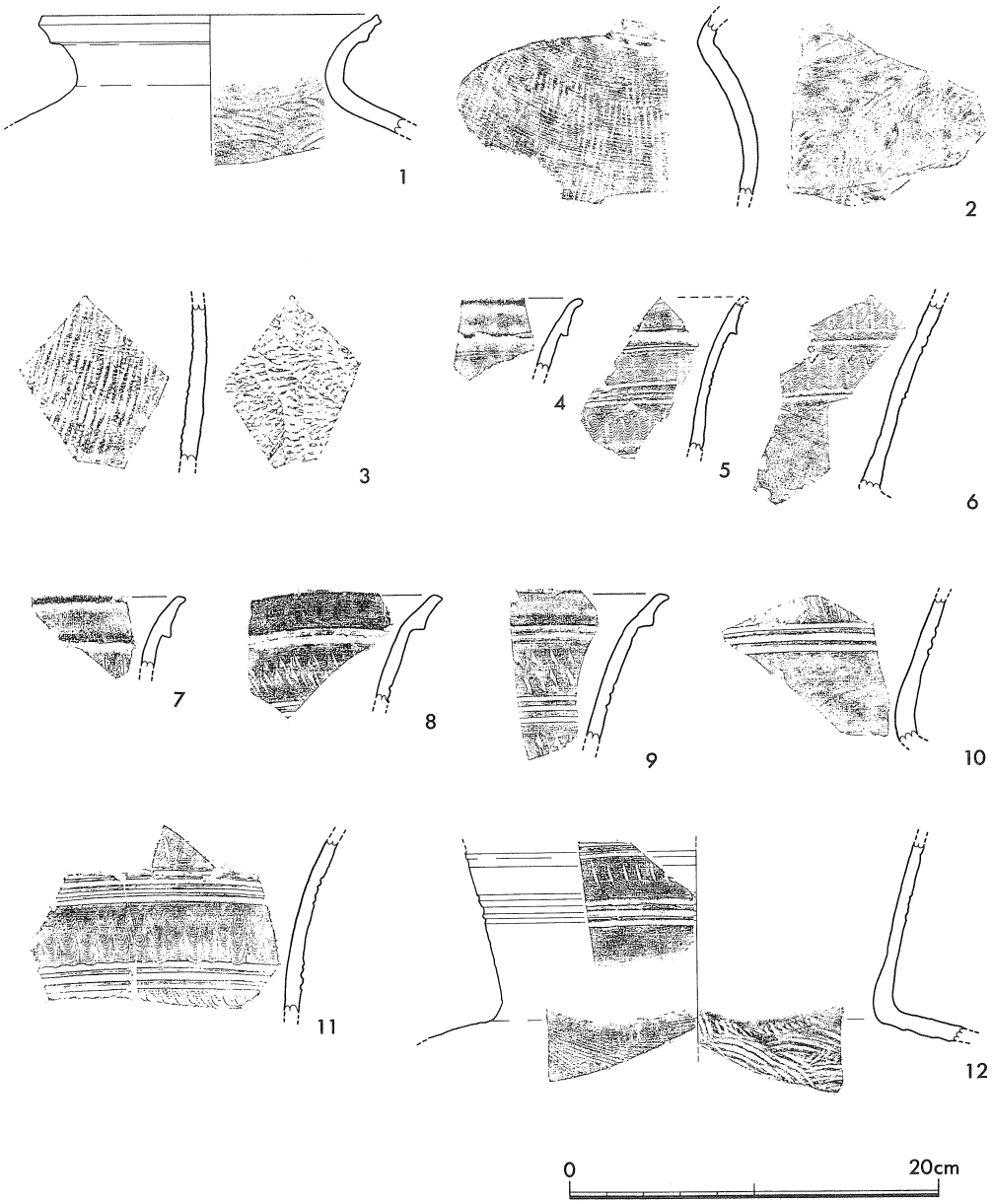


第65図　2区その他および周辺出土遺物実測図（7）（1：3）

第65図は，子持壺の破片とみられるものである。2区出土の1点（1）と，付近で表採した2点（2・3）とを併せて図示した。1は脚部の破片とみられ，透かしを有している。透かしは，その切り口がナデ方向と少し異なる点から考えると，三角形であった可能性がある。2・3は子壺の部分で，2は肩がはっきりするが，3はやや曖昧である。2は親壺との接合方法が分かる資料で，親壺に穿孔し，その中に子壺をはめ込んで接合する手法がみられる。なお，2・3の採集地点は，2区より丘陵を40mほど南に入った畑地である（第6図）。

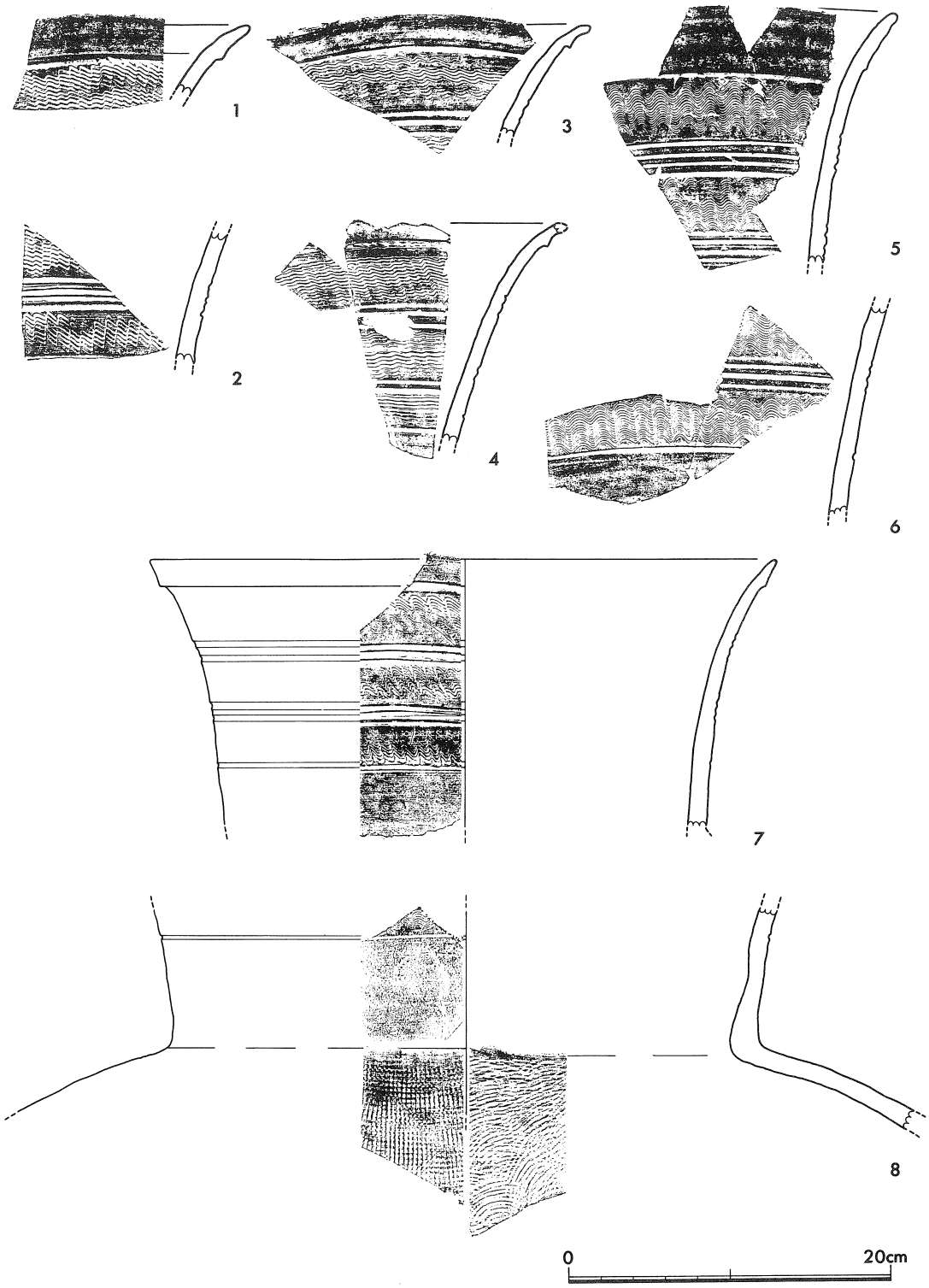
第66・67図は，壺・甕類の口縁部を中心にまとめたものである。

第66図は，1は口縁部先端の平坦面にはさらに面取りが施されている。2・3は肩から胴部にかけた破片で，2は外面格子状タタキ，内面同心円状タタキとするが，3の内面は放射状のタタキ目が認められる。4～7は沈線と櫛状工具による波状文が施されている通有の頸部である。同じ頸部でも9～11は特徴のある施文が施されていて注目される。9と10はヘラ状工具を器面に対して鋭角に押し当てて施したとみられる連続刺突文が沈線とともに認められる。また，11は沈線を挟んで波状文と先の刺突文とが施されている。4～6は同一個体の破片であり，7・11，9・10もその可能性がある。また，第67図の甕類の頸部は外面に1条から4条の沈線と波状文を施したものである

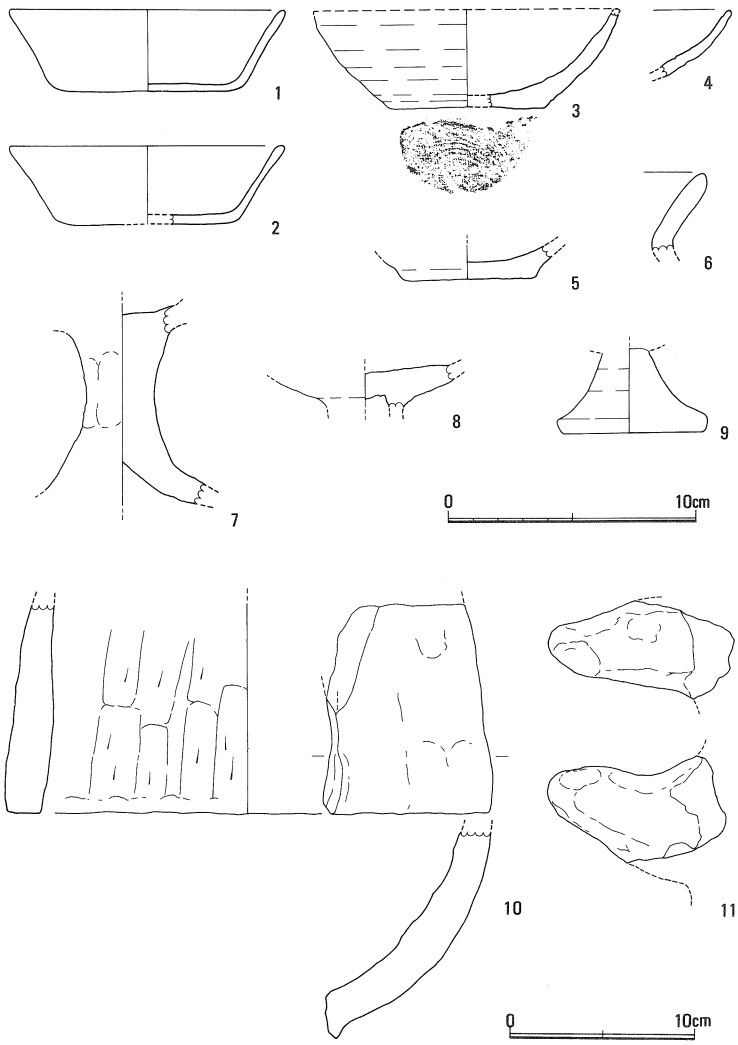


第66図　２区その他の出土遺物実測図（８）（１：４）

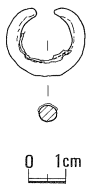
が，波状文の描き方には３のように振幅のほとんどないものもある。１・２，３・４，５・６がそれぞれ同一個体と考えられる。



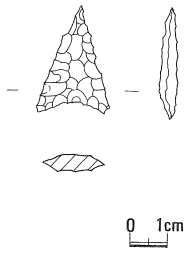
第67図　２区その他の出土遺物実測図（９）（１：４）



第68図　２区その他の出土遺物実測図（10）
（１～９は１：３，10～11は１：４）



第69図　２区その他の出土遺物実測図（11）（１：２）



第70図　２区その他の出土遺物実測図（12）（１：２）

土師器類

（第68図，図版58）

土師器には，坏，高坏，甕，カマド状のものなどがある。１～５は坏である。１・２は平底で，体部はわずかに外反ぎみに立ち上がる。器肉は薄手で赤色塗彩されている。３・４は体部が丸みをもちながら立ち上がる。３・５の底部には糸切り痕が認められる。６は単純口縁の甕片である。７・８は高坏で，７は内外面とも赤色顔料が塗られている。９は台付坏と考えられる。10はカマドの破片かと思われ，11はその把手か，または支脚の一部かと考えられる。

その他の遺物（第69・70図，図版50）

第69図は耳環で，鍍金の一部を残している。第70図は安山岩製の石鏃である。そのほか，黒曜石と玉髄質の剝片が認められた。黒曜石には漆黒色のものと黒灰色のものがある。　（鳥谷）

三田谷Ⅱ遺跡２区出土遺物観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図54-1	50	ＳＸ－０１	坏（土師器）	口径7.6 器高1.6	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ？	２㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約¼欠損
図54-2	50	ＳＸ－０１	坏（土師器）	口径7.4 底径3.9 器高1.5	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ？	1.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約⅓欠損
図54-3	50	ＳＸ－０１	坏（土師器）	口径7.4 底径4.0 器高1.7	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ？	1.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約⅓欠損
図54-4	50	ＳＸ－０１	坏（土師器）	口径4.0	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ？	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約⅓欠損
図59-1	51		蓋坏（須恵器）	口径(13.3) 器高4.5	天井部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡灰色	全体の約½欠損
図59-2	51	６Ｄ区 ５Ｄ区	蓋坏（須恵器）	口径(13.7) 器高4.7	天井部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外面：黄灰色 内面：淡灰色	全体の約⅕欠損
図59-3	51	５Ｅ区	蓋坏（須恵器）		天井部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を多く含む	良好	暗青灰色	口縁部ほぼ欠損
図59-4	51	６Ｅ区 ５Ｄ区	蓋坏（須恵器）		天井部外面：回転ヘラケズリ，天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約⅔欠損
図59-5	51	６Ｅ区 ５Ｅ区	蓋坏（須恵器）	口径(12.6)	内外面：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約¾欠損
図59-6	51	６Ｅ区	蓋坏（須恵器）	口径(13.0)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約⅙残存
図59-7	51	６Ｅ区 ５Ｅ区	蓋坏（須恵器）		天井部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：茶灰色	全体の約½残存
図59-8	51	６Ｅ区	蓋坏（須恵器）	口径(50.9)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	茶灰色	口縁部の約⅓残存
図59-9	51	６Ｅ区	蓋坏（須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黒茶灰色	口縁部の一部のみ残存
図59-10	51	６Ｅ区 ５Ｅ区	坏身（須恵器）	口径10.7 器高3.7	底部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外面：黄灰色 内面：青灰色	全体の約½欠損
図59-11	51	６Ｅ区 ５Ｅ区 ５Ｄ区	坏身（須恵器）	口径(11.1) 器高(4.3)	底部下半外面：回転ナデ，底部上半外面：ケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	全体の約⅔欠損
図59-12	51	５Ｄ区 ６Ｅ区 ６Ｄ区	坏身（須恵器）	口径(12.9) 器高(4.4)	底部外面：ケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	全体の約⅓欠損，ガラス質の窯壁片付着？
図59-13	51	６Ｅ区 ５Ｅ区	坏身（須恵器）	器高(4.0)	底部外面：ケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	１㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外面：青灰色 内面：淡灰色	全体の約½欠損
図59-14	51	６Ｅ区	坏身（須恵器）	口径(10.4)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口縁部の一部分のみ残存
図59-15	51	６Ｅ区	坏身（須恵器）	口径10.3 器高3.5	底部外面：回転ヘラケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黒茶灰色	全体の約⅕欠損
図59-16	51	６Ｅ区	坏身（須恵器）	口径(10.3) 器高(3.0)	底部外面：回転ヘラケズリ，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黒茶灰色	全体の約⅓残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図59-17	51	6Ｅ区 5Ｅ区 4Ｄ区	坏身 （須恵器）	口径(10.1)	内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗茶灰色	受部から体部の一部のみ残存
図60-1	52	5Ｆ区	坏蓋 （須恵器）	口径16.6 器高3.2	天井部外面：回転ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を多く含む	良好	外面：暗青灰色 内面：淡灰色	全体の約1/3残存
図60-2	52	5Ｆ区	坏蓋 （須恵器）	口径12.9 器高3.2	体部外面：回転ヘラケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	全体の約1/3残存
図60-3	52	5Ｆ区	坏蓋 （須恵器）		体部外面：ケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡青灰色	全体の約1/4残存
図60-4	52	6Ｇ区	坏蓋 （須恵器）		外面：回転ナデ，内面：ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約1/6欠損
図60-5	52	7Ｄ区	坏蓋 （須恵器）		天井部外面：ヘラケズリ天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	つまみから体部の一部のみ残存
図60-6	52	6Ｆ区	坏蓋 （須恵器）		外面：回転ナデ？，内面：ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	つまみから体部の一部のみ残存
図60-7	52	5Ｅ区	坏蓋 （須恵器）		天井部下半外面：ケズリ，天井部上半内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡青灰色	全体の約1/3残存
図60-8	52	5Ｇ区	坏蓋 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	天井部の一部のみ残存
図60-9	52	6Ｇ区	坏蓋 （須恵器）		天井部下半外面：ケズリ天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	つまみから体部の一部のみ残存
図60-10	52	5Ｇ区	壷蓋？ （須恵器）		外面：調整不明，内面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	外面：黄灰色 内面：茶褐色	全体の約1/3残存
図60-11	52	5Ｇ区	坏蓋 （須恵器）		天井部下半外面：ケズリ，天井部上半内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色	全体の約2/3残存，底部中央に×印アリ
図60-12	52	6Ｆ区	坏蓋 （須恵器）		外面：ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	つまみのみ残存
図60-13	52	6Ｇ区	坏蓋 （須恵器）		天井部外面：ヘラケズリ，ナデ，天井部内面：ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面：明青灰色 内面：黄灰色	天井部の一部のみ残存
図60-14	52	6Ｆ区 5Ｆ区	坏蓋 （須恵器）	口径11.5 器高2.6	天井部外面：ケズリ，回転ナデ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	全体の約1/3残存
図60-15	52	4Ｇ区	坏蓋 （須恵器）	口径(12.3)	天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	外面：黄青灰色 内面：黄灰色	全体の約1/5欠損
図60-16	52	5Ｅ区	坏蓋 （須恵器）	口径(16.4)	口縁部外面：回転ナデ，ケズリ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を多く含む	良好	明青灰色	口縁部の一部のみ残存
図60-17	52		坏蓋 （須恵器）	口径(12.1)	天井部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：黄灰色	天井部から口縁部の一部のみ残存
図60-18	52	6Ｆ区	坏蓋 （須恵器）		口縁部外面：回転ナデ，ヘラケズリの後ナデ，その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口縁部の一部のみ残存
図60-19	52	5Ｄ区	坏蓋 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口縁端部の一部のみ残存
図60-20	52	5Ｄ区	坏蓋 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	茶灰色	口縁端部の一部のみ残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図61-1	53	5Ｇ区	高台付坏（須恵器）	口径12.4 器高4.6 底径8.4	底部内面：糸切りの後ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	暗青灰色	全体の約1/3欠損
図61-2	53	5Ｆ区	坏身（須恵器）	口径11.2 器高3.8	底部外面：糸切り，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	歪みアリ
図61-3	53	5Ｅ区	坏身（須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：茶灰色	口縁端部の一部のみ残存
図61-4	53	6Ｆ区	坏身（須恵器）	口径15.3 器高1.8	底部外面：ナデ切りの後粗いナデ，底部内面：回転ナデ，ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	淡黄灰色	全体の約1/2残存
図61-5	53	5Ｅ区	坏身（須恵器）	口径(17.7)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を多く含む	良好	暗灰色	全体の約1/3残存
図61-6	53	6Ｇ区	高台付坏（須恵器）	底径10.3	底部外面：回転ヘラ切り，底部内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰白色	底部のみ残存
図61-7	53	6Ｄ区	高台付坏（須恵器）	底径(8.8)	底部外面：ナデ，ヘラ切り，底部内面：ナデ，回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	底部から体部の一部残存
図61-8	53	5Ｇ区	高台付坏（須恵器）	底径(8.3)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	底部の約1/2残存
図61-9	53	5Ｆ区	高台付坏（須恵器）	底径(6.4)	底部外面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	底部の一部のみ残存
図61-10	53	5Ｆ区	高台付坏（須恵器）	底径(6.8)	外面：回転ナデ，ヘラ切り，内面：回転ナデ，ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	底部の約2/3残存
図61-11	53	5Ｇ区	高台付坏（須恵器）	底径(9.2)	外面：回転ナデ，内面：ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡青灰色	底部の約1/5残存
図61-12	53	6Ｆ区	高台付坏（須恵器）	底径(7.2)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	底部の一部のみ残存
図61-13	53	6Ｄ区	高台付坏（須恵器）	底径(7.4)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：淡灰色	底部の一部のみ残存
図61-14	53	6Ｅ区	高台付坏（須恵器）	底径(8.3)	外面：回転ナデ，ナデ 内面：ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	茶灰色	底部の一部のみ残存
図61-15	53	5Ｆ区	高台付坏（須恵器）	底径(7.5)	外面：回転ナデ，静止糸切り，内面：ナデ	0.5㎜以下の砂粒を含む	良好	青灰色	底部のみ残存
図61-16	53	6Ｇ区 6Ｆ区	高台付坏（須恵器）		外面：回転ナデ，内面：ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	底部のみ残存
図61-17	53	5Ｇ区	高台付坏（須恵器）		外面：回転ナデ，内面：ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	底部のみ残存
図61-18	53	6Ｆ区	高台付坏（須恵器）		外面：回転ナデ，内面：ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	底部のみ残存，裏面端にヘラきずアリ
図61-19	53	5Ｆ区	高台付坏（須恵器）	底径(9.2)	内外面：回転ナデ，ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	底部の一部のみ残存
図61-20	53	6Ｅ区	高台付坏（須恵器）	底径(10.0)	外面：ナデ，内面：回転ナデ，ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	明青灰色	底部のみ残存
図61-21	53	5Ｅ区	坏身（須恵器）		外面：糸切りの後ナデ，ナデ，内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	底部の一部のみ残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図62-1	54		高坏（須恵器）	口径(16.6)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黒灰色	全体の約⅛残存
図62-2	54	6Ｄ区	高坏（須恵器）		坏部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	脚部から坏部の一部分のみ残存
図62-3	54	6Ｆ区	高坏（須恵器）		坏部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：暗灰色 内面：淡灰色	脚部から坏底部にかけて残存，２方に透しアリ
図62-4	54	6Ｇ区	高坏（須恵器）		坏部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：暗褐色 内面：淡灰色	坏部底部の一部分のみ残存
図62-5	54	7Ｄ区	高坏（須恵器）		内外面：回転ナデ？	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	茶灰色	坏底部のみ残存
図62-6	54	8Ｅ区	高坏（須恵器）	底径(8.9)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	脚部下半のみ残存
図62-7	54	6Ｄ区	高坏（須恵器）	底径(8.1)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	脚部下半のみ残存
図62-8	54	4Ｆ区	高坏（須恵器）	底径(10.2)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	脚部下半の一部分のみ残存
図63-1	55	5Ｆ区	甕（須恵器）	口径(18.9)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗黄灰色	口縁部の約¼残存
図63-2	55	6Ｆ区	壷（須恵器）	口径(15.3)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黒褐色	口縁部の一部分のみ残存
図63-3	54	6Ｃ区	長頸壷（須恵器）	胴部最大径（17.3）	胴部外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	やや不良	淡黄茶灰色	底部，頸部欠損
図63-4	54	5Ｆ区	壷（須恵器）	底径(9.8) 胴部最大径(18.2)	底部外面：ヘラ切りの後粗いナデ，胴部下半外面：ヘラケズリ，胴部上半外面：ヘラケズリの後ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡灰色 内面：青灰色	頸部欠損，底部から胴部の約⅔欠損，肩部に黄灰色の釉がかかる
図63-5	54		壷（須恵器）	口径12.0 底径10.9 器高16.6	底部外面：ヘラ切りの後ナデ，胴部外面：ヘラケズリの後ナデ？，その他：回転ナデ	4㎜以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	頸部の約⅓欠損，肩部の一部に緑色釉がかかる
図63-6	54	6Ｆ区 5Ｆ区 6Ｇ区	壷（須恵器）	底径(10.9) 胴部最大径(21.5)	底部外面：ヘラ切りの後ナデ，回転ナデ，胴部下部外面：櫛目状タタキ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：青灰色	頸部欠損，肩部から底部の約⅔欠損
図64-1	55	6Ｅ区	壷（須恵器）	底径(11.1)	底部外面：ヘラ切り，胴部下半外面：ケズリ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	底部から胴部の一部のみ残存
図64-2	55	5Ｆ区 5Ｇ区	壷（須恵器）	底径(11.2)	底部外面：ヘラ切りの後ナデ，胴部外面：ヘラケズリの後回転ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	底部から胴部にかけて約⅓残存
図64-3	55		壷蓋（須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黄茶灰色 内面：淡灰色	天井部の一部分のみ残存
図64-4	55	6Ｅ区	壷（須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	明灰色	肩部の一部のみ残存
図64-5	55	6Ｅ区	壷（須恵器）		内外面：回転ナデ，タタキ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黄暗灰色 内面：紫青灰色	肩部の一部分のみ残存
図64-6	55	6Ｆ区	壷（須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黄灰色 内面：暗灰色	肩部から胴部の一部分のみ残存
図64-7	55	5Ｅ区	瓿（須恵器）	口径(11.4)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色	口縁部の約⅓残存

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図64-8	55		甕（須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：紫灰色	肩部の一部分のみ残存刺突文アリ
図64-9	55	7F区	甕（須恵器）		内外面：	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	肩部の一部分のみ残存，刺突文，一条の沈線アリ
図64-10	55	6F区	甕（須恵器）	底径(6.0)	底部外面：糸切り，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：暗灰色	底部から胴部下半の一部のみ残存
図64-11	56	6E区	壺蓋（須恵器）	口径10.1 器高4.4	天井部外面：回転ヘラケズリ，天井部内面：ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：暗青灰色 内面：淡黄灰色	全体の約⅓欠損
図64-12	55	5E区	壺蓋（須恵器）	口径(11.6)	内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：淡青灰色	口縁部の一部分のみ残存
図64-13	56	6E区	壺（須恵器）	口径7.3 器高11.0	底部，胴部下半外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：灰色	全体の約½欠損
図64-14	56	6E区	壺（須恵器）	口径7.1 器高10.8	底部，胴部下半外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：黄灰色	全体の約⅓欠損
図64-15	56	6E区	壺（須恵器）	口径10.0 器高12.7	底部外面：ヘラケズリ，胴部下半外面ケズリの後ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	全体の約¼欠損，底部外面に×印のヘラ記号アリ
図64-16	56	6E区	壺（須恵器）	口径9.0 器高12.5	底部，胴部下半外面：ケズリ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約½欠損
図64-17	55	6G区	壺（須恵器）	口径(9.2)	内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	口縁部の約⅛残存
図64-18	55	6E区	壺（須恵器）		外面：回転ヘラケズリ，回転ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	やや不良	外面：黒灰色 内面：灰色	肩部から胴部の約⅓残存
図64-19	55	6G区	壺（須恵器）	底径(4.7)	底部，胴部下半外面：回転ヘラケズリ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡灰色 内面：黄灰色	底部から胴部の約⅙残存
図65-1	58	6G区	子持壺（須恵器）		外面：タテ方向のナデ，内面：指頭圧痕ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：暗灰色	透し部分の一部残存
図65-2	58		子持壺（須恵器）	子壺胴部最大径(8.2)	親壺胴部内面：タタキ，子壺内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：暗褐灰色 内面：黒灰色	子壺の約¼と親壺同部の一部残存子壺の接合部に指頭圧痕アリ
図65-3	58		子持壺（須恵器）	子壺胴部最大径(6.5)	親壺胴部内面：タタキ，子壺内面：ナデ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡白灰色	親壺の胴部の一部と先端部を除く子壺部分残存
図66-1	56	4F区	壺（須恵器）	口径(18.2)	肩部内面：タタキの後ナデ消し，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	外面：黒茶褐色 内面：黒灰色	口縁部から肩部の一部分のみ残存
図66-2	56	6F区	甕（須恵器）		胴部外面：タタキの後ヨコナデ，胴部内面：タタキの後ヨコナデ消し，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：暗黄灰色 内面：青灰色	胴部上半部の一部分のみ残存
図66-3	56	6F区	甕（須恵器）		内外面：タタキ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡黄灰色 内面：淡灰色	胴部の一部分のみ残存
図66-4	56	5D区	甕（須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：茶灰色	口縁部の一部分のみ残存，外面に波状文アリ
図66-5	56	5D区	甕（須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口縁部，頸の一部のみ残存，外面に複数の沈線，波状文アリ
図66-6	56	6D区	甕（須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	頸部の一部のみ残存，外面に2条の沈線と波状文アリ

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図66-7	57	5Ｇ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：黄灰色	口縁部の一部のみ残存，外面に波状文アリ
図66-8	57	第10トレンチ	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：黄灰色	口縁部の一部のみ残存，外面に２条の沈線，刺突文アリ
図66-9	57	8Ｅ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡青灰色 内面：茶灰色	口縁部，頸部の一部のみ残存，外面に３条の沈線，刺突文アリ
図66-10	57	8Ｅ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：淡青灰色 内面：茶灰色	頸部の一部のみ残存，外面に３条の沈線，連続刺突文アリ
図66-11	57	5Ｆ区 4Ｆ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：黄茶灰色	頸部の一部のみ残存，外面に４条，３条の沈線と波状文アリ
図66-12	57	6Ｅ区	甕 （須恵器）		胴部外面：ハケ目，胴部内面：タタキ，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：茶灰色	頸部，胴部の一部残存，２条，３条の沈線と，刺突文アリ
図67-1	57	5Ｆ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：茶灰色	口縁部の一部のみ残存，外面に波状文アリ
図67-2	57	5Ｆ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：淡黄灰色	頸部の一部のみ残存，４条の沈線，波状文アリ
図67-3	57	第６トレンチ	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色	口縁部，頸部の一部分のみ残存，３条の沈線，波状文アリ
図67-4	57	6Ｆ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口縁部，頸部の一部分のみ残存，複数の沈線と波状文アリ
図67-5	57	6Ｆ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口縁部，頸部の一部分のみ残存，４条の沈線と刺突文アリ
図67-6	57	6Ｆ区	甕 （須恵器）		内面：回転ナデ，外面：指押圧痕の後回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黒褐色	頸部の一部分のみ残存，１条，３条の沈線と波状文アリ
図67-7	58	7Ｃ区	甕 （須恵器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色	口縁部，頸部の一部分のみ残存，１条，３条の沈線と波状文アリ
図67-8	58	4Ｆ区	甕 （須恵器）		胴部内外面：タタキ，頸部内面：指頭圧痕の後回転ナデ，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	黒灰色	頸部，胴部の一部分のみ残存，１条の沈線と波状文アリ
図68-1	58	6Ｆ区	坏身 （土師器）	口径11.0 器高3.3	内外面：回転ナデ	2.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約½残存，赤色塗彩アリ
図68-2	58	6Ｆ区	坏身 （土師器）	口径11.0 器高3.2	内外面：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約¼残存
図68-3	58	6Ｆ区	坏身 （土師器）		底部外面：回転糸切り，その他：回転ナデ	1㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約⅓残存
図68-4	58	6Ｆ区	坏身 （土師器）		内外面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	赤茶色	口縁部の一部分のみ残存
図68-5	58	6Ｅ区	坏身 （土師器）	底径5.2	底部外面：回転糸切り，その他：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良好	赤茶色	底部のみ残存
図68-6	58	6Ｇ区	壷 （土師器）		内外面：ヨコナデ？	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄褐色	口縁部の一部のみ残存
図68-7	58		高坏 （土師器）		内外面：手ゴネによるナデ	0.5㎜以下の砂粒を少々含む	良好	淡赤茶色	脚部のみ残存，部分的に赤色塗彩アリ

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量（cm）	手　法　の　特　徴	胎　土	焼成	色　　調	備　考
図68-8	58	6Ｇ区	高坏（土師器）		内外面：調整不明	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄色	坏部底部のみ残存
図68-9	58	5Ｅ区	高坏（土師器）	底部5.7	底部：回転糸切り？その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	赤茶色	脚部のみ残存
図68-10	58	7Ｇ区	竈？（土師質）		外面：調整不明，内面：ヘラケズリ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	赤茶褐色	全体の約1/5残存
図68-11	58	7Ｇ区	支脚？（土師質）		内外面：調整不明	1mm以下の砂粒を含む	良好	赤茶褐色	把手部分のみ残存
図69-1	50		耳環	最大径2.1					内側に鍍金残る，器表面の荒れが著しい，銅製
図70-1	50	6Ｆ区	石鏃	全長　2.3 最大幅1.5					安山岩質

※　法量中の（　）は推定復元値である。　　（永　井）

Ⅵ 上沢Ⅰ遺跡

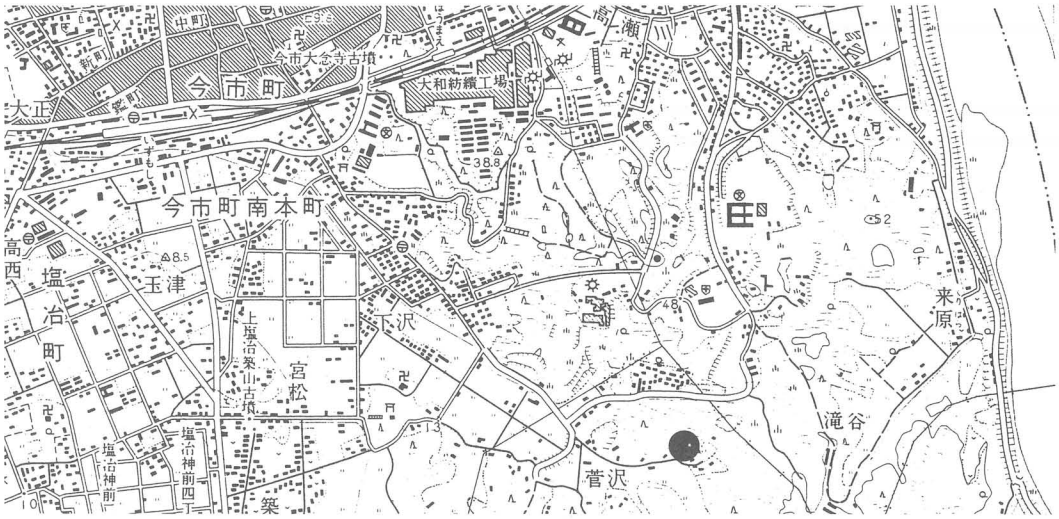
1．遺跡の位置と調査の概要

平成５年度の斐伊川放水路発掘調査では，三田谷Ⅱ遺跡Ⅱ区等の全面発掘調査と並行し，斐伊川放水路開削予定地内の遺跡の範囲を確認するためのトレンチ調査を行なっている。トレンチ調査は，開削部全体の内，西側約２／３の地域を対象に，分布調査でマークした要注意箇所を，１～31の地点に分け，それぞれについて行った。このうち，30地点では，土坑１基が検出されたものの，遺物は見られなかった。しかし，付近の丘陵や，水田部でのトレンチも含め，他に遺構が見られなかったことから，急遽全面発掘を行うこととした。

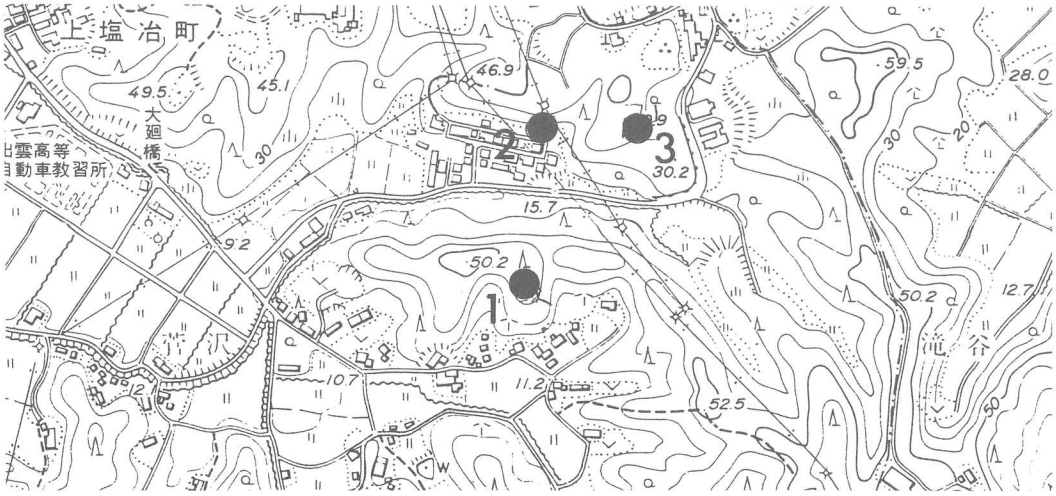
土壙を検出した位置は，出雲市上塩冶町2874番地にあたり，名称は，字名から上沢Ⅰ遺跡とした。調査面積は約40㎡であった。

上沢Ⅰ遺跡は，標高約45ｍの丘陵上に位置し，遺跡南側の水田部からの比高差は約30ｍを測る。遺跡の北側には，近世に開削された間府川が見られるが，斐伊川と神戸川のちょうど中程に位置するため，付近に大きな河川は見られない。遺跡の位置する丘陵は，出雲市上塩冶町管沢から東へ延びる小丘陵で，大津町長者原で一旦途切れた後，南側の山塊に続く。

出雲市上塩冶町は，神戸川に近い西方では，上塩冶築山古墳・上塩冶横穴群・三田谷遺跡などが知られており，遺跡の密度が高い地域である。しかし，東方にあたる上沢Ⅰ遺跡周辺では，奈良時代の火葬墓と言われている菅沢古墓[(1)]，同じく奈良時代の寺院跡と考えられる長者原廃寺[(2)]以外の遺跡はほとんど知られていない。



第71図　上沢Ⅰ遺跡位置図（１：25000，国土地理院今市）



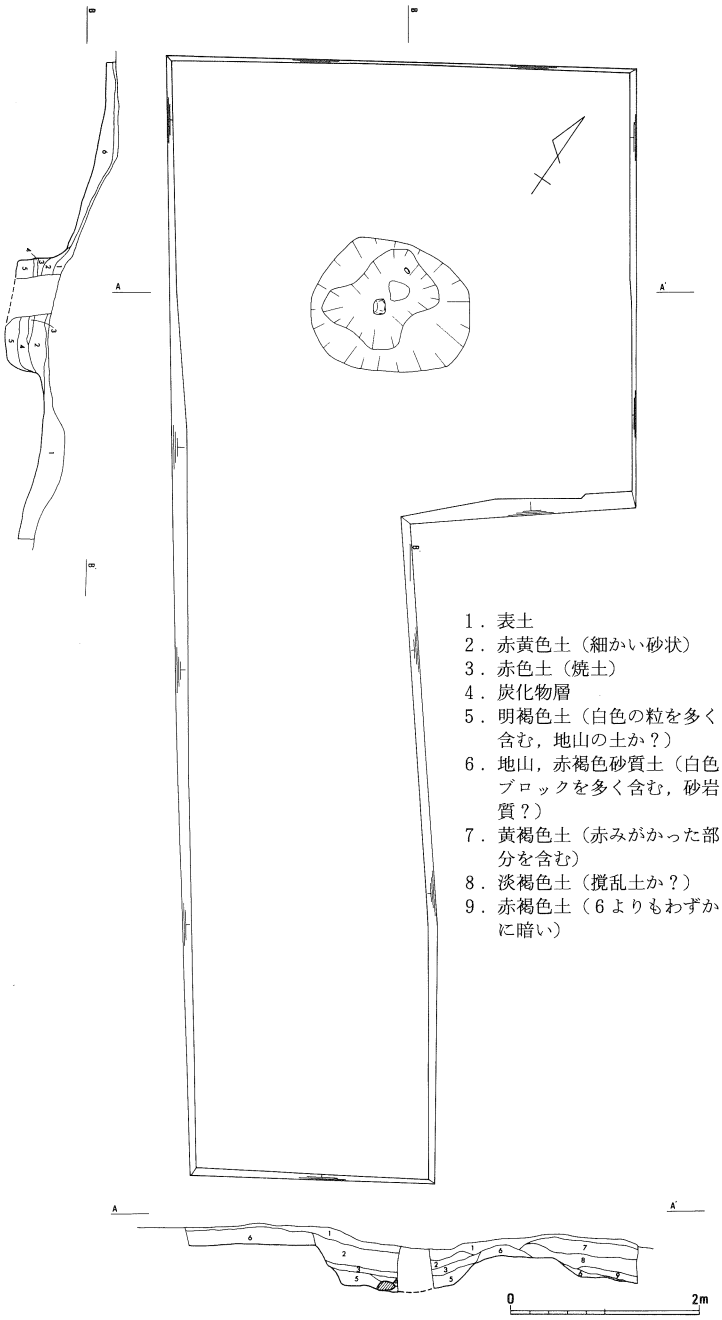
第72図　上沢Ⅰ遺跡の位置とその周辺の遺跡（1：10,000）
1．上沢Ⅰ遺跡　2．菅沢古墓　3．長者原廃寺

上沢Ⅰ遺跡の在る丘陵は，東西に2つのピークを持ち，どちらも非常になだらかである。東側のピークでは，平坦面を中心にトレンチを設定し，採土の跡地と見られる加工面を検出したが，明確な遺構・遺物は確認できなかった。西側のピークは，なだらかな尾根が長く延びていたが，明確な平坦面は見られなかった。ピークを中心に四方にトレンチを設定し，掘削した結果，ピーク付近南側斜面から，平面円形の土坑1基（ＳＫ01）を検出した。他のトレンチも含め，遺物が全く出土しなかった点，地表面の観察から，遺構が大きな広がりを持たないと考えられる点等から，単独の遺構と判断し，当該トレンチを約10㎡拡張し，全面発掘を行なった。

第73図　上沢Ⅰ遺跡トレンチ配置図（1：1,000）

2．遺構の概要

ＳＫ01は，平面長円形を呈し，長径約169cm，短径約138cm，深さ約68cm である。壁面は，焼けて赤変しており，埋土内には多量の炭が含まれていた。表土下



第74図　上沢Ｉ遺跡ＳＫ０１実測図（１：80）

層には，赤褐色砂質土と焼土と考えられる赤色土が堆積しており，その下に炭化物が見られる。炭化物層下層からは，拳大の礫を検出したが，床面からわずかに浮いており，火を受けた形跡も見られなかった。この礫は，地山崩落土と考えられる明褐色土に含まれており，土坑の機能焼失後に，上方から流れ込んだものと考えられる。

３．小結

ＳＫ01は，多量の炭化物，焼土層を含む点，壁面が焼けている点などから，火を使用する施設と考えられる。また，床面と炭化物層の間に地山崩落土と思われる土が含まれている点や，焼土層が床面から離れた高い位置に有ることなどから，ＳＫ01の機能時には天井や壁面を構築していたものと思われる。ＳＫ01の性格については，炭焼き窯であった可能性が考えられるが，周辺に遺物が見られないため，遺構の時期も含め，特定できない。

（林）

註１　池田満雄「菅沢古墓」『島根県埋蔵文化財調査報告書第Ⅲ集』島根県教育委員会　昭和46年

註２　池田満雄「古代寺院跡」『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』島根県教育委員会昭和55年

Ⅶ まとめ

以上，二つの遺跡の調査概要を述べてきたが，最後にこのうちの三田谷Ⅱ遺跡において認められた遺構・遺物について，その時期および特徴をまとめてみることにする。

1．遺構について

まず，古墳（ＳＸ０１）について整理しておこう。本古墳は三田谷の丘陵斜面に築かれた山寄せの古墳で，内部構造として横穴式石室を有する，径14m前後の円墳と推定される。石室の規模は，不明な部分が多いが，羨道部が現存長2.2m，最大幅0.9mを測り，玄室部は羨道側での幅が1.25mで，長さは３m前後と推定される。石室の構築方法は，羨道部や残石をみる限りは少なくとも切石と自然石を併用して築造したものと考えられ，その積み方には切組積み手法の可能性もある。また，石室の平面形は，玄室床面の痕跡やその掘り方および残石の配置からすると，縦長プランでしかも羨道部側に向かって狭くなる羽子板状を呈していたと推定される。築造時期を出土遺物から検討すると，須恵器坏身片（第24図－１）は，山本清氏の須恵器編年[(1)]では第３期の特徴をもち，また陶邑編年[(2)]に照らせばＴＫ43型式に比定できるように思われる。これからすれば，古墳時代後期の，およそ６世紀後葉から７世紀初頭にかけた時期に築造されたものと推定できる。

この古墳を神戸川下流域に分布する他の横穴式石室を有する古墳と比較すると，石室の規模では刈山４・５号墳の横穴式石室に近いものがあり[(3)]，小規模な方にランクすることができる。また，石室の構築方法についてみると，上塩冶築山古墳，放れ山古墳，刈山４号墳，同５号墳の石室[(4)]に類似していると考えられる。これら４古墳の石室形態は，近年の出雲西部における横穴式石室研究では３大別された中での２類にまとめられているが[(5)]，本古墳もこの種の一例として理解してよいであろう。羽子板状の平面プランも，この類型のうちの上塩冶築山古墳，放れ山古墳の石室に共通するものである。

次に，土坑墓ほか（１区ＳＸ０２～０４・ＳＫ０１～０５，２区ＳＸ０１）についてまとめてみよう。まず，これらが営なまれた時期についてみると，２区のＳＸ０１を除けば伴出遺物である須恵器はいずれも山本清氏編年の４期以降に相当し，陶邑編年ではＴＫ217型式以降の特徴を備えている。また，これを飛鳥編年に照らせば，ＳＸ０２が飛鳥Ⅱ，ＳＸ０３が飛鳥Ⅱ，ＳＸ０４が飛鳥Ⅲないし Ⅳ，ＳＫ０１が飛鳥Ⅱ，ＳＫ０３が飛鳥Ⅱないし Ⅲ，ＳＫ０５が飛鳥Ⅱに比定できるように思われる。これを実年代でいえば，おおよそ７世紀代のうちに営まれたと推定されよう[(6)]。

遺構の性格については，１区ＳＸ０２～０４は規模，形態，出土遺物から土坑墓と考えた。また，ＳＫ０２・０３も規模，形態，覆土などを総合的に考えるとその可能性があるように思われる。これらは素掘りの簡素な形態のもので，規模も小さいのが特徴である。副葬品に関しても数点の須恵器

か，他にあっても刀子が伴う程度であり，その内容は極めて貧弱であるといえる（ＳＫ０２が土坑墓であるとすると副葬品が伴わないものがあることになる）。また，これらの存在形態についてみると，検出時の遺構の配置状況をみる限りでは，密に存在するというよりも散在的といったほうが適当のようである。この時期のものと確認された土坑墓の調査例は少ないが，松江市古曽志遺跡群の例[7]や岡山県津山市金井別所遺跡の例[8]でも単独ないしは数基で存在していることを考え合わせると，この時期の土坑墓の在り方としてはこうした状態がむしろ一般的であったのかもしれない。

１区ＳＫ０１と０５は，方形状の平面プランをとりながら部分的に溝やピットが伴うなど，先の土坑墓とは様相を異にするものである。出土遺物は，０１では須恵器坏，高坏，壺があり，０５では須恵器坏，甕が認められた。このような遺構はいまのところ他に例がみられず性格について特定することはできないが，特異な形態や遺物の器種構成などからすると，住居跡とも異なるようであり，何か特殊なものとして造られたとみるのが適当ではないだろうか。

なお，２区検出の土坑墓（ＳＸ０１）の場合は，松江市中竹矢遺跡Ⅳ区出土遺物[9]や簸川郡斐川町西石橋遺跡土坑墓出土遺物[10]を参考にすると，伴出の土師器４点はおよそ12・13世紀ごろのものではなかろうかと推定される[11]。この時期を前後する土坑墓の例をあげると，県下では松江市長峯遺跡土坑墓（10世紀前半），同市上本庄町的場遺跡土坑墓（12世紀後半），斐川郡斐川町西石橋遺跡土坑墓（12世紀）が知られる程度である[12]。時期が判然としないが，古代末期から中世にかけた時期の簡素な土坑墓の一例を加えたことになろう。

２．遺物について

１区・２区からは，遺構には伴わないものの須恵器，土師器，陶磁器，石器，鉄刀片，耳環などの遺物が出土した。このうち最も量が多かったのは須恵器である。ここではこの須恵器について整理しておこう。

まず時期についてであるが，坏・高坏類では第39図１～５の坏蓋（高坏），第40図１～26および第59図１～17の坏蓋身，第42図１～12の有蓋高坏は，山本清氏編年の第３期の段階に相当するものである。陶邑編年ではおよそＴＫ43型式のものに比定できることから，６世紀後葉から７世紀初頭の時期が考えられる。また第40図－27・28の坏身はＴＫ209・217型式に相当し，７世紀前半とみられる。第42図－16・17の高坏もおよそこの時期の中におさまるものと推定される。これ以外の須恵器は，山本清氏の編年ではすべて第４期以降の特徴を有するものである。出雲国庁跡編年[13]に照らしながら時期を推定すると，第41図－１および第60図－１・２の坏蓋は第１形式に相当し７世紀末以前，第41図－２～４の坏蓋は同２・３形式に相当し７世紀末から８世紀前半にかけて，第41図－10・11および第61図－２・３の坏は同第３・４形式に相当し８世紀でもやや後半代，第60図－18～20の坏蓋端部は同第

4形式以降とみられ8世紀後半以降，第61図－4の皿は第5形式に相当し9世紀初頭といった時期が考えられる。また，第61図－1の坏は8世紀後葉から9世紀初頭のものではなかろうかと推定される。[14]

壺・甕類については，第44図－1～6・9および第64図－15～17の直口壺，第44図－10の長頸壺，第45図－4～6の甑，第45図－11～13および第64図－11～14の有蓋短頸壺は，高広遺跡編年[15]を参考にすれば，同Ⅰ期AないしBに相当し，6世紀後葉から7世紀初頭の時期のものと考えられる。また，甑のうち第45図－8および第64図－10は，同Ⅲ期Bに相当し，7世紀末から8世紀前葉にかけてが考えられる。第46図－2・3の壺は，溶着した坏蓋が陶邑編年TK43型式併行期のものとみられ，6世紀後葉から7世紀初頭が考えられる。第46図－1の提瓶，第47図－2～5の甕，第65図－1～3の子持壺もこれとほぼ同じ時期のものかと思われる。[16] 第63図－3の長頸壺は，7世紀代のものであろうか。第45図－14の有蓋壺および第63図－4～6の壺は，当地での類例があまり知られないが，おおよそ8・9世紀代のものではないかと推定される。[17]

こうしてみると，三田谷Ⅱ遺跡出土の須恵器は，6世紀後葉からおよそ8・9世紀代の時期のものが認められる。次に，これらの須恵器について気の付いた点を二，三挙げて終わりにしよう。

6世紀後葉から7世紀初頭にかけた須恵器について注目してみると，この時期のものには蓋坏をはじめ高坏，甑，有蓋短頸壺，長頸壺，直口壺，子持壺，提瓶などがあり，器種が豊富である。これら一群の須恵器は，他の遺物に鉄刀片や耳環があることなどを考え合わせると，古墳の副葬品であった可能性が強いように思われる。

また，この時期の須恵器には出雲東部のそれとは趣を異にするものが含まれていて興味深いものがある。第39図－1～6の坏（高坏）蓋は，天井部外面にカキ目ないしはカキ目状の調整を意識的に施したものであるが（さらに1～5はこれに加えて「×」状のヘラ記号を刻んでいる），このような例は出雲市・放れ山古墳[18]，浜田市・沃田寺山古墳，同市・日脚下浦（御神幸地）遺跡[19]の出土遺物にみられ，その分布はいまのところ出雲西部以西にあることが注意される。また，時期を定かにしがたいが，壺・甕類のなかにもこのような傾向がみられるのも特記すべきことであろう。すなわち，口縁部外面にヘラ状工具により連続刺突文を施したもの（第66図－8～10・12），ないしは通常の波状文とともにこれを施したもの（第66図－11）が認められる点であるが，この種の刺突文もいまのところ益田市西平原窯跡群[20]，鵜ノ鼻古墳群[21]の出土遺物に例があるのみである。

なお，およそ8・9世紀代のものとみられる須恵器には多くの壺類が認められた。この点も本遺跡性格を特徴づけるものといってよいように思われるが，これらの用途としては日常用の容器とは違う何か特殊なものが考えられるかもしれない。（鳥谷・永井）

註

（1）　山本清「山陰の須恵器」『山陰古墳文化の研究』所収　1971

（2）　田辺昭三『陶邑古窯址群Ⅰ』　1966

（3）　因に，刈山古墳４号墳は玄室規模が3.23×1.32m，５号墳が3.2×1.3mである。

（4）　島根県教育委員会外『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』　1980。西尾良一「大社造と横穴式石室」『山本清先生喜寿記念論集山陰考古学の諸問題』　1986

（5）　角田徳幸・西尾克巳「出雲西部における後期古墳文化の検討－横穴式石室の構造と変遷を中心として－」『松江考古』第７号　1989

（6）　実年代に関しては，陶邑編年ＴＫ217型式はおよそ７世紀前半が当てられ，また，飛鳥編年は，およそ飛鳥Ⅱが７世紀第２四半期，同Ⅲが７世紀第３四半期，同Ⅳが７世紀第４四半期に相当するとされている。特に飛鳥Ⅰについては山田寺南門造営整地土層出土の遺物がその下限を示すものとして注目されている（山田寺造営641年）。深沢氏の教示による。

（7）　島根県教育委員会『古曽志遺跡群発掘調査報告書－朝日ヶ丘団地造成工事に伴う発掘調査』1989中に土坑墓の可能性のあるものとしてＳＫ０１・０２が報告されている。

（8）　津山市教育委員会外『金井別所遺跡－津山市埋蔵文化財発掘調査報告第25集』　1988

（9）　島根県教育委員会『国道９号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ（中竹矢遺跡）』　1992

（10）　川原和人・桑原真治「島根県斐川町西石橋遺跡の中世墓」『古文化談叢』第18集　1987

（11）　広江耕史「島根県における中世土器について」『松江考古』第８号　松江考古学談話会　1992

（12）　註(11)には，この時期の土坑墓資料がまとめられている。

（13）　松江市教育委員会『出雲国庁跡発掘調査概報』　1971

（14）　平安宮内裏外郭ＳＸ４・ＳＸ９や同左兵衛府ＳＤ４出土の坏に似ている。

（15）　島根県教育委員会『高広遺跡発掘調査報告書』

（16）　これまで出雲市内では上塩冶町上塩冶築山古墳，下古志町天神原古墳，馬木町小坂古墳出土のものの３例がある。近年の柳浦俊一氏の研究に照らせば，第65図－２の小壺の接合方法はａ手法に近いものがある。ａ手法はⅢ期（陶邑編年ＴＫ10新・ＴＫ43）新には少なくなると指摘されている。同氏「島根・鳥取県出土子持壺集成」『島根考古学会誌』第10集　1993。

（17）　益田市石見空港関連の調査では，第63図－４に似た壺が９世紀代のものとして報告されている（島根県教育委員会『石見空港建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』　1992）。また，楢崎彰一編『世界陶磁全集２　日本古代』（小学館　1979）や，田中琢外編『日本陶磁全集４須恵器』（中央公論社）を参考にすると，有蓋壺第45図－14は大阪府堺市陶邑栂43号窯跡出土の短頸壺（８世紀），愛知県三好町黒笹３号窯跡出土の三耳壺（８世紀），愛知県日進町岩崎41号窯出土の壺（８世紀），福井県出土の四耳壺（８世紀）に，第63図－４は茨城県那珂町出土の長頸瓶（９世紀），第63図－５は小松市一貫山２号窯跡出土の広口壺（８世紀），和泉市陶邑光明池60号窯跡出土の台付広口壺（８世紀），第63図－６は陶邑編年ＭＴ21型式（８世紀前葉）の長頸壺の体部に似たものがある。

（18）　註(4)および内田律雄「出雲刈山４号墳と搬入須恵器」『ふぃーるど・のーと』NO.6 本庄考古学研究室　1984

（19）　島根県教育委員会『日脚遺跡－日脚住宅団地予定地内発掘調査報告書』　1985

（20）　田中義昭「益田市西平原窯址群の意義について」『ふぃーるど・のーと』NO.3 本庄考古学研究室　1982

（21）　益田市教育委員会木原光氏の教示による。

三田谷Ⅱ遺跡出土土器の蛍光X線分析

奈良教育大学　三　辻　利　一

1）はじめに

米子市の新山山田遺跡の周辺から出土する須恵器を多数分析したところ，古式須恵器では大阪陶邑産と推定されたものがほとんどであり，古墳時代後期では地元，大井窯群の製品が大半を占め，奈良時代に入ると古曽志窯群のものと思われる須恵器が数多く検出され，須恵器の供給体制に変遷があることが明らかになった。同様のことは広島県三次市周辺の遺跡出土須恵器についても認められた。すなわち，5～6世紀代の須恵器のほとんどは大阪陶邑産と推定されており，8世紀代に入ると，大阪陶邑産の須恵器はほとんど検出されず，逆に，地元産と推定される須恵器がほとんどであった。いま，このように須恵器の供給体制の変遷についてのデータが各地で集積されつつある。

このような研究の一環として，三田谷Ⅱ遺跡出土須恵器を蛍光X線分析した結果について報告する。

2）分析方法と分析結果

須恵器試料片はすべて，表面を研磨して灰釉等の付着物を除去したのち，タングステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉砕された。粉末試料は15トンの圧力を加えてプレスし，内径20㎜，厚さ3～5㎜の錠剤試料を作成して蛍光X線分析を行なった。波長分散型のスペクトロメーター（理学電機製3270型機）を使用した。

標準試料には岩石標準試料ＪＧ－１を使用した。分析値はＪＧ－１による標準化値で表示された。

表１には分析データがまとめられている。３つの母集団について産地推定を試みた。地元，島根県東部地域の代表として池ノ奥窯群，島根県西部地域の代表として本片子窯，それに，６世紀代後半の須恵器も試料中に含まれるところから，大阪陶邑群を選び出した。各母集団の重心からのマハラノビスの汎距離との二乗値はK，Ca，Rb，Srの４因子を使って計算された。その結果も表１に示されている。５％の危険率をかけたHotelling の T^2 検定により，帰属条件を D^2（X）≦10とした。（X）は母集団名である。この帰属条件を入れて産地推定した結果も表１にまとめてある。地元，大井群産と推定されたものは No. 1，2，3，4，5，6，7，8，9，10，11，12，14，16，17，18，19，20，21，22，23，25，27，28，29，30，31，32，33，34の30点である。このうち，No. 5は D^2（池ノ奥）＝12であるが，帰属する可能性はあるとして，（？）を付して大井群産と推定した。また，No. 13は大阪陶邑産と推定された。No. 15，24，26の３点はこれら母集団には帰属せず，産地不明となった。

以上の産地推定の結果は定性的ではあるが，図１のRb－Sr分布図で容易に理解されよう。

	挿図番号	種　別	年　代	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	D(池ノ奥)	D(本片子)	D(大阪陶邑)	推定産地
No 1	39-4	須　恵　器	6C後～7C初	0.392	0.141	2.10	0.461	0.465	0.201	9.3	108	17	大　井　群
2	39-6	須　恵　器	6C後～7C初	0.427	0.166	2.20	0.472	0.527	0.219	3.4	154	24	大　井　群
3	42-2	須　恵　器	6C後～7C初	0.449	0.199	1.70	0.559	0.586	0.244	4.6	148	26	大　井　群
4	42-10	須　恵　器	6C後～7C初	0.444	0.132	1.33	0.553	0.521	0.210	6.5	137	21	大　井　群
5	42-11	須　恵　器	6C後～7C初	0.348	0.157	3.00	0.415	0.459	0.168	12	115	21	大井群(？)
6	42-8	須　恵　器	6C後～7C初	0.469	0.164	1.95	0.570	0.519	0.270	2.9	100	16	大　井　群
7	43-8	須　恵　器	6C後～7C初	0.439	0.178	1.25	0.470	0.638	0.247	7.4	313	48	大　井　群
8	42-4	須　恵　器	6C後～7C初	0.433	0.182	2.11	0.554	0.517	0.205	5.3	91	16	大　井　群
9	42-12	須　恵　器	6C後～7C初	0.518	0.128	1.72	0.694	0.487	0.230	8.9	58	11	大　井　群
10	43-14	須　恵　器	6C後～7C初	0.492	0.160	1.92	0.578	0.535	0.270	1.8	120	18	大　井　群
11	35-2	須　恵　器	7C代	0.402	0.132	1.76	0.480	0.513	0.177	8.2	160	25	大　井　群
12	32-12	須　恵　器	7C代	0.483	0.154	1.42	0.564	0.547	0.269	2.4	147	22	大　井　群
13	45-11	須　恵　器	6C後～7C初	0.388	0.092	2.54	0.458	0.217	0.147	50	35	1.5	大阪陶邑
14	45-13	須　恵　器	6C後～7C初	0.481	0.132	1.70	0.640	0.480	0.230	8.7	63	11	大　井　群
15	45-14	須　恵　器	8C代	0.616	0.030	1.99	0.796	0.187	0.075	54	46	22	不　　明
16	44-1	須　恵　器	6C後～7C初	0.499	0.190	1.95	0.608	0.599	0.311	3.9	154	25	大　井　群
17	44-2	須　恵　器	6C後～7C初	0.373	0.210	2.49	0.428	0.586	0.210	6.2	211	39	大　井　群
18	46-3	須　恵　器	6C後～7C初	0.529	0.136	1.62	0.715	0.510	0.271	9.1	66	12	大　井　群
19	46-1	須　恵　器	6C後～7C初	0.464	0.159	1.73	0.611	0.509	0.243	6.6	77	13	大　井　群
20	47-4	須　恵　器	不　明	0.422	0.176	2.47	0.506	0.528	0.215	4.0	127	21	大　井　群
21	59-10	須　恵　器	6C後～7C初	0.590	0.179	1.80	0.664	0.530	0.402	1.9	78	13	大　井　群
22	59-13	須　恵　器	6C後～7C初	0.513	0.140	1.42	0.660	0.544	0.262	5.8	115	18	大　井　群
23	60-1	須　恵　器	7C代	0.441	0.173	1.65	0.522	0.564	0.221	3.5	166	26	大　井　群
24	61-1	須　恵　器	7・8C代	0.288	0.237	4.74	0.219	0.340	0.215	33	178	28	不　　明
25	61-5	須　恵　器	7・8C代	0.520	0.218	1.69	0.651	0.571	0.288	3.6	83	15	大　井　群
26	63-5	須　恵　器	8・9C代	0.658	0.157	1.51	0.239	0.505	0.287	140	463	74	不　　明
27	63-6	須　恵　器	8・9C代	0.465	0.176	1.94	0.566	0.493	0.249	3.0	72	11	大　井　群
28	63-4	須　恵　器	8・9C代	0.563	0.100	1.35	0.671	0.409	0.193	9.2	35	8.3	大　井　群
29	64-6	須　恵　器	不　明	0.574	0.103	1.33	0.690	0.434	0.200	7.5	46	10	大　井　群
30	66-12	須　恵　器	不　明	0.503	0.179	1.49	0.629	0.594	0.335	5.0	148	24	大　井　群
31	66-5	須　恵　器	不　明	0.549	0.170	1.83	0.668	0.523	0.331	2.2	69	12	大　井　群
32	67-3	須　恵　器	不　明	0.430	0.188	2.73	0.501	0.541	0.209	2.6	136	22	大　井　群
33	67-5	須　恵　器	不　明	0.462	0.170	2.23	0.544	0.536	0.241	2.2	125	19	大　井　群
34	66-3	須　恵　器	不　明	0.506	0.221	1.40	0.595	0.603	0.339	2.7	139	23	大　井　群
35		瓦	近　代	0.372	0.041	2.72	0.396	0.156	0.061				
36		土　師　器		0.472	0.114	1.06	0.466	1.96	0.372				
37		土　師　器		0.573	0.290	1.32	0.693	0.782	0.306				
38		土　師　器	赤色塗彩	0.569	0.434	1.61	0.649	1.04	0.299				
39		土　師　器		0.571	0.448	1.57	0.558	1.12	0.210				
40		土　師　器		0.547	0.272	1.40	0.691	0.890	0.259				

表1　三田谷Ⅱ遺跡出土土器の分析データ

6～7世紀代初と年代列定された須恵器の中に1点，大阪陶邑産が含まれているが，他はすべて地元，大井窯群産であった。したがって，この時期に大井窯群は活発に須恵器生産を行ったことを物語る。8・9世紀代の須恵器の中にも大井群産は含まれる。これに対して産地不明となったのはいずれも，8世紀代，8～9世紀代の須恵器である点も注目される。3点の不明品のうち，№ 24，26は同じ地域で作られた須恵器の可能性をもつが，№ 15は全く別の地域の窯の製品である。

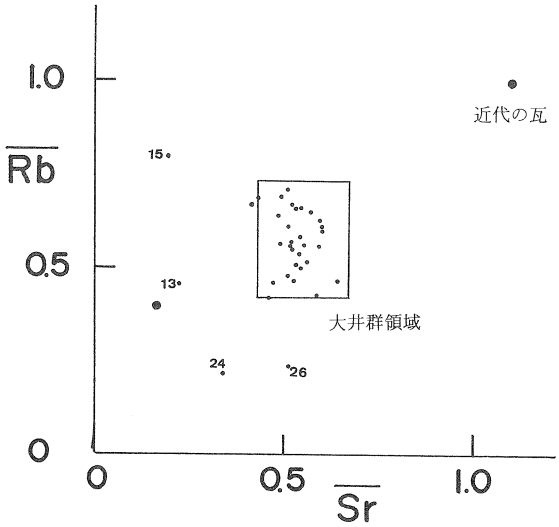
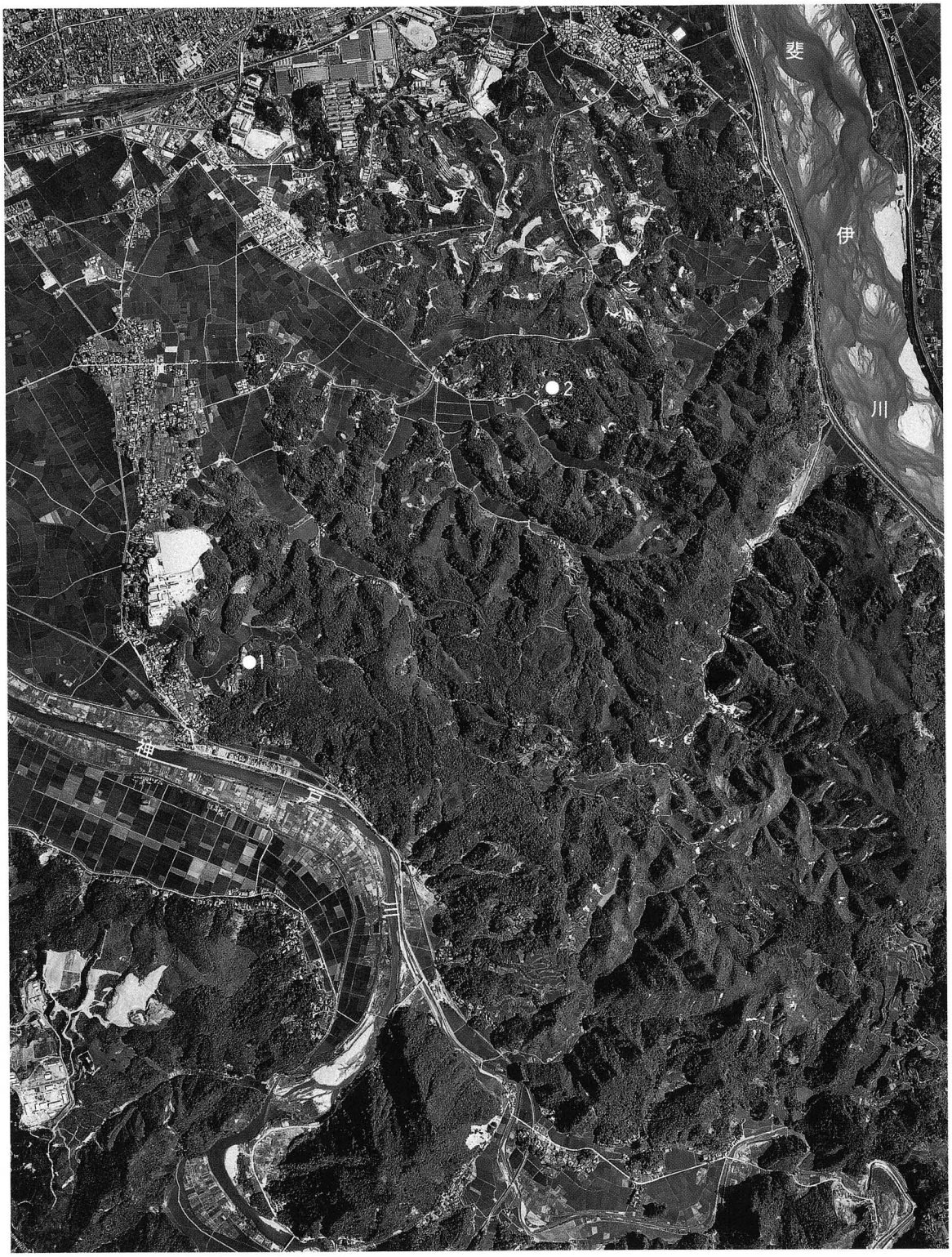


図1　三田谷Ⅱ遺跡出土須恵器のＲｂ－Ｓｒ分布図

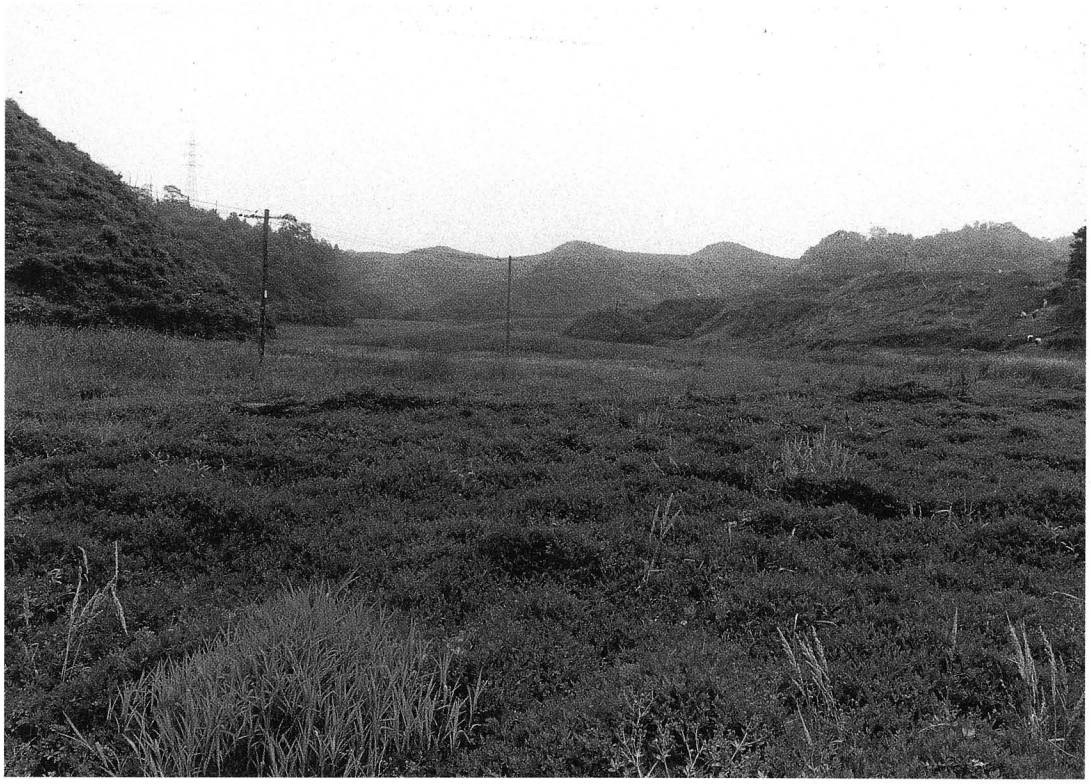
なお，土師器については表1からもわかるように，今回分析した土師器胎土は類似しており，同じところで作られたものである可能性が高いという程度の情報にとどめておく。近世の瓦の胎土とは全く異なっており，目下のところ，関連がないという他はない。

図　　版



斐伊川放水路開削部予定地とその周辺の空中写真（1　三田谷Ⅱ遺跡，2　上沢Ⅰ遺跡）

図版 2



三田谷全景（南西から）

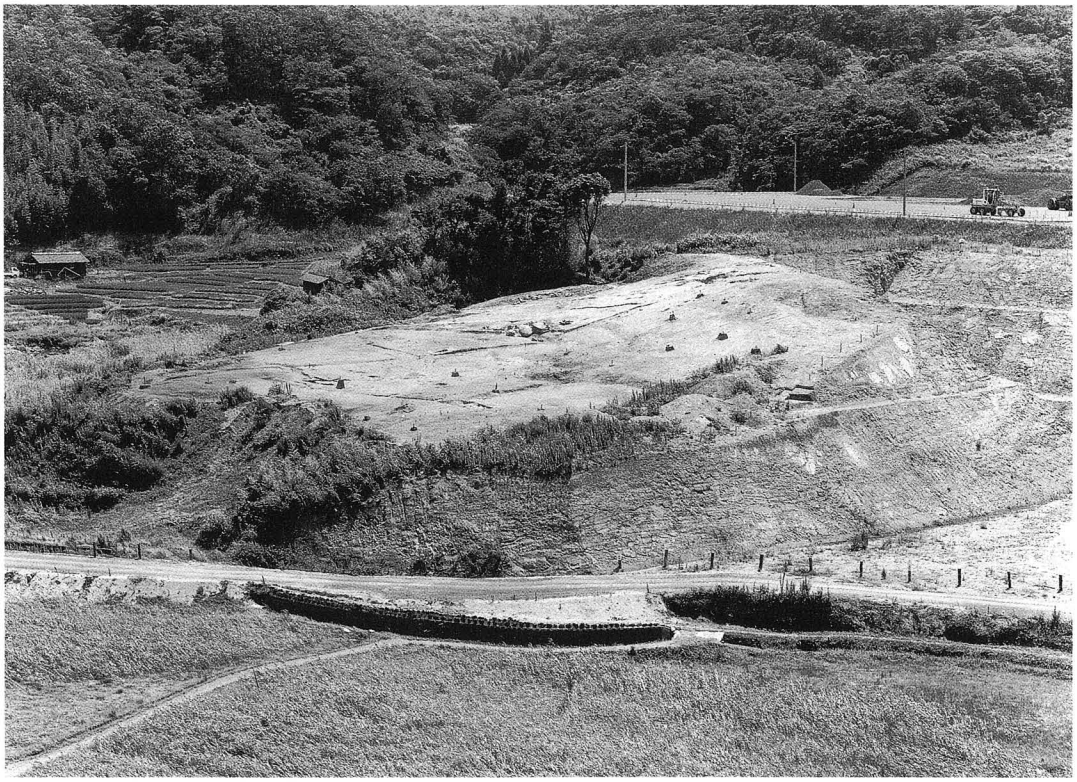
同　　上（北東から）

三田谷Ⅱ遺跡調査前全景（西から）

試掘調査時の三田谷Ⅱ遺跡（北から）

図版 4

三田谷Ⅱ遺跡 1 区調査後全景（北東から）



同　　上（西から）

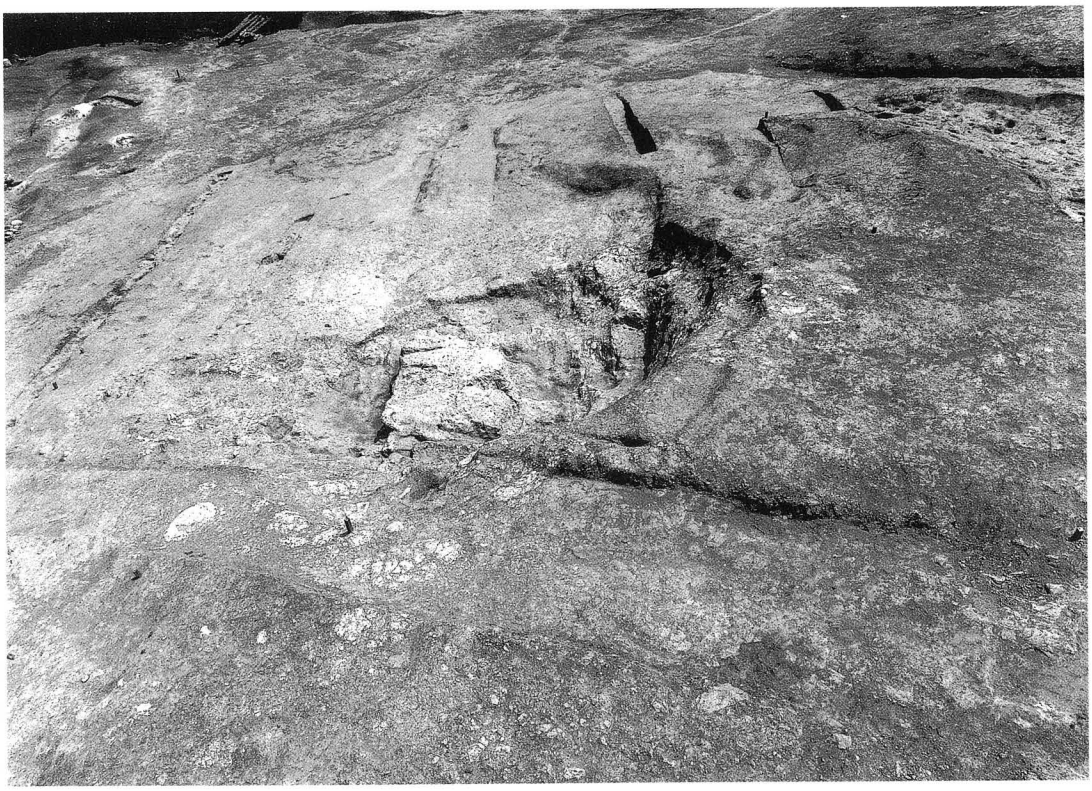
１区ＳＸ０１検出状況（北西から）

図版６

１区ＳＸ０１検出状況（北東から）

同　　上（南西から）

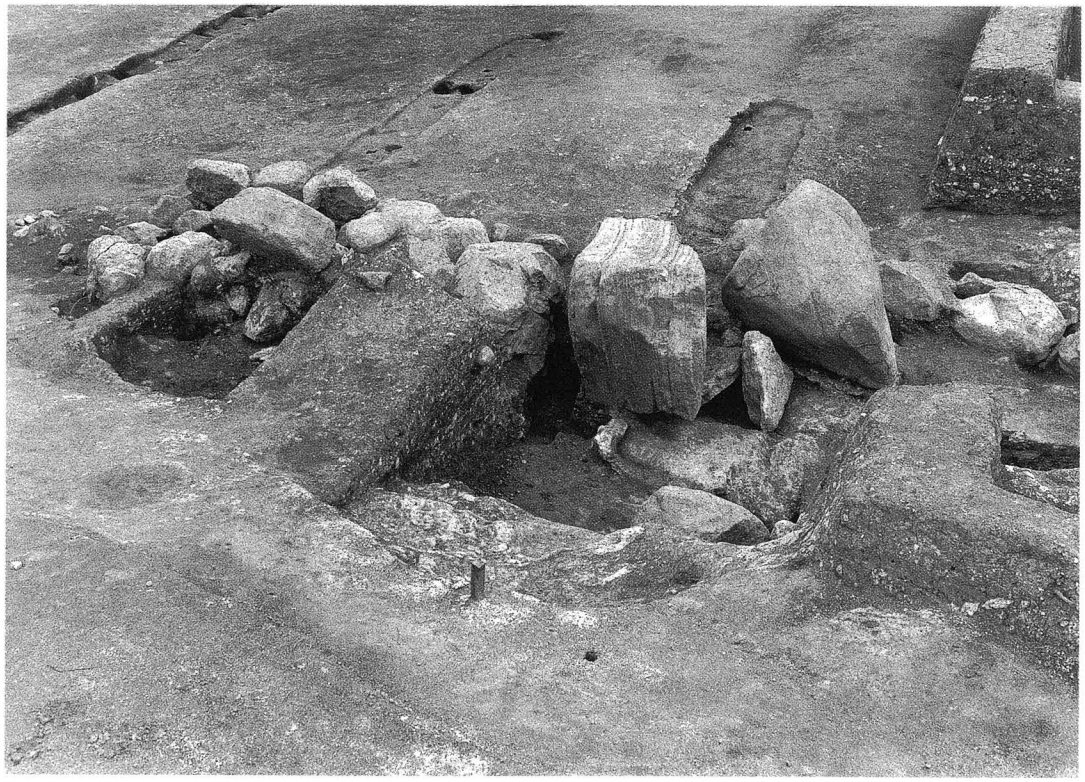
１区ＳＸ０１完掘状況（北東から）



同　　上（南西から）

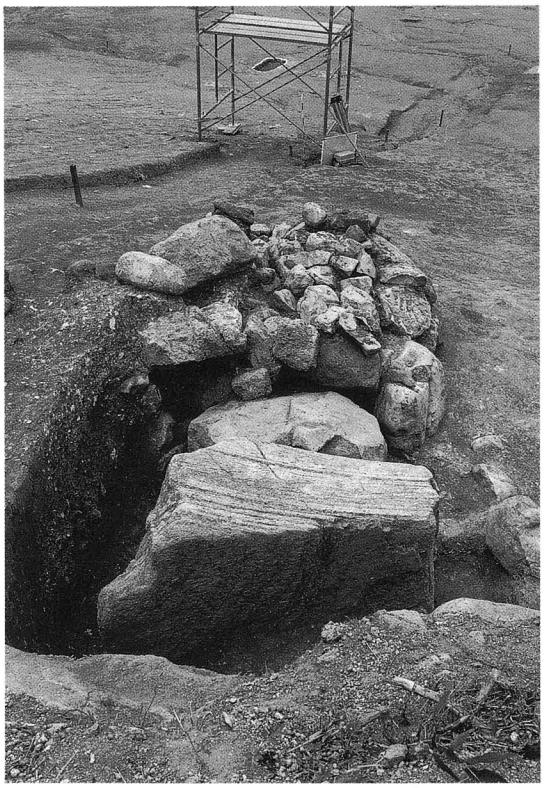
図版８

１区ＳＸ０１石室検出状況（北東から）



同　　上（南から）

１区ＳＸ０１羨道部集石状況（北西から）

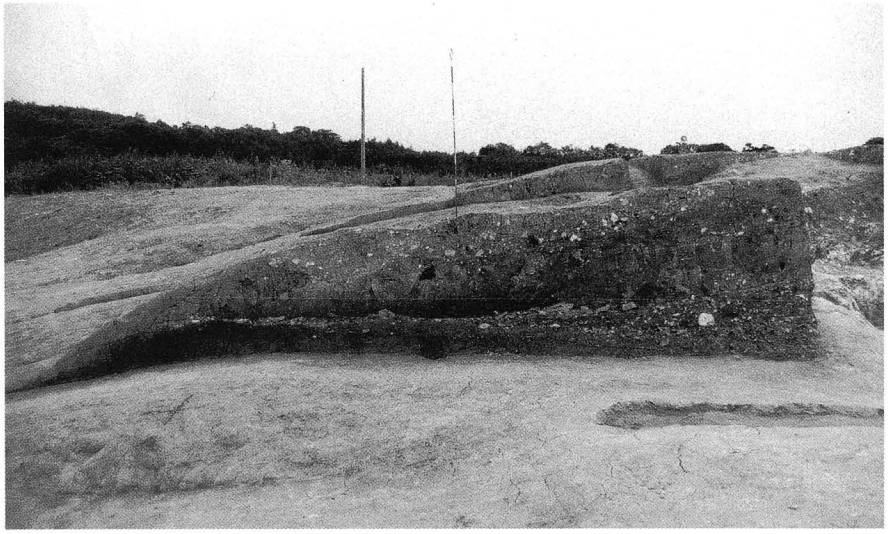


同　　上（南東から）

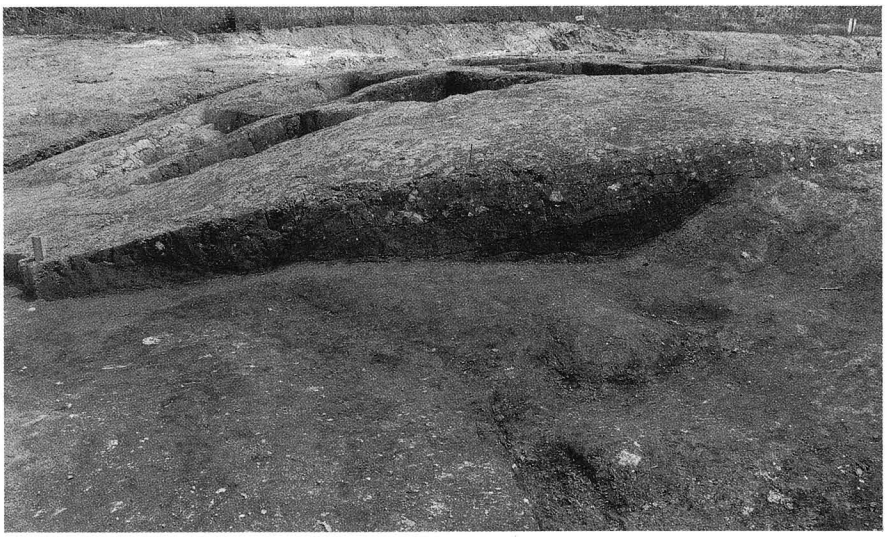
１区ＳＸ０１検出状況（北西から）

図版10

１区ＳＸ０１
墳丘土層
Ｂライン
（北西から）



同上Ｂライン
（北西から）



同上Ｅライン
（北西から）

１区ＳＸ０１
墳丘土層
Ａライン
（北東から）

同上Ｃライン
（南東から）

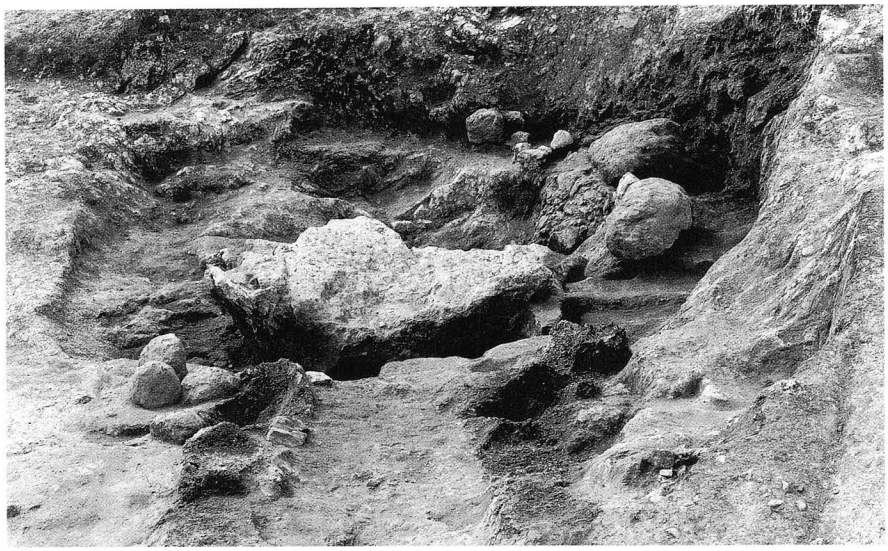
同上Ｄライン
（南西から）

図版12

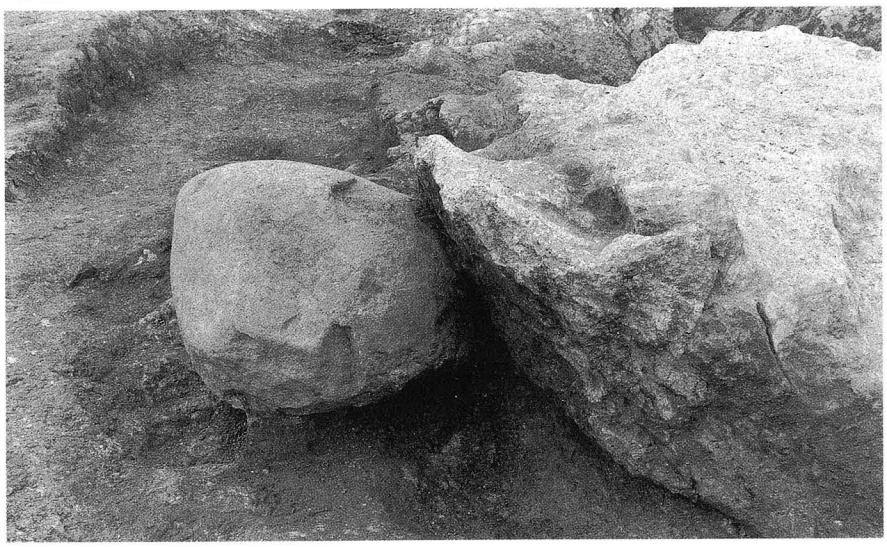
１区ＳＸ０１玄室部掘り方検出状況（北東から）

同上玄室部石材除去作業

１区ＳＸ０１
玄室部掘り方
検出状況
（南東から）



同上
（北東から）



同上左側面
掘り込み状況
（北から）

図版14

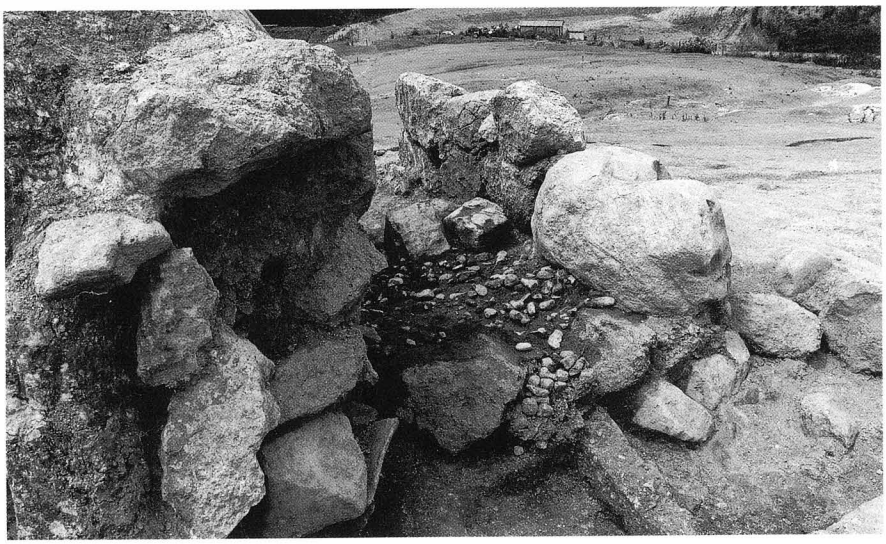
１区ＳＸ０１
羨道部側壁
検出状況
（北西から）

同上右側壁
（北東から）

同上左側壁
（南西から）

1区ＳＸ０１
羨道部検出状況
（北西から）

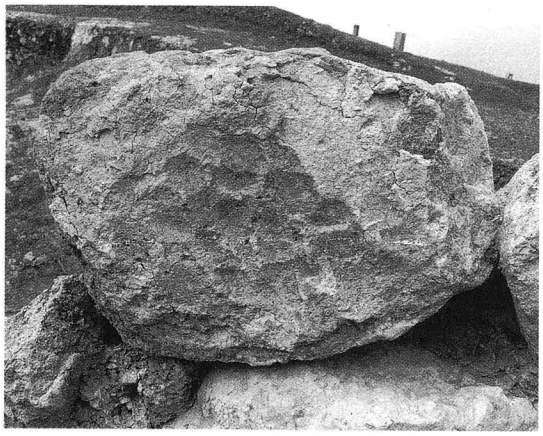
同上（東から）



同上（南から）

図版16

１区ＳＸ０１羨道部右側壁石ｂ加工痕（北から）



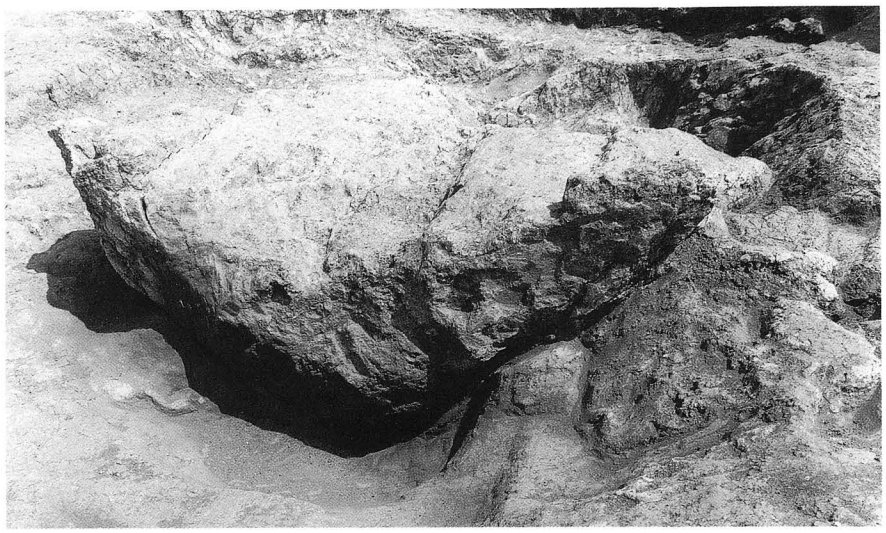
同左正面（北東から）

同上右側壁石ａ加工痕（北から）

同左正面（北東から）

同上右側壁石ｃ裏面加工痕（西から）

同左上面（上方から）



1区ＳＸ０１
玄室部掘り方
掘削痕ａ
（北東から）

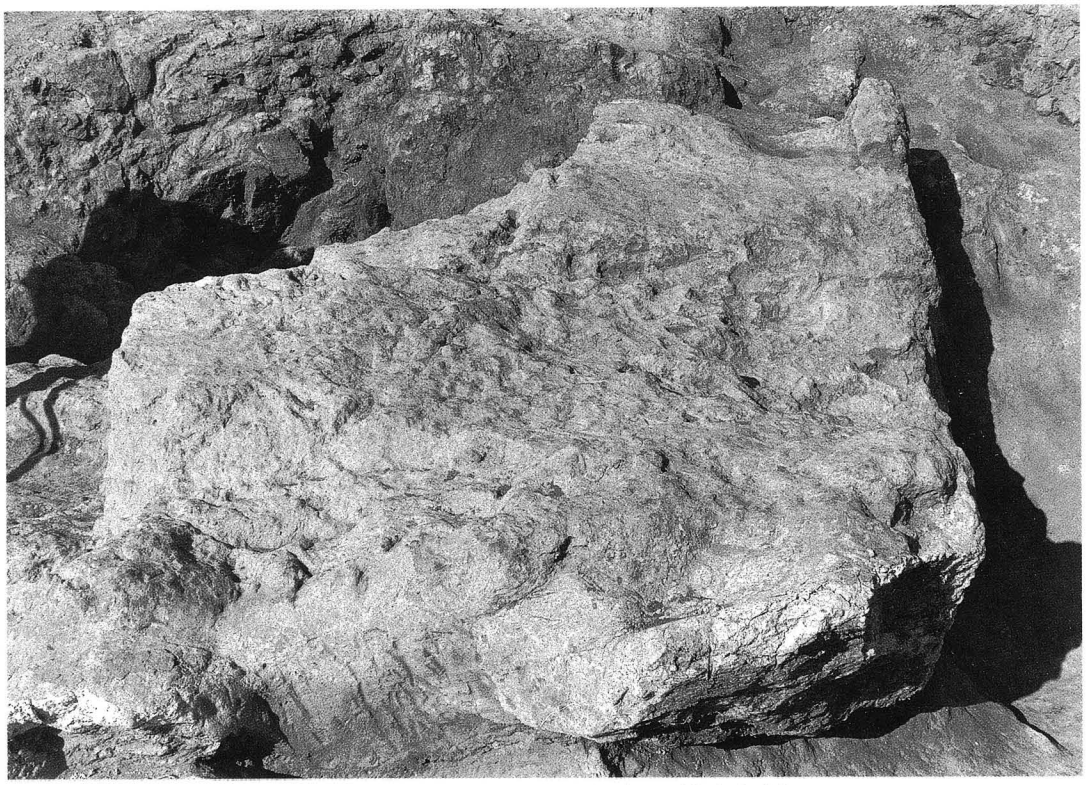
同上掘削痕ｂ
（北から）

同上掘削痕ｃ
（西から）

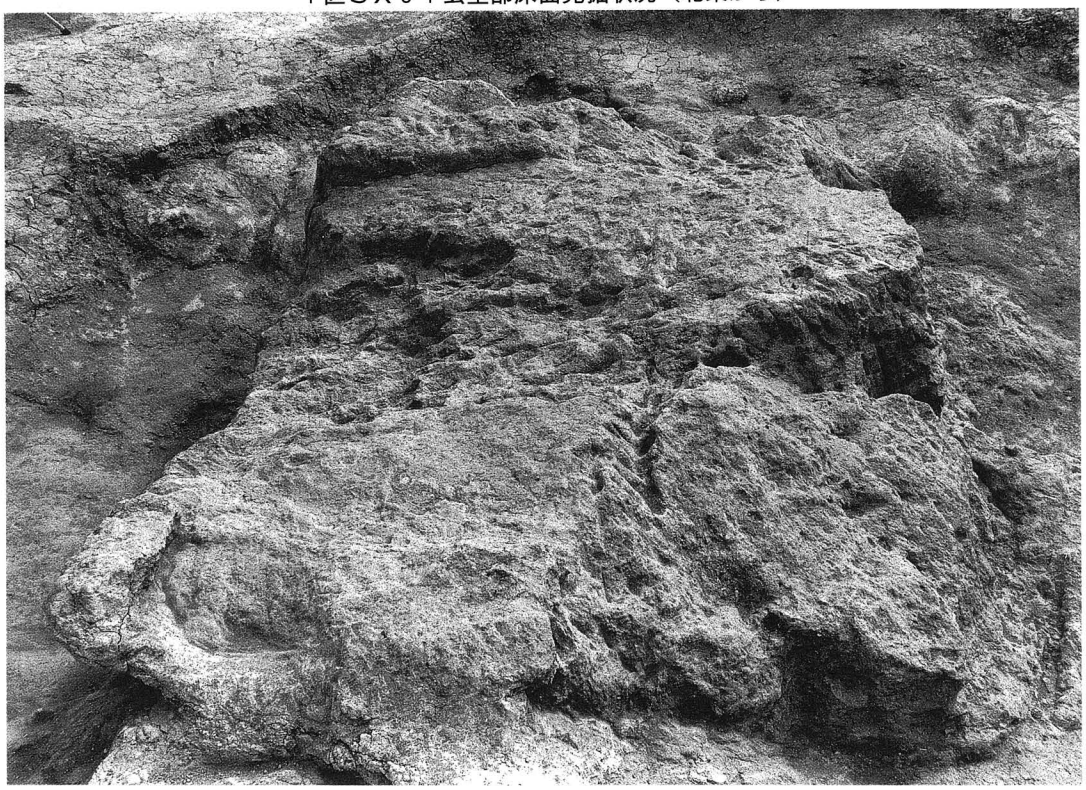
図版18

１区ＳＸ０１玄室部床面完掘状況（北西から）

同　　上（南東から）



１区ＳＸ０１玄室部床面完掘状況（北東から）



同　　上（南西から）

図版20

1区土坑墓・土坑群全景（北東から）．

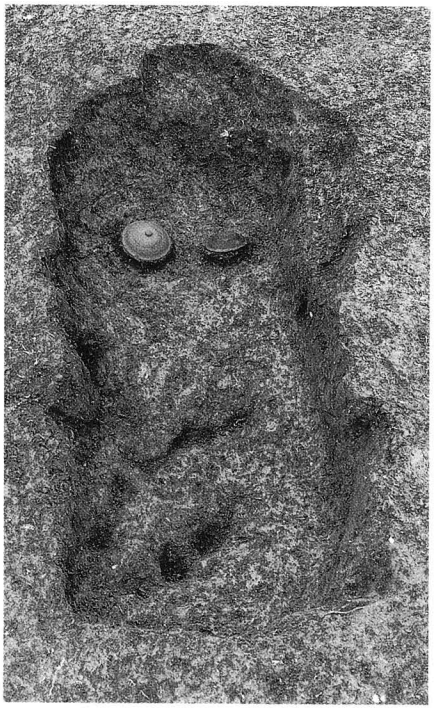
同上近景（南から）

1区土坑墓・土坑群近景（南西から）

同　　上（南東から）

図版22

１区ＳＸ０２検出状況（北から）



１区ＳＸ０３検出状況（西から）

１区ＳＸ０４検出状況（南から）

１区ＳＸ０２検出状況（西から）

１区ＳＸ０３検出状況（北から）

１区ＳＸ０４完掘状況（東から）